

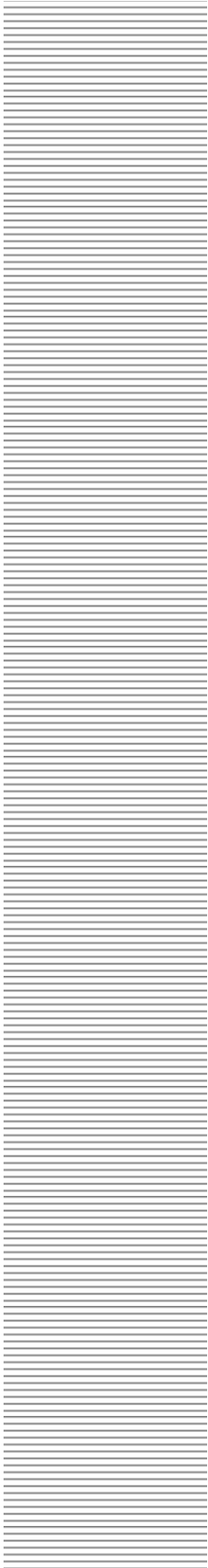
川西市市民実感調査 調査結果報告書

平成 24 年3月

兵庫県 川西市

目次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	2
2.	調査設計	2
3.	回収結果	2
4.	報告書の見方	3
5.	質問項目の追加及び表現変更について	3
II	調査結果の総括	5
1.	現行総合計画の総括の視点による実感指標の分析	6
補足1	：中・長期推移（平成14年度から平成23年度の変化）の考え方	20
補足2	：短期推移（平成22年度から平成23年度の変化）の考え方	22
2.	幸せを実感できる生活のために市民が重視する事項の分析	23
III	調査結果	27
○	回答者の属性	28
1.	健康福祉	30
2.	教育文化	48
3.	環境	66
4.	快適安全	78
5.	産業活力	92
6.	自治体経営	96
○	幸せ実感	120
IV	小学校区別集計	123
1.	久代小学校区	124
2.	加茂小学校区	139
3.	川西小学校区	154
4.	桜が丘小学校区	169
5.	川西北小学校区	184
6.	明峰小学校区	199
7.	多田小学校区	214
8.	多田東小学校区	229
9.	緑台小学校区	244
10.	陽明小学校区	259
11.	清和台小学校区	274
12.	清和台南小学校区	289
13.	けやき坂小学校区	304
14.	東谷小学校区	319
15.	牧の台小学校区	334
16.	北陵小学校区	349
V	調査票	365



I 調査の概要

1. 調査の目的

平成 15 年度からスタートした第 4 次総合計画においては、まちづくりの課題を明らかにし、市民や市民団体、事業者、行政などがそれぞれできることを行い、協働してまちづくりを進めることとしています。

そこで本調査は、市民の日常生活における「実感」を毎年調査することにより、協働によるまちづくりを進めるために設定した「ともにめざそうとする具体的な目標」の達成度を測定し、総合計画の進捗状況や目標の妥当性を評価するための基礎資料としようとするものです。

2. 調査設計

- 調査対象者 : 川西市に住む 16 歳以上の市民
(住民基本台帳から無作為抽出 ※外国人も含む)
- 対象者数 : 1,000 人
- 調査期間 : 平成 24 年 2 月 15 日 (調査票発送)
~平成 24 年 2 月 27 日 (返送締め切り日)
- 調査方法 : 調査票による本人記入方式
郵送配布・郵送回収による郵送調査方法

3. 回収結果

調査対象者数(配布数)	到達数	回収数	回収率
1,000	997	534	53.6%

4. 報告書の見方

- 回答結果は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答の占める割合を示しています。小数第2位を四捨五入しているため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 平成23年度の実績値は、それぞれ再集計しているため、選択肢ごとの合計値と一致しない場合があります。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- グラフ及び表のN数（number of case）、「サンプル数」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- グラフ中の回答割合について、グラフが煩雑になる場合は省略しています。

5. 質問項目の追加及び表現変更について

- 今回の調査において、問41、44、45を新規に追加しており、また、問42、43は以下のとおり表現・集計を変更しています。

「問41 自分の住んでいるまちをより良くしていくために、自治会やボランティア活動などの市民活動に参加していますか。」

⇒「問42（3）自分の住んでいるまちをより良くしていくために、自治会やボランティア活動などの市民活動に参加していますか。」へ移行しています。

「問42 あなたの周りでは福祉や環境、まちづくりなどの市民活動は活発ですか。」

⇒「問43 あなたの周りでは自治会やボランティア活動などの市民活動は活発ですか。」へ変更しています。



Ⅱ 調査結果の総括

1. 現総合計画の総括の視点による実感指標の分析

(1) 分析の視点と着目点

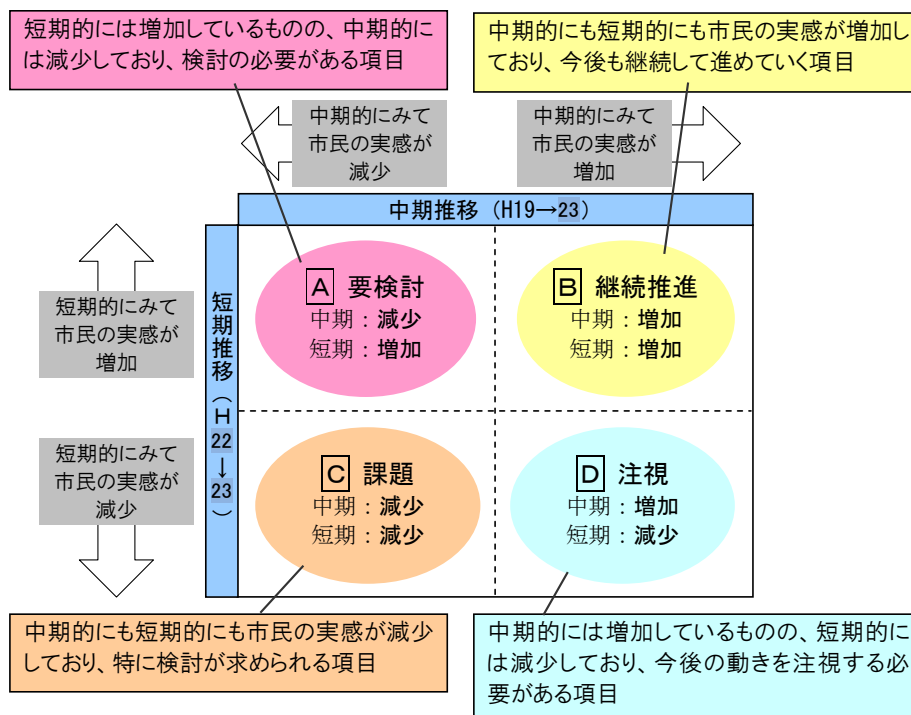
平成 15 年度から 19 年度までの前期基本計画において、協働によるまちづくりを進めるために設定した「施策評価指標」（市民と行政の協働の結果を表す指標）について、市民のみなさんの日常生活における「協働の実感」を毎年調査し、総合計画の進捗状況や目標の妥当性を評価する際の基礎資料にしてまいりました。平成 19 年度には指標の検証を行い、指標の新規での追加・変更を行いました。平成 20 年度からスタートした後期基本計画についても、前期基本計画の達成状況を踏まえ、施策ごとに現状と課題を明らかにしながら、その方針と目標及び施策評価指標を設定しています。

今年度調査においては、後期基本計画の総括とともに、第 4 次川西市総合計画の総括として、これまでの施策評価指標を概観します。

まず、今回の調査設問である 46 項目中 42 項目を 2 つの視点から分類を行いました※。一つ目は、後期基本計画の策定年度にあたる平成 19 年度調査からの数値が増加したのか、減少したのかという視点（中期推移視点）で、もう一つの視点は昨年度（平成 22 年度）調査からの推移（短期推移視点）です。平成 19 年度からの推移を横軸に、昨年度からの推移を縦軸にとり、それぞれ 2 分割することで調査設問 42 項目を 4 類型に分類します。

※問 41 については平成 23 年度からの設問のため、また、問 44、45、46 については「幸福度」に関する調査項目であるため、当該分類の対象外とする。

■中期・短期による施策評価の四分表の見方



※中期推移及び短期推移の考え方については、P. 21～23 の補足 1 及び 2 を参照。
 ※上記の区分については、あくまで平成 23 年度調査項目の中の相対的な位置関係を示すために便宜上設定した分類であり、A～D は絶対的な区分ではない。

(2) 中期推移と短期推移の四分類整理

平成 19 年度からの推移（中期推移）では、30 項目（B：継続推進＋D：注視）で増加、12 項目（A：要検討＋C：課題）で減少となり、平成 22 年度からの推移（短期推移）では、27 項目（A：要検討＋B：継続推進）で増加、15 項目（C：課題＋D：注視）で減少となりました。

4 類型ごとにみると、「A：要検討」には 6 項目が分類されており、「教育文化（全 9 項目）」のうちの 3 項目が含まれ、その他の分野は 0～2 項目となっています。

「B：継続推進」には 21 項目が分類され、「健康福祉（全 9 項目）」のうち 6 項目、「環境共生」の 6 項目すべてが含まれ、その他の分野は 1～4 項目となっています。

「C：課題」には 6 項目が分類されており、「教育文化（全 9 項目）」のうちの 3 項目、「快適安全（全 7 項目）」のうち 2 項目が含まれ、その他の分野は 0～1 項目となっています。

「D：注視」には 9 項目が分類されており、「自治体経営（全 9 項目）」のうちの 4 項目が含まれ、その他の分野は 0～2 項目となっています。

■調査項目の中期・短期推移による施策評価の四分類表

		中期推移 (H19→23)	
		市民の実感が減少しているもの	市民の実感が増加しているもの
短期推移 (H22→23)	市民の実感が増加しているもの	A：要検討 (項目) 【健康福祉分野】 問 1、5 【教育文化分野】 問 11、12、14 【快適安全分野】 問 29	B：継続推進 (項目) 【健康福祉分野】 問 2、3、4、7、8、9 【教育文化分野】 問 18 【環境共生分野】 問 19、20、21、22、23、24 【快適安全分野】 問 26、28、30 【産業活力分野】 問 33 【自治体経営分野】 問 35、36、39、43
	市民の実感が減少しているもの	C：課題 (項目) 【教育文化分野】 問 13、16、17 【快適安全分野】 問 25、31 【自治体経営分野】 問 42	D：注視 (項目) 【健康福祉分野】 問 6 【教育文化分野】 問 10、15 【快適安全分野】 問 27 【産業活力分野】 問 32 【自治体経営分野】 問 34、37、38、40

①「A：要検討（中期：減少、短期：増加）」

「A：要検討」には全部で6項目が分類されており、「問5：地域で高齢者や障がい者、児童等を見守り、支援する仕組みができていると感じている市民の割合」や、「問11：保護者や地域の声が学校運営に反映されていると感じている市民の割合」といった地域に関する項目が多くなっていることが分かります。

また、「問12：小・中学校が開催する地域交流事業に参加している市民の割合」は目標値との差が30ポイント以上開いています。

さらに、「問5：地域で高齢者や障がい者、児童等を見守り、支援する仕組みができていると感じている市民の割合」や「問14：生涯学習の条件が整備されていると感じている市民の割合」は平成19年度から平成23年度の中期の減少幅がそれぞれ2ポイントと大きくなっています。

■「A：要検討」に含まれる項目

分野	設問	実績値 (H19)	実績値 (H22)	本調査 (H23)	目標値 (H24)	目標値 との差
健康 福祉	問1：健康づくりに意識的に取り組んでいる市民の割合	80.3%	76.5%	79.8%	83.0%	-3.2
	問5：地域で高齢者や障がい者、児童等を見守り、支援する仕組みができていると感じている市民の割合	38.6%	33.0%	36.7%	50.0%	-13.3
教育 文化	問11：保護者や地域の声が学校運営に反映されていると感じている市民の割合	18.5%	16.0%	17.2%	20.0%	-2.8
	問12：小・中学校が開催する地域交流事業に参加している市民の割合	20.8%	19.0%	19.5%	50.0%	-30.5
	問14：生涯学習の条件が整備されていると感じている市民の割合	20.4%	16.8%	18.4%	21.0%	-2.6
快適 安全	問29：主に鉄道やバスなどの公共交通機関を利用している市民の割合	52.2%	49.8%	50.9%	60.0%	-9.1

※「実績値 (H19)」および「目標値 (H24)」は後期基本計画による。

②「B：継続推進（中期・短期ともに増加）」

「B：継続推進」には全部で21項目が分類されており、「問20：歩道や道路がきれいだと感じている市民の割合」や「問21：ごみ収集・処分に対する満足度」、「問26：今住んでいる住宅や周りの環境に満足している市民の割合」など都市インフラに関わる項目が多くなっていることが分かります。

このうち、すでに後期基本計画における平成24年度の目標値を上回っているものは「問24：川西の水が安心して飲めると感じている市民の割合」や「問30：地震や火災などの災害に対する備えができていない市民の割合」など12項目となっています。一方、「問35：一人ひとりの人権が尊重されていると感じている市民の割合」は目標値より9.1ポイント低い値に留まっています。

■「B：継続推進」に含まれる項目

分野	設問	実績値 (H19)	実績値 (H22)	本調査 (H23)	目標値 (H24)	目標値 との差
健康 福祉	問2：定期的に歯の検診を受けている市民の割合	34.4%	37.4%	39.0%	40.0%	-1.0
	問3：市内の医療環境に満足している市民の割合	48.3%	49.3%	<u>55.5%</u>	55.0%	+0.5
	問4：かかりつけ医を持っている市民の割合	72.1%	70.6%	73.4%	75.0%	-1.6
	問7：小さな子どもを連れた人や高齢者、障がいがある人たちにとって、市内の施設や道路は安全に利用しやすいと感じている市民の割合	26.1%	25.2%	27.1%	-	
	問8：高齢者が生きがいを持って生活できると感じている市民の割合	19.7%	22.8%	<u>25.3%</u>	22.0%	+3.3
	問9：子育てがしやすいと感じる市民の割合	22.7%	23.5%	<u>31.8%</u>	30.0%	+1.8
教育 文化	問18：過去1年間に継続してスポーツをした市民の割合	26.0%	25.2%	29.6%	32.5%	-2.9

※「実績値（H19）」および「目標値（H24）」は後期基本計画による。

※「目標値（H24）」を上回っている項目に下線を施している。

■「B：継続推進」に含まれる項目（続き）

分野	設問	実績値 (H19)	実績値 (H22)	本調査 (H23)	目標値 (H24)	目標値 との差
環境 共生	問 19：環境に配慮した行動を心がけている市民の割合	89.3%	86.4%	89.7%	93.5%	-3.8
	問 20：歩道や道路がきれいだと感じている市民の割合	60.6%	67.5%	<u>67.9%</u>	62.4%	+5.5
	問 21：ごみ収集・処分に対する満足度	73.9%	81.1%	83.3%	80.0%	+3.3
	問 22：公園を満足して利用している市民の割合	17.1%	15.0%	<u>19.5%</u>	19.0%	+0.5
	問 23：緑が豊かなまちだと感じている市民の割合	74.9%	77.4%	<u>78.1%</u>	75.0%	+3.1
	問 24：川西の水が安心して飲めると感じている市民の割合	67.3%	73.1%	<u>77.1%</u>	70.0%	+7.1
快適 安全	問 26：今住んでいる住宅や周りの環境に満足している市民の割合	68.2%	71.9%	73.4%	75.0%	-1.6
	問 28：幹線道路で円滑な交通が確保されていると感じている市民の割合	60.3%	62.6%	<u>62.9%</u>	62.0%	+0.9
	問 30：地震や火災などの災害に対する備えができている市民の割合	31.8%	36.1%	<u>37.2%</u>	30.0%	+7.2
産業 活力	問 33：意欲を持って仕事に励んでいる市内勤労者の割合	77.8%	79.9%	<u>81.9%</u>	80.0%	+1.9
自治体 経営	問 35：一人ひとりの人権が尊重されていると感じている市民の割合	41.6%	46.1%	50.9%	60.0%	-9.1
	問 36：性別役割分担を否定する市民の割合	51.3%	51.0%	52.1%	52.3%	-0.2
	問 39：市の情報の入手度	47.0%	53.6%	<u>53.8%</u>	50.0%	+3.8
	問 43：市民活動が活発だと感じている市民の割合	41.5%	36.1%	42.9%	55.0%	-12.1

※「実績値 (H19)」および「目標値 (H24)」は後期基本計画による。

※「目標値 (H24)」を上回っている項目に下線を施している。

③「C：課題（中期・短期ともに減少）」

「C：課題」には6項目が分類されており、「問13：家庭・地域・学校が連携して、子どもたちの成長を見守っていると感じている市民の割合」では目標値との差が20ポイント以上開いており、「問16：過去1年間に芸術・文化施設を訪れた市民の割合」、「問42(3)：自治会やボランティア活動などの市民活動に参加している市民の割合」では目標値との差が10ポイント以上開いています。

■「C：課題」に含まれる項目

分野	設問	実績値 (H19)	実績値 (H22)	本調査 (H23)	目標値 (H24)	目標値 との差
教育 文化	問13：家庭・地域・学校が連携して、子どもたちの成長を見守っていると感じている市民の割合	50.5%	50.0%	48.5%	75.0%	-26.5
	問16：過去1年間に芸術・文化施設を訪れた市民の割合	57.4%	56.0%	54.5%	65.0%	-10.5
	問17：川西の歴史に興味がある市民の割合	67.0%	68.2%	64.0%	70.0%	-6.0
安全 快適	問25：川西の景観に関心がある市民の割合	83.6%	80.6%	80.3%	85.0%	-4.7
	問31：消費者トラブルに遭わない心構えができていると感じている市民の割合	90.7%	92.7%	89.7%	91.0%	-1.3
自治体 経営	問42(3)：自治会やボランティア活動などの市民活動に参加している市民の割合	47.8%	45.7%	38.2%	55.0%	-16.8

※「実績値（H19）」および「目標値（H24）」は後期基本計画による。

④「D：注視（中期：増加、短期：減少）」

「D：注視」には9項目が分類されており、「問6：福祉ボランティア活動に参加したことがある市民の割合」や「問10：住んでいる地域の学校の様子を知っている市民の割合」などが含まれています。

この9項目のうち、「問15：過去1年間に継続して生涯学習に取り組んだ市民の割合」が、平成24年度の目標値を13.4ポイント上回っています。

また短期の減少幅が大きいものとして、「問27：生活道路が安心して通行できると感じている市民の割合」が約5ポイント、「問34：姉妹都市（千葉県香取市）の認知度」、「問10：住んでいる地域の学校の様子を知っている市民の割合」がそれぞれ約3ポイントとなっており、今後の動向を注視する必要があります。

■「D：注視」に含まれる項目

分野	設問	実績値 (H19)	実績値 (H22)	本調査 (H23)	目標値 (H24)	目標値 との差
健康 福祉	問6：福祉ボランティア活動に参加したことがある市民の割合	23.4%	27.7%	25.0%	33.0%	-8.0
教育 文化	問10：住んでいる地域の学校の様子を 知っている市民の割合	32.4%	35.5%	32.6%	35.0%	-2.4
	問15：過去1年間に継続して生涯学習 に取り組んだ市民の割合	19.0%	34.2%	<u>32.4%</u>	19.0%	+13.4
快適 安全	問27：生活道路が安心して通行でき ると感じている市民の割合	52.8%	60.5%	<u>55.6%</u>	55.0%	+0.6
産業 活力	問32：主に市内で買い物をする市民の 割合	86.9%	88.1%	87.7%	90.0%	-2.3
自治体 経営	問34：姉妹都市（千葉県香取市）の認 知度	4.7%	9.0%	<u>5.8%</u>	5.0%	+0.8
	問37：社会全体における男女の地位の 平等感	17.6%	20.7%	20.4%	21.6%	-1.2
	問38：姉妹都市（米国ボーリング・グ リーン市）の認知度	4.7%	6.6%	4.7%	5.0%	-0.3
	問40：市民と行政のコミュニケーション が図れていると感じている市 民の割合	10.7%	16.0%	<u>15.9%</u>	15.7%	+0.2

※「実績値（H19）」および「目標値（H24）」は後期基本計画による。

※「目標値（H24）」を上回っている項目に下線を施している。

(3) 後期基本計画における目標値の達成見込状況

42項目の目標達成状況についてみると、全体では平成19年度時点で設定された目標値をすでに上回っている項目が16項目あります。

分野別にみると、「環境共生」で6項目中5項目、「産業活力」で2項目中1項目と、2分野では半分以上の項目においてすでに目標値を上回っています。

一方、「健康福祉」や「教育文化」「快適安全」「自治体経営」では目標を上回っている項目が少なくなっています。

■各分野、四分類での目標達成状況

	A：要検討 中期は減少、 短期は増加	B：継続推進 中期・短期 ともに増加	C：課題 中期・短期 ともに減少	D：注視 中期は増加、 短期は減少	合計 (うち目標達成)
健康福祉 問1～9	2	6 (3)	0	1	9 (3)
教育文化 問10～18	3	1	3	2 (1)	9 (1)
環境共生 問19～24	0	6 (5)	0	0	6 (5)
快適安全 問25～31	1	3 (2)	2	1 (1)	7 (3)
産業活力 問32・33	0	1 (1)	0	1	2 (1)
自治体経営 問34～40 42・43	0	4 (1)	1	4 (2)	9 (3)
合計 (うち目標達成)	6 (0)	21 (12)	6 (0)	9 (4)	42 (16)

※カッコ内の数値は、平成23年度時点で平成24年度目標値を上回った項目の数。

(4) 「C：課題（中期・短期ともに減少）」における小学校区別の傾向

参画と協働のまちづくりを推進するにあたり、地域（小学校区）別に市全体の傾向と差異がみられる項目を分析対象とします。特に、「C：課題」として分類された項目のうち、地域特性に左右されることが考えられる「問 13：家庭・地域・学校が連携して、子どもたちの成長を見守っていますか。」「問 25：市内の都市景観や自然景観を守ったり育てたりすることに関心がありますか。」「問 42(3)：自治会やボランティア活動などの市民活動に参加していますか。」に着目します。

■小学校区別分布図の見方 その1 ～分布図の形態による2つの類型～

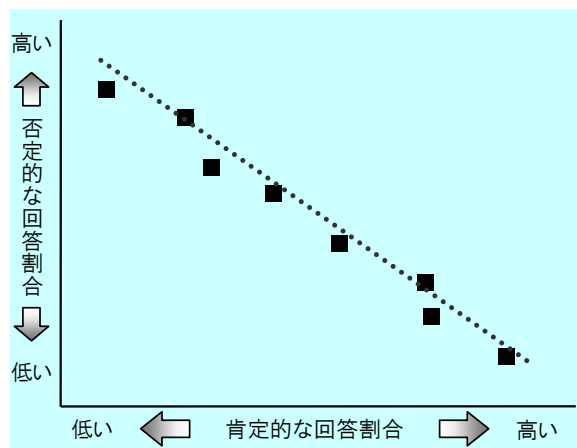
横軸に肯定的な回答の割合、縦軸に否定的な回答の割合をとって分布図を作成すると、分布図の形態により小学校区ごとの状況を以下の2類型で捉えることができます。

●類型1：小学校区ごとの状況が捉えやすい項目（右肩下がりの直線状に分布する）

選択肢の中に「わからない」が無い設問や、「無回答」が少なかった設問が該当します。

肯定的な回答の割合と否定的な回答の割合の合計が100%に近くなるため、小学校区ごとの点は右肩下がりの直線状に分布します。

比較的、小学校区別の状況が捉えやすい項目です。

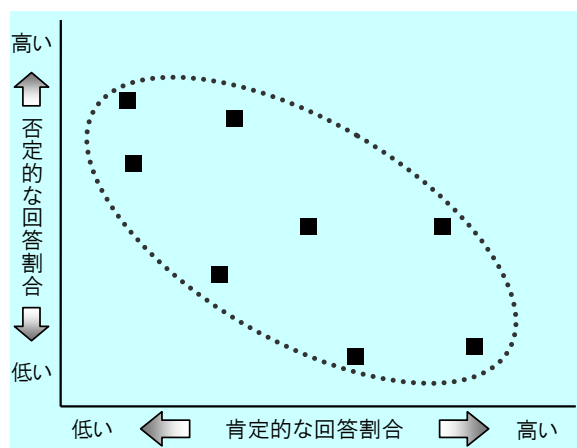


●類型2：小学校区ごとの状況が多様化している項目（ばらついて分布する）

選択肢の中に「わからない」がある設問や、「無回答」が多かった設問が該当します。

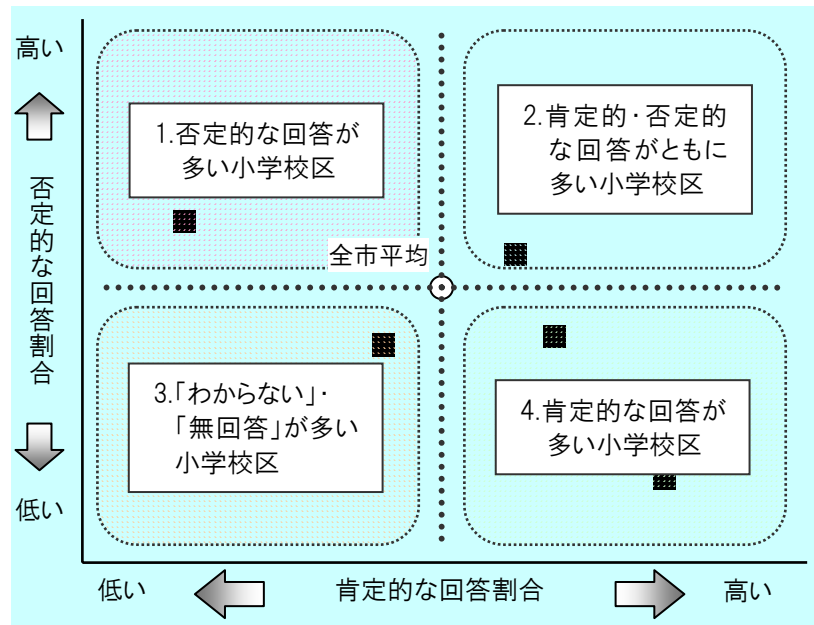
肯定的な回答の割合と否定的な回答の割合の合計は100%を下回り、小学校区ごとにその合計値も異なるため、おおむね右肩下がりになるものの、小学校区ごとの点はばらついて分布します。

「わからない」や「無回答」の多い小学校区、肯定的・否定的な回答の両論が混在する小学校区がみられるなど、比較的小学校区ごとの状況が多様化している項目です。



■小学校区別分布図の見方 その2 ～全市平均との比較による4つの分析視点～

全市における肯定的な回答の割合と否定的な回答の割合を中心として、横軸、縦軸で区分し、全市平均との位置関係から以下の4つの視点で分析することができます。



●視点1：否定的な回答が多い小学校区

全市平均から左上の区分は、肯定的な回答割合が全市平均よりも低く、否定的な回答割合が全市平均よりも高い小学校区となります。

●視点2：肯定的・否定的な回答がともに多い小学校区

全市平均から右上の区分は、肯定的な回答割合と否定的な回答割合がともに全市平均よりも高く、肯定的・否定的回答の両論が混在している小学校区となります。

●視点3：「わからない」・「無回答」が多い小学校区

全市平均から左下の区分は、肯定的、否定的な回答割合がともに全市平均よりも低く、「わからない」や「無回答」が多い小学校区となります。

●視点4：肯定的な回答が多い小学校区

全市平均から右下の区分は、肯定的な回答割合が全市平均よりも高く、否定的な回答割合が全市平均よりも低い小学校区となります。

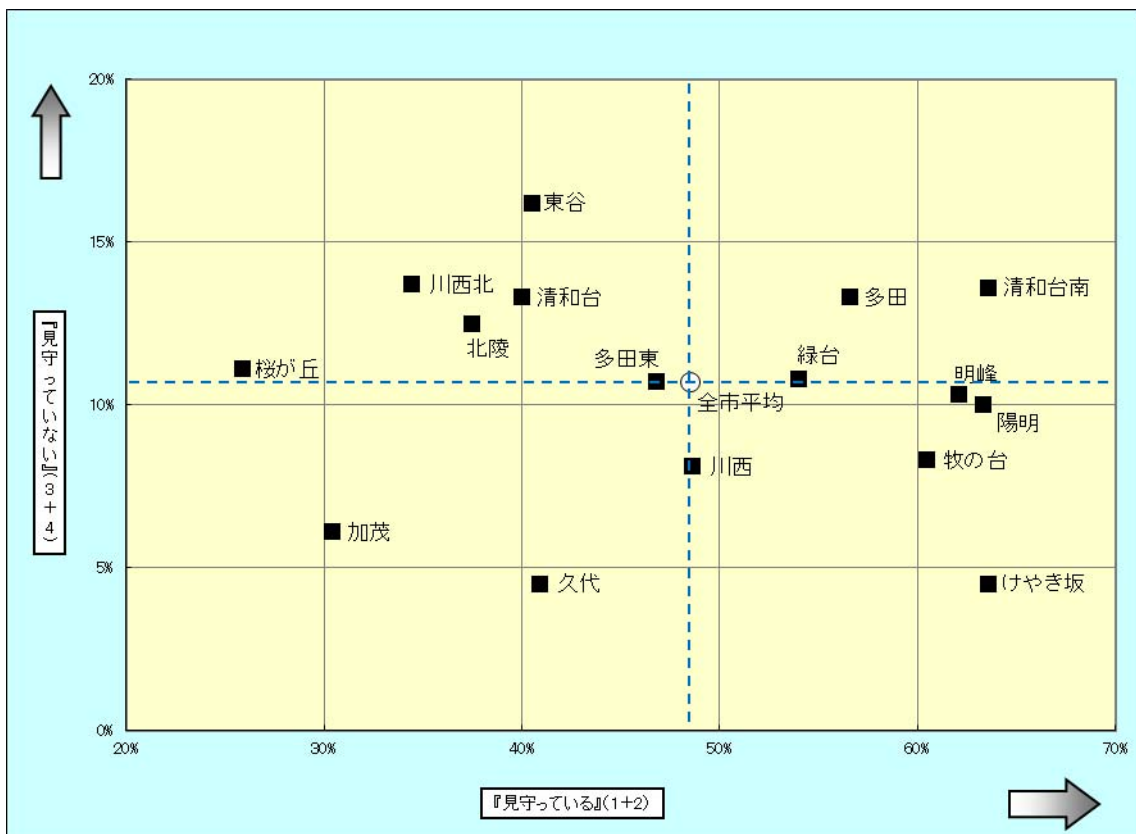
①「問 13：家庭・地域・学校が連携して、子どもたちの成長を見守っている割合」（類型 2）

「家庭・地域・学校が連携して、子どもたちの成長を見守っていますか。」という設問に対して、『見守っている』（「1. 見守っている」と「2. どちらかといえば見守っている」の合計）という回答を横軸に、『見守っていない』（「3. どちらかといえば見守っていない」と「4. 見守っていない」の合計）という回答を縦軸におき分布図を作成します。

グラフの右下方向に位置するけやき坂など 5 小学校区では、全市平均と比べると『見守っている』という回答割合が高くなっています。一方、左上に位置する川西北など 5 小学校区では、『見守っていない』割合が高くなっています。

全市平均より左下に位置する久代小学校区など 2 小学校区では、「わからない」との回答が多くなっており、子どもたちの成長の見守りに関する認識度合が低いことがうかがえます。

■問 13：家庭・地域・学校が連携して、子どもたちの成長を見守っている割合（小学校区別分布図）

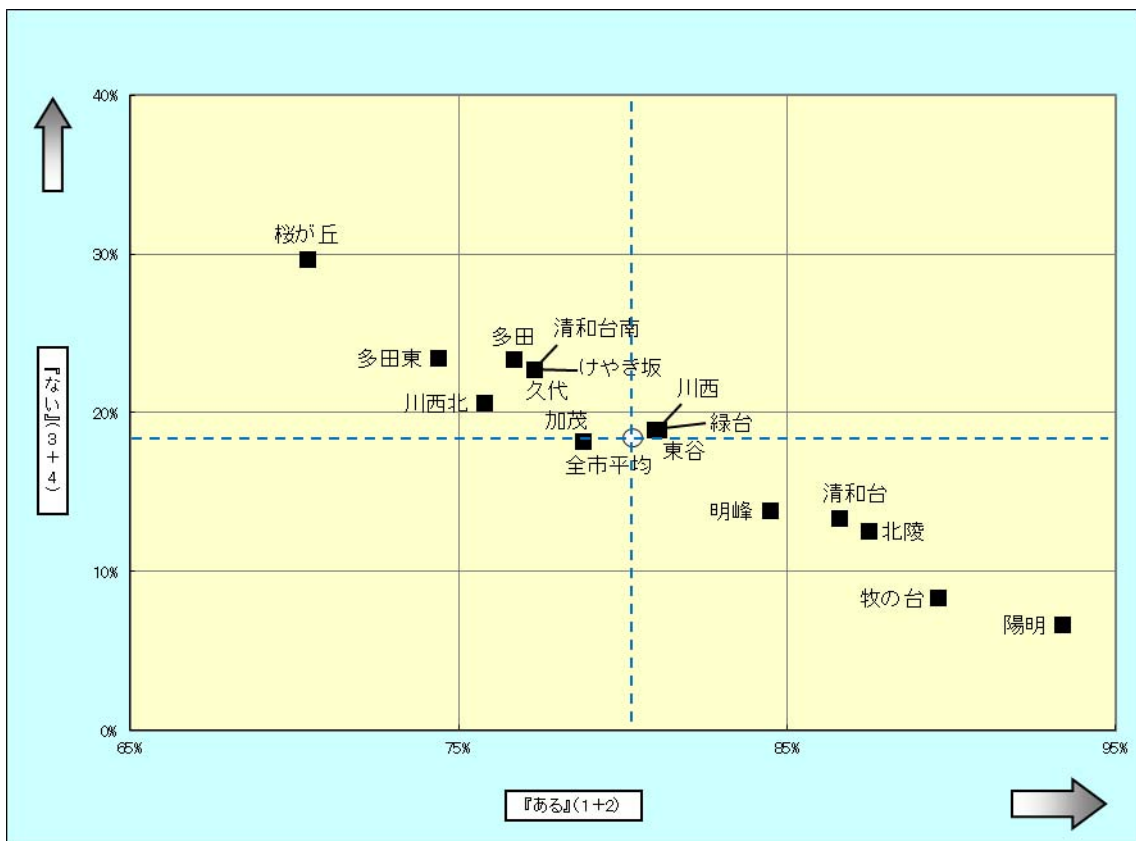


②「問 25：市内の都市景観や自然景観を守ったり育てたりすることに関心がある市民の割合」（類型1）

「市内の都市景観や自然景観を守ったり育てたりすることに関心がありますか。」という設問に対して、『ある』（「1. ある」と「2. どちらかといえばある」の合計）という回答を横軸に、『ない』（「3. どちらかといえはない」と「4. ない」の合計）という回答を縦軸におき分布図を作成します。

グラフの右下方向に位置する陽明小学校区など5小学校区では、全市平均と比べると『ある』という回答割合が高くなっています。一方、桜が丘小学校区など6小学校区では、『ない』という回答割合が高くなっています。

■問 25: 市内の都市景観や自然景観を守ったり育てたりすることに関心がある市民の割合（小学校区別分布図）

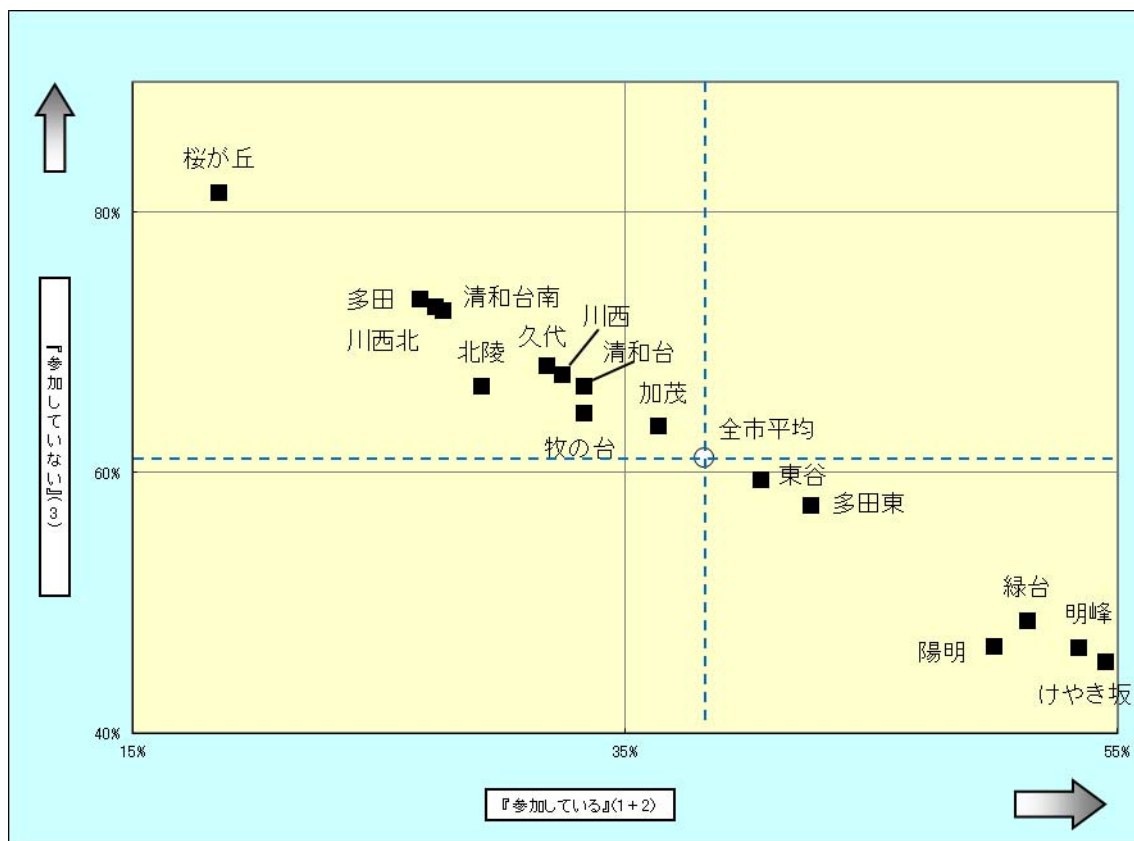


③「問 42(3)：自治会やボランティア活動などの市民活動に参加している市民の割合」（類型1）

「自治会やボランティア活動などの市民活動に参加していますか。」という設問に対して、『参加している』（「1. よく参加している」と「2. ときどき参加している」の合計）という回答を横軸に、「参加していない」という回答を縦軸におき分布図を作成します。

グラフの右下方向に位置するけやき坂小学校区など6小学校区では、全市平均と比べると『参加している』という回答割合が高くなっています。一方、桜が丘小学校区など10小学校区では、『参加していない』という回答割合が高くなっています。

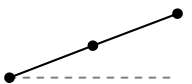

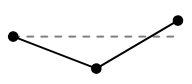


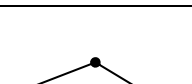
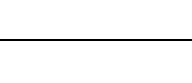
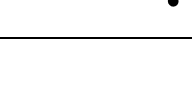
■問 42(3)：自治会やボランティア活動などの市民活動に参加している市民の割合（小学校区別分布図）



補足1：中・長期推移（平成14年度から平成23年度の変化）の考え方

平成14年度から毎年度実施している調査項目、平成19年度調査において新たに追加した調査項目の結果を、その推移の特徴から以下の8類型に分類しました。

■調査項目の中期・長期推移による8類型一覧

		H14→H19→H23	推移	該当数	該当した設問
中期的に市民の実感が増加しているもの	類型1		H14からH19時点、H23時点でいずれも増加しているもの	10	問7、9、19、20、22、23、24、27、28、30
	類型2		H19から調査を開始し、H23で増加しているもの	14	問2、3、4、6、10、15、21、26、33、34、37、38、40、43
	類型3		H14からH19にかけて減少した後、増加に転じ、H23でH14の水準を上回っているもの	2	問8、18
	類型4		H14からH19にかけて減少した後、H23でH14の水準を下回っているが、H19の水準を上回っているもの	4	問32、35、36、39
中期的に市民の実感が減少しているもの	類型5		H14からH19にかけて増加した後、H23でH14の水準を上回っているが、H19の水準を下回っているもの	3	問1、13、29
	類型6		H14からH19にかけて増加した後、減少に転じ、H23でH14の水準を下回っているもの	2	問12、16
	類型7		H19から調査を開始し、H23で減少しているもの	5	問5、11、17、25、31
	類型8		H14からH19時点、H23時点でいずれも減少しているもの	2	問14、42

※平成14年度、平成19年度、平成23年度の各時点における結果の推移から各類型を求めており、途中の年度の結果は反映していない。

(1) 中期推移と長期推移の分類整理

中期的（平成 19 年～平成 23 年の期間）に市民の実感が増加しているものを類型 1～4、市民の実感が減少しているものを類型 5～8 としています。平成 14 年もしくは、平成 19 年の水準から平成 23 年での水準が増加したものは、全 42 項目中 30 項目あり、71.4%となっています。一方、減少したものは 12 項目あり、28.6%となっています。

①長期推移について（類型 1・類型 8）

平成 14 年～平成 19 年、平成 19 年～平成 23 年のいずれも増加し、長期的な増加傾向にあるもの（類型 1）は、全 42 項目中 10 項目であり、23.8%となっています。具体的には、25.4 ポイントの増加と最も上げ幅が大きい「問 28：幹線道路で円滑な交通が確保されていると感じている市民の割合」などの項目が該当しています。

一方、平成 14 年～19 年、平成 19 年～23 年のいずれも減少し、長期的な減少傾向にあるもの（類型 8）は、全 42 項目中 2 項目であり、4.8%となっています。

②中期推移について（類型 2・類型 7）

平成 19 年度調査において新たに追加した設問のうち、平成 19 年～平成 23 年で増加傾向にあるもの（類型 2）は、全 42 項目中 14 項目であり、33.3%と全体の 3 分の 1 を占めています。具体的には、13.4 ポイントの増加と最も上げ幅が大きい「問 15：過去 1 年間に継続して生涯学習に取り組んだ市民の割合」、次いで 9.4 ポイントの増加となった「問 21：ごみ収集・処分に対する満足度」などの項目が該当しています。

一方、平成 19 年～23 年で減少傾向にあるもの（類型 7）は、全 42 項目中 5 項目であり、11.9%となっています。具体的には、3.3 ポイントの減少と最も下げ幅が大きい「問 25 市の都市景観や自然景観を守ったり育てることへの関心のある市民の割合」、次いで 2.8 ポイントの減少となった「問 17 地域や川西の歴史や文化財への興味のある市民の割合」などの項目が該当しています。

補足2：短期推移（平成22年度から平成23年度の変化）の考え方

平成22年から平成23年の調査結果の変化を以下の5階級に分類しました。

■調査項目の短期推移による5階級一覧

		H22→H23	該当数	該当した設問
増加しているもの 短期的に市民の実感が	階級1	4.0ポイント以上の増加	7	問3、9、18、22、24、35、43
	階級2	2.0～3.9ポイントの増加	6	問1、4、5、8、19、21
	階級3	0.1～1.9ポイントの増加	14	問2、7、11、12、14、20、23、26、28、29、30、33、36、39
減少しているもの 短期的に市民の実感が	階級4	0.1～1.9ポイントの減少	8	問13、15、16、25、32、37、38、40
	階級5	2.0ポイント以上の減少	7	問6、10、17、27、31、34、42

（1）短期推移の分類整理

平成22年から平成23年で市民の実感が増加した設問は全42問中27問と64.3%となっています（階級1～3）。一方、減少した設問は15項目あり、35.7%となっています（階級4・5）。

①増加した項目について（階級1～3）

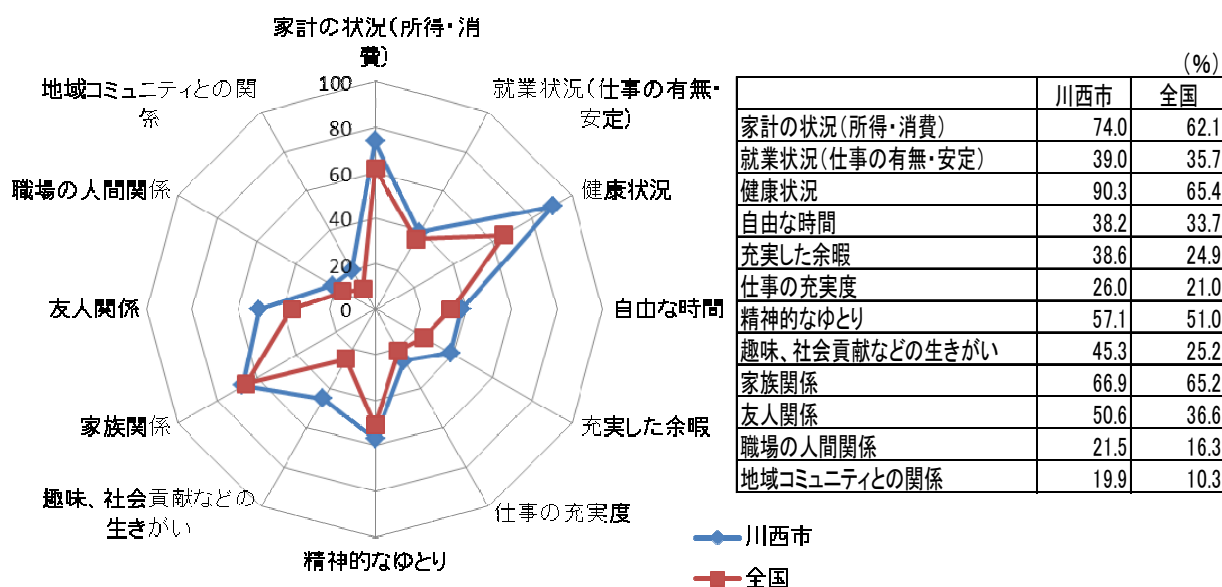
増加した設問は「問9 子育てをしやすい環境が整っている」が8.3ポイントと最も上げ幅が大きく、次いで「問43 自治会やボランティア活動などの市民活動が活発である」が6.8ポイント、「問3 市内の病院や医院全般について満足している市民の割合」6.2ポイントの増加となっています。

②減少した項目について（階級4・5）

減少した設問は「問42(3) 自治会やコミュニティの活動への参加の割合」が7.5ポイントで最も下げ幅が大きく、次いで「問27 普段使っている生活道路を安心して通行できる市民の割合」が4.9ポイントの減少となっています。

2. 幸せを実感できる生活のために市民が重視する事項の分析

平成 23 年度に新たに設けた設問に「問 45 社会生活全般において、幸せを実感できる生活のために、あなたが重視する事項は何ですか」があり、その結果を平成 22 年度国民生活選好度調査の結果と比較しました。



※全国のは「平成 22 年度国民生活選好度調査」による

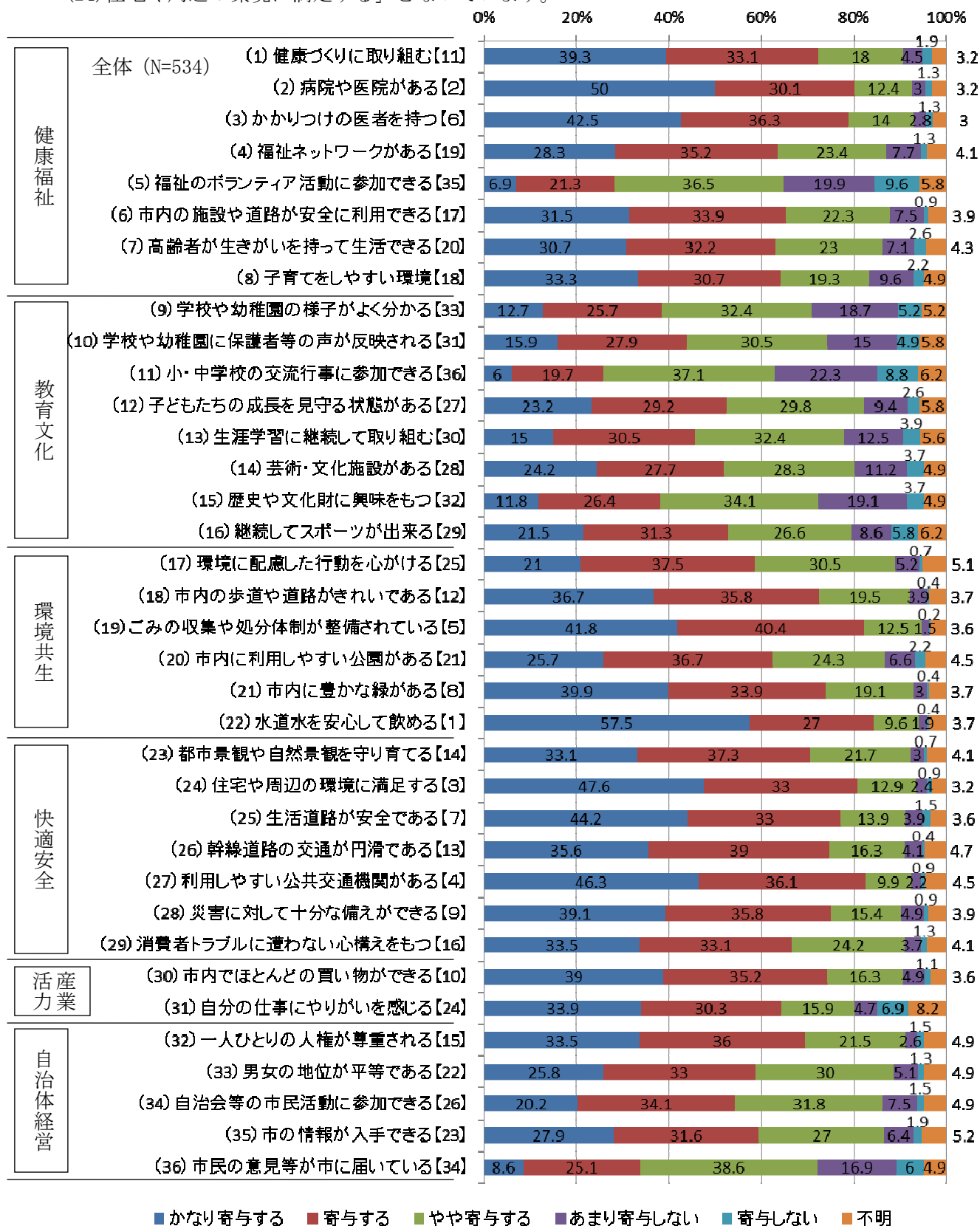
(1) 幸せを実感するために重視する事項の上位

社会生活全般において、幸せを実感できる生活のために重視する事項は、川西市においても全国においても概ね同様の傾向を示し、1 位から 3 位は「健康状況」「家計の状況」「家族関係」で同じ結果となりました。ただし、2 位は川西市と全国で異なり、川西市が「家計の状況」であるのに対し、全国は「家族関係」となっています。

(2) 重視する事項の回答率が高め

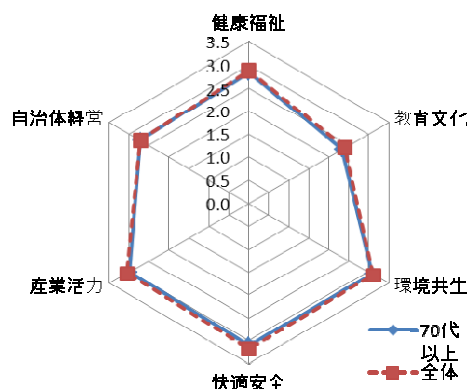
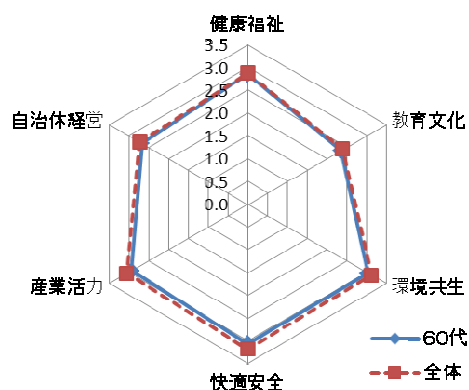
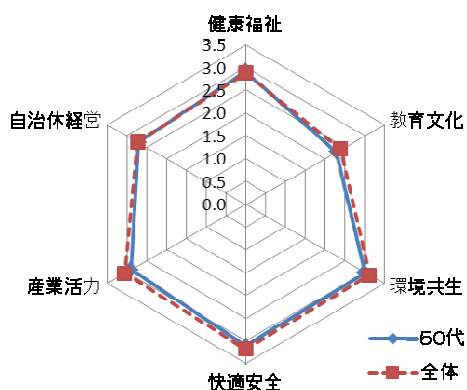
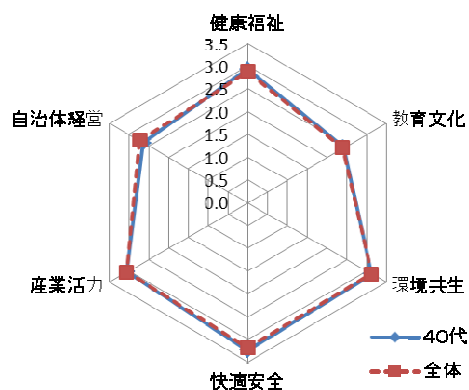
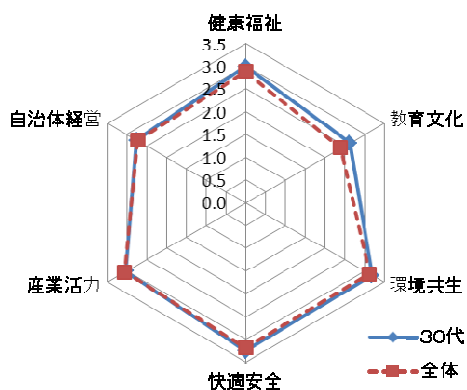
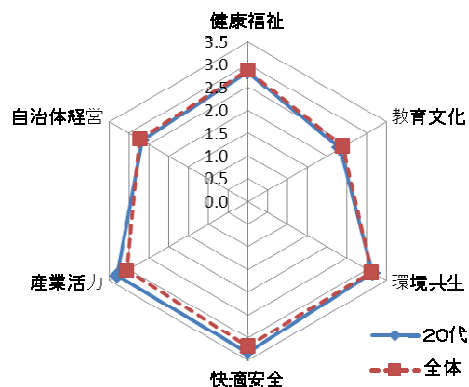
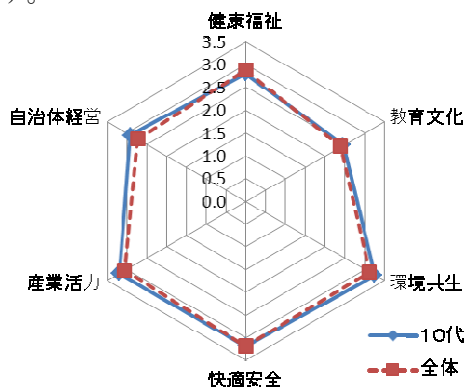
全体的な傾向は川西市と全国ではよく似た結果となりましたが、「健康状態」は全国が 65.4%であるのに対し、川西市が 90.3%と約 25%高く、また「趣味、社会貢献などの生きがい」は全国が 25.2%であるのに対し、川西市は 45.3%と約 20%高くなっています。

平成 23 年度に新たに設けた問 44 において、実感調査の質問の中にある「行政の取り組み」や「市民の実感」の各項目が、市民の幸せにどのくらい寄与するかを聞いたところ、最も寄与度が高いのは「(22)水道水を安心して飲める」、次いで「(2)病院や医院がある」、
「(24)住宅や周辺の環境に満足する」となっています。



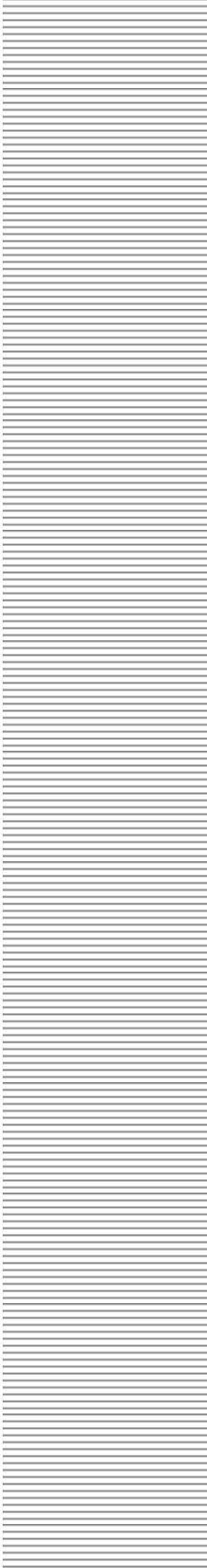
■ かなり寄与する ■ 寄与する ■ やや寄与する ■ あまり寄与しない ■ 寄与しない ■ 不明

また、分野別の寄与度の加重平均を年代別に比べると、年代が低いほど各分野において寄与度が高くなる傾向があります。とくに10代では環境共生、産業活力、自治体経営の寄与度が高く、20代では産業活力、30代では教育文化の寄与度が全体に比べて高くなっています。



(点/4点)

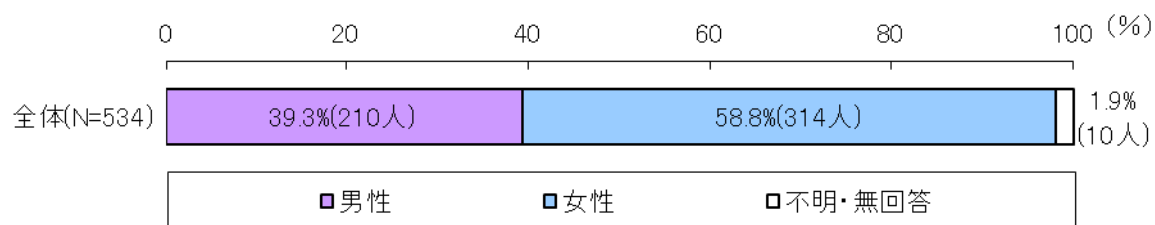
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
健康福祉	2.80	2.84	2.98	2.93	2.92	2.85	2.85	2.88
教育文化	2.47	2.33	2.63	2.42	2.30	2.35	2.33	2.41
環境共生	3.26	3.17	3.20	3.13	3.01	3.03	3.08	3.13
快適安全	3.19	3.32	3.26	3.24	3.11	3.07	3.10	3.18
産業活力	3.18	3.29	3.02	3.04	2.89	2.92	2.99	3.05
自治体経営	2.91	2.66	2.75	2.63	2.70	2.67	2.71	2.72



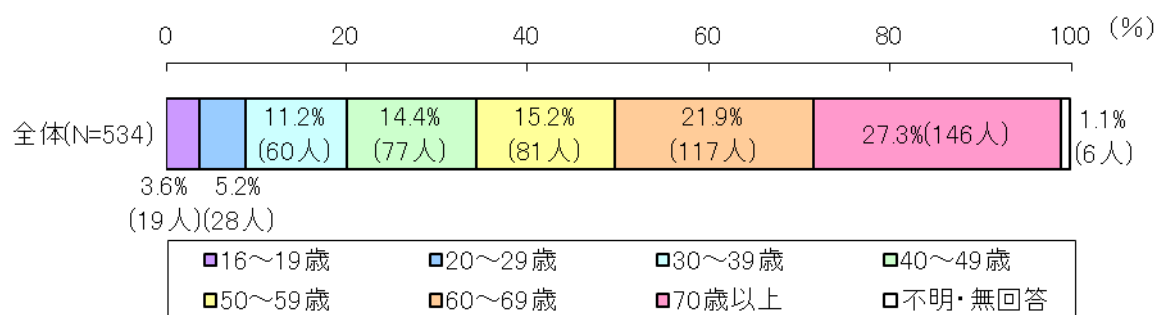
Ⅲ 調査結果

○回答者の属性

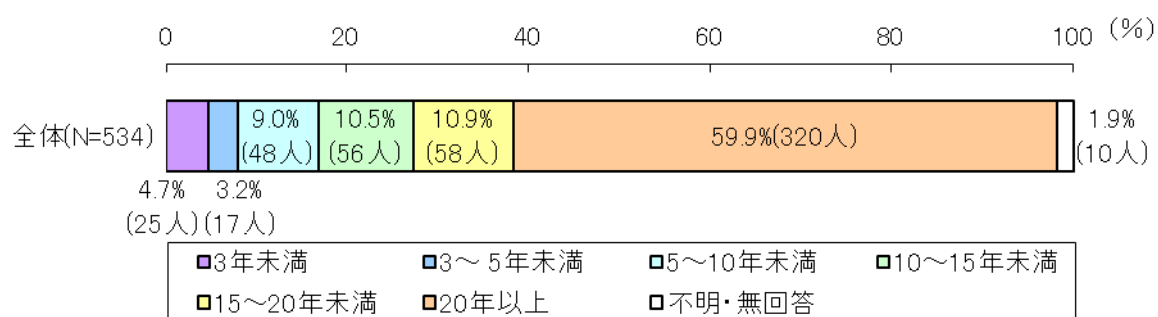
① 性別



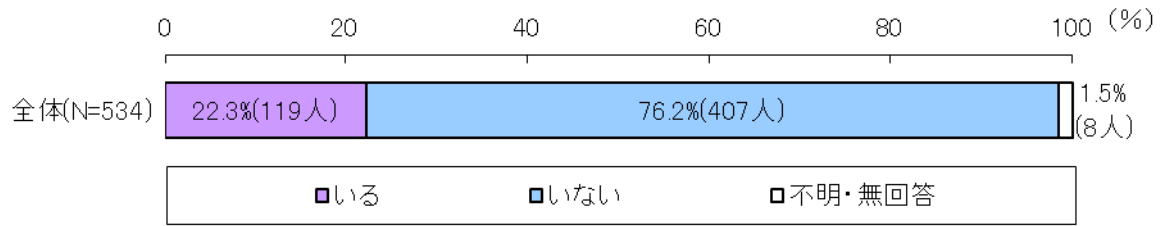
② 年代



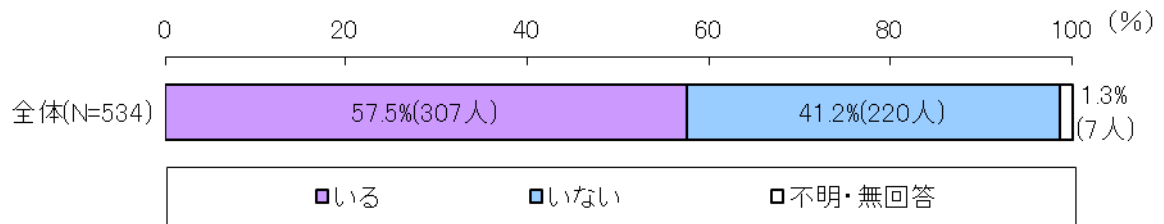
③ 居住年数



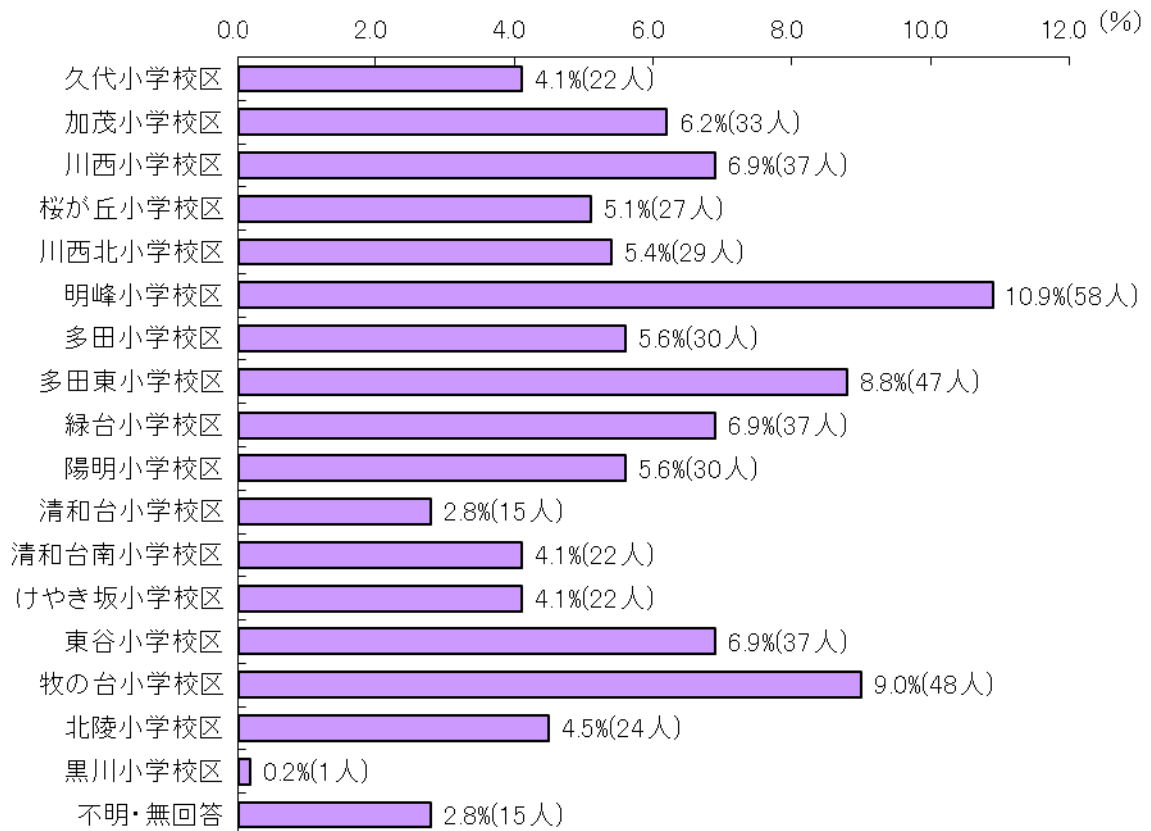
④ 子どもの有無



⑤ 高齢者の有無

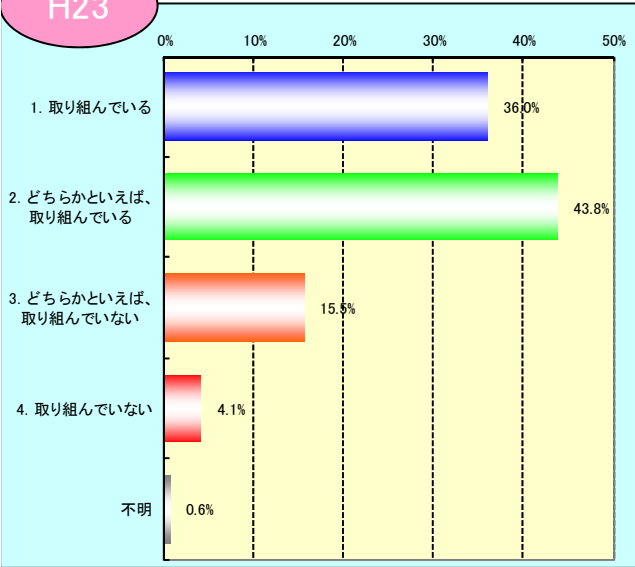


⑥ 居住地区

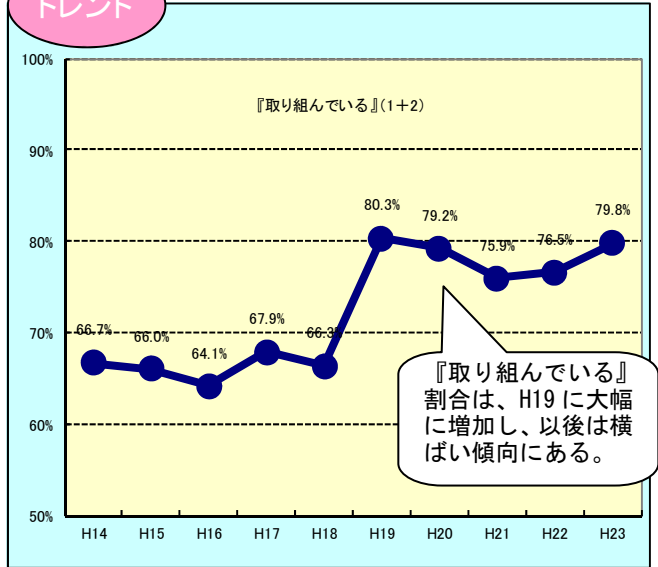


問1 食事内容に気をつけたり、運動をするなどして、健康づくりに意識的に取り組んでいますか。

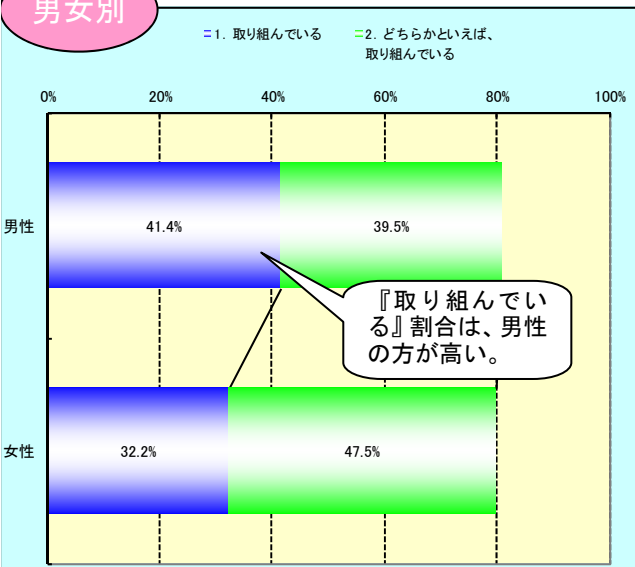
H23



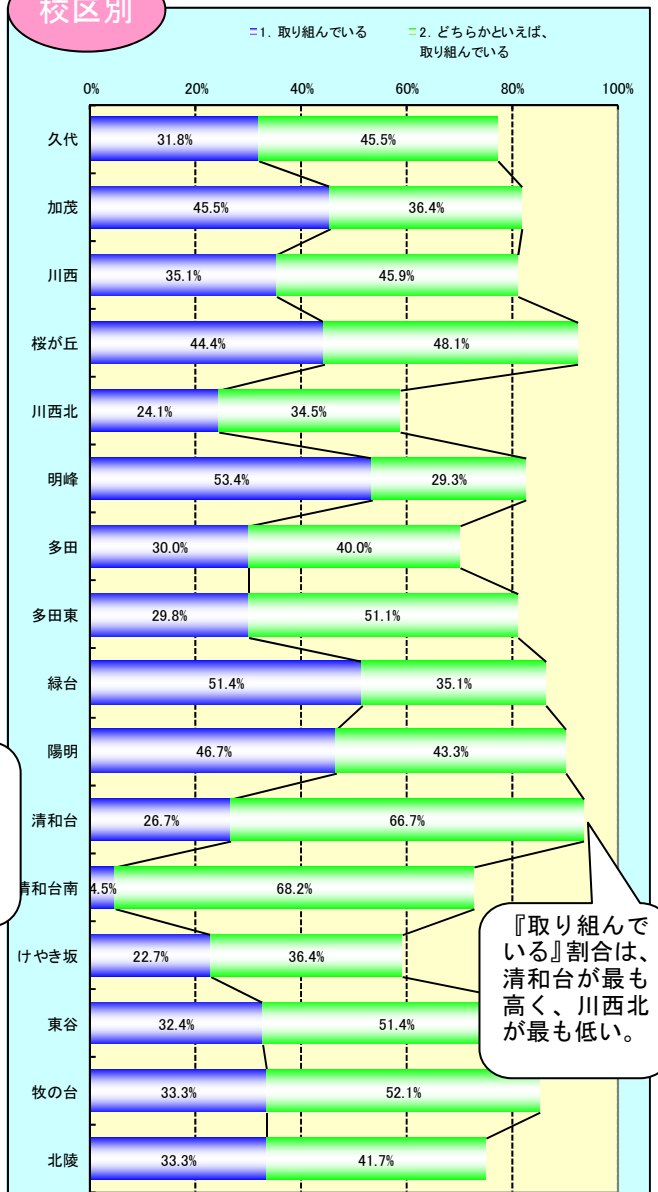
トレンド



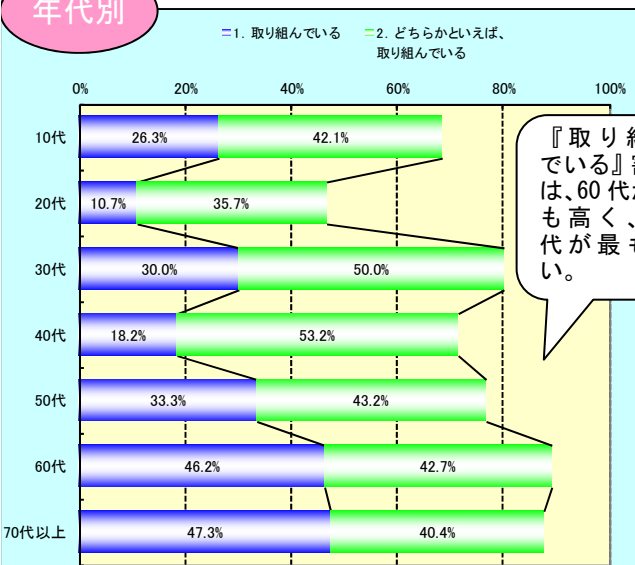
男女別



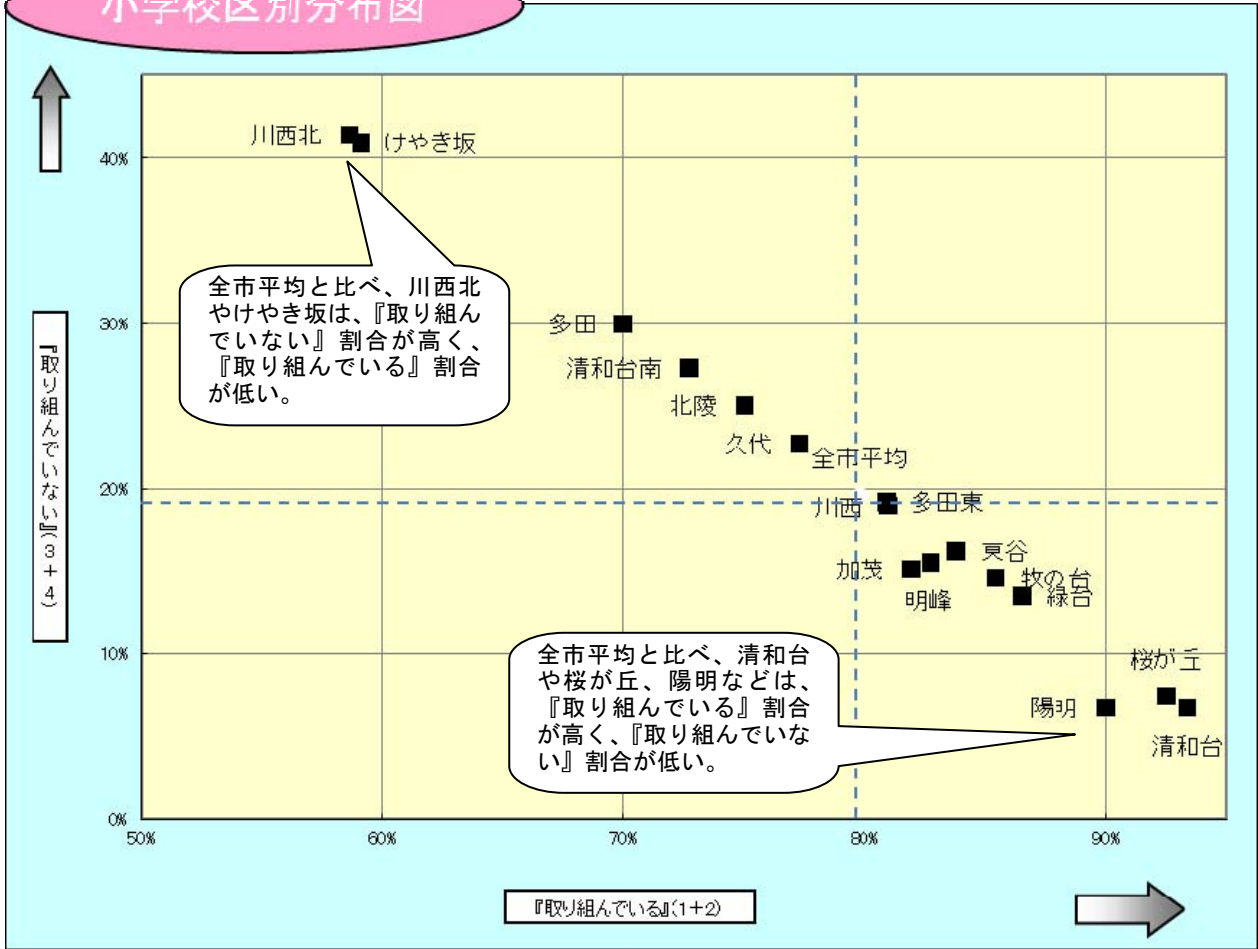
校区別



年代別

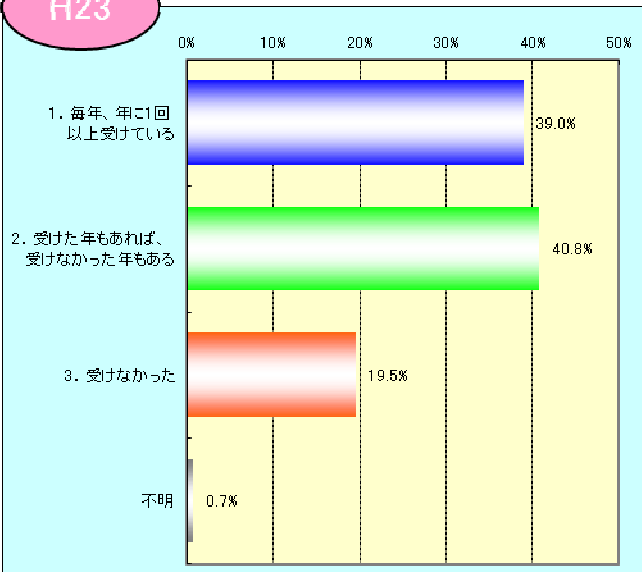


小学校区別分布図

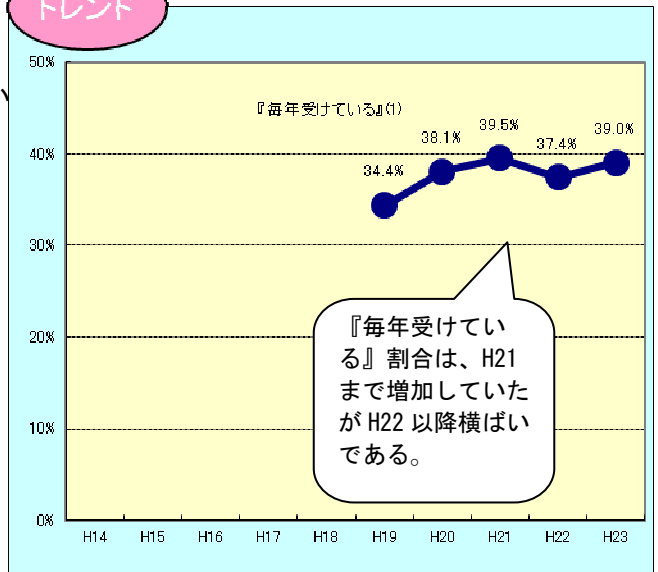


問2 過去5年間に、歯の検診を受けましたか。

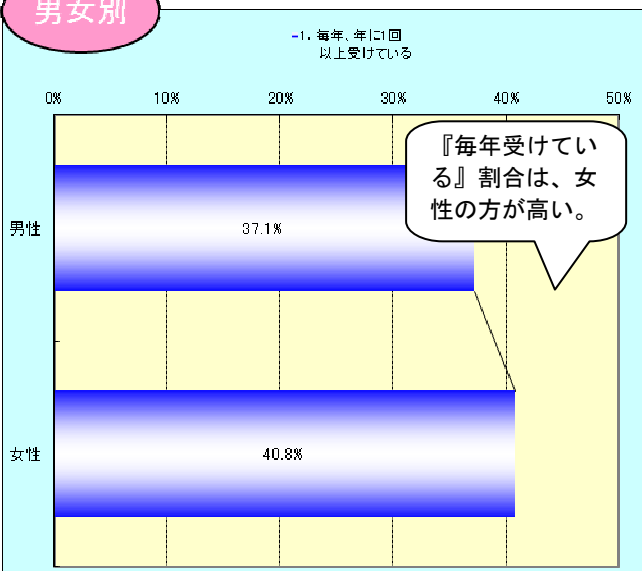
H23



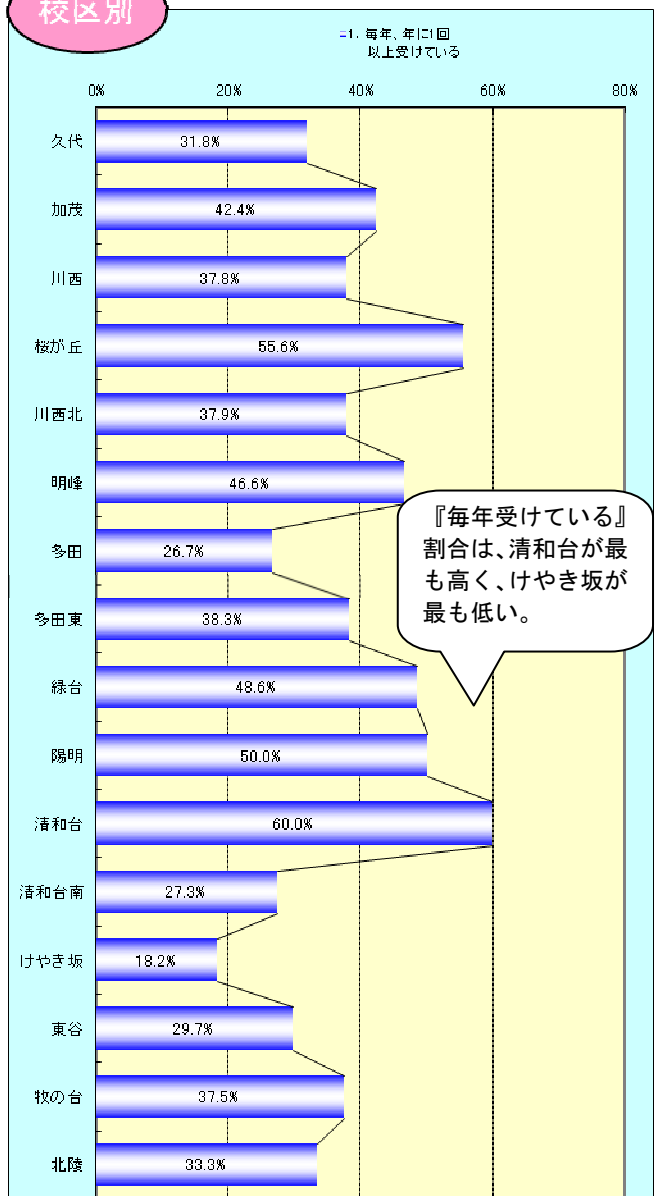
トレンド



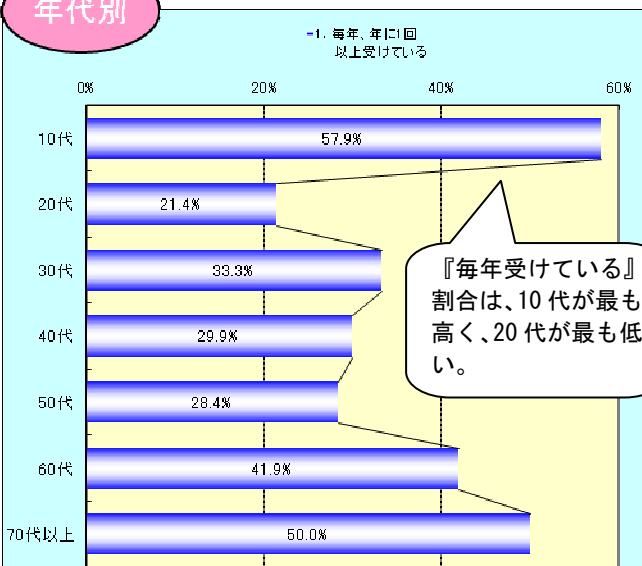
男女別



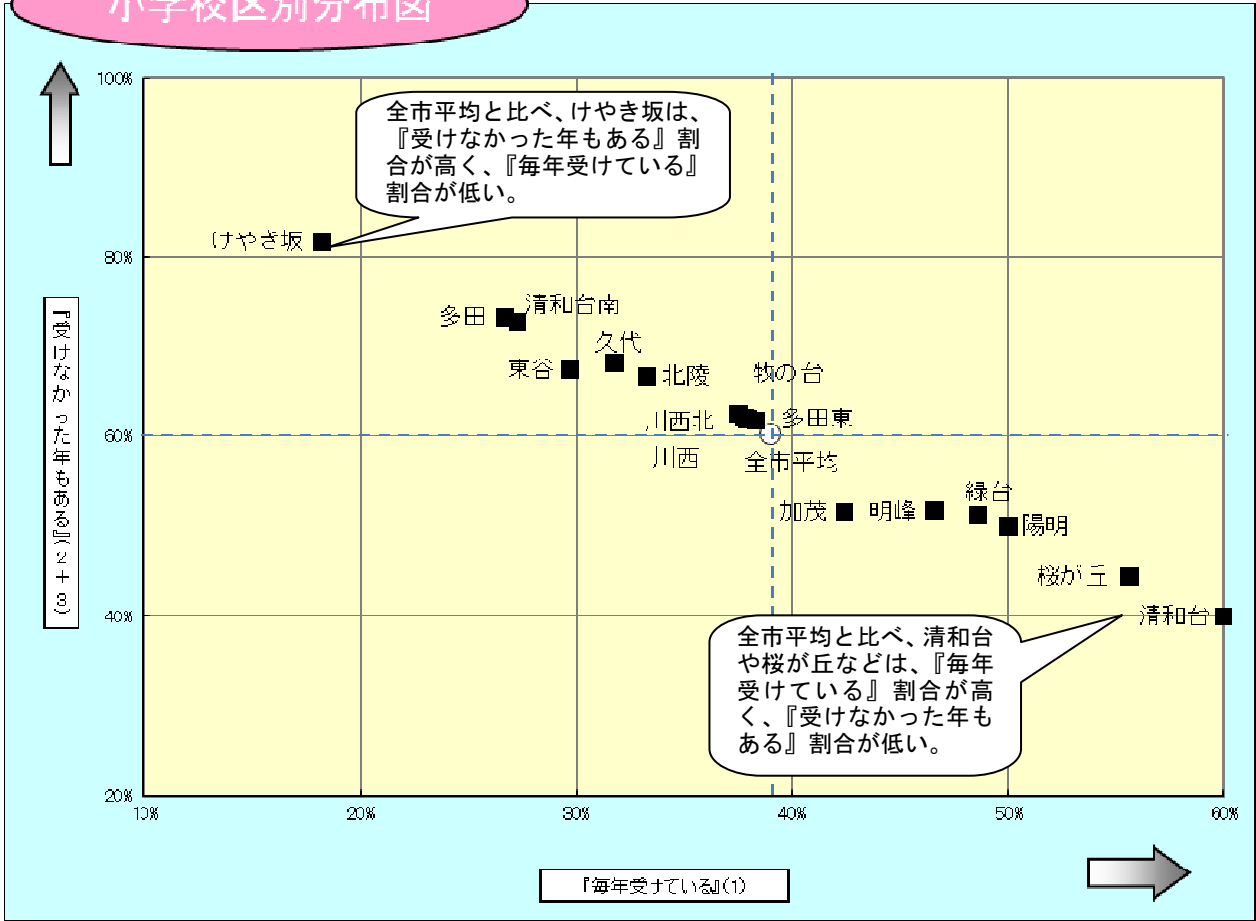
校区別



年代別

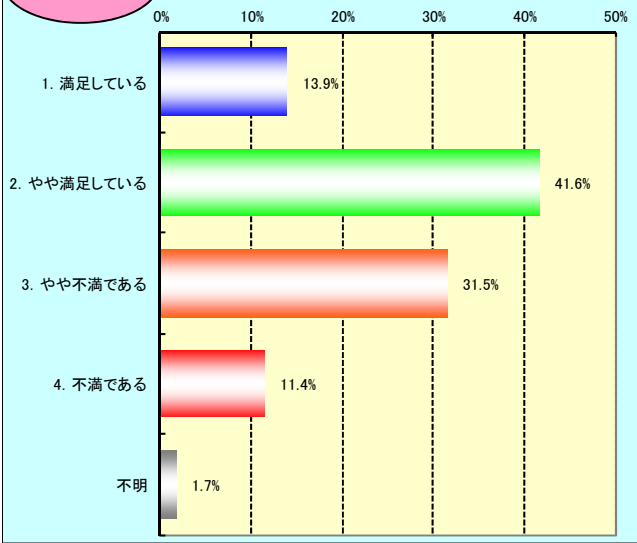


小学校区別分布図

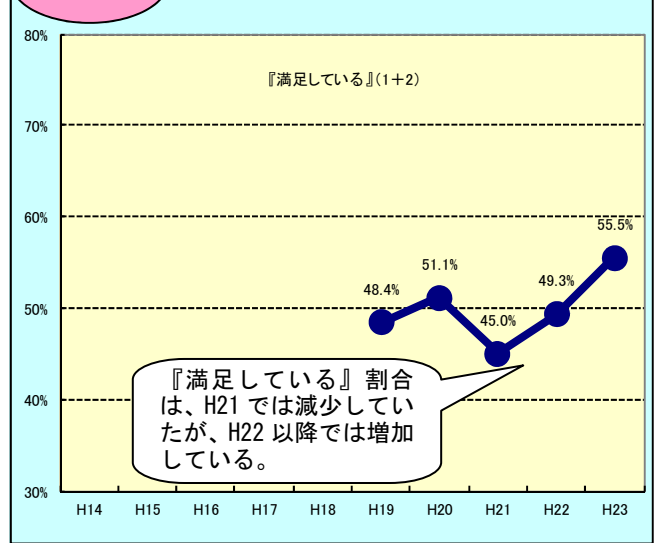


問3 市内の病院や医院全般について満足されていますか。

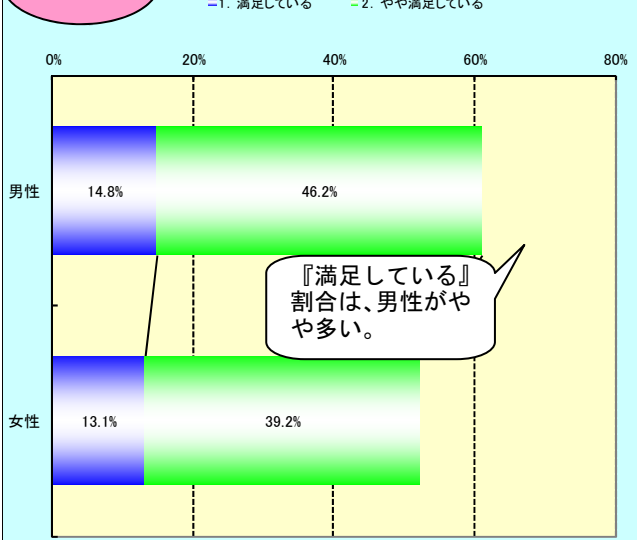
H23



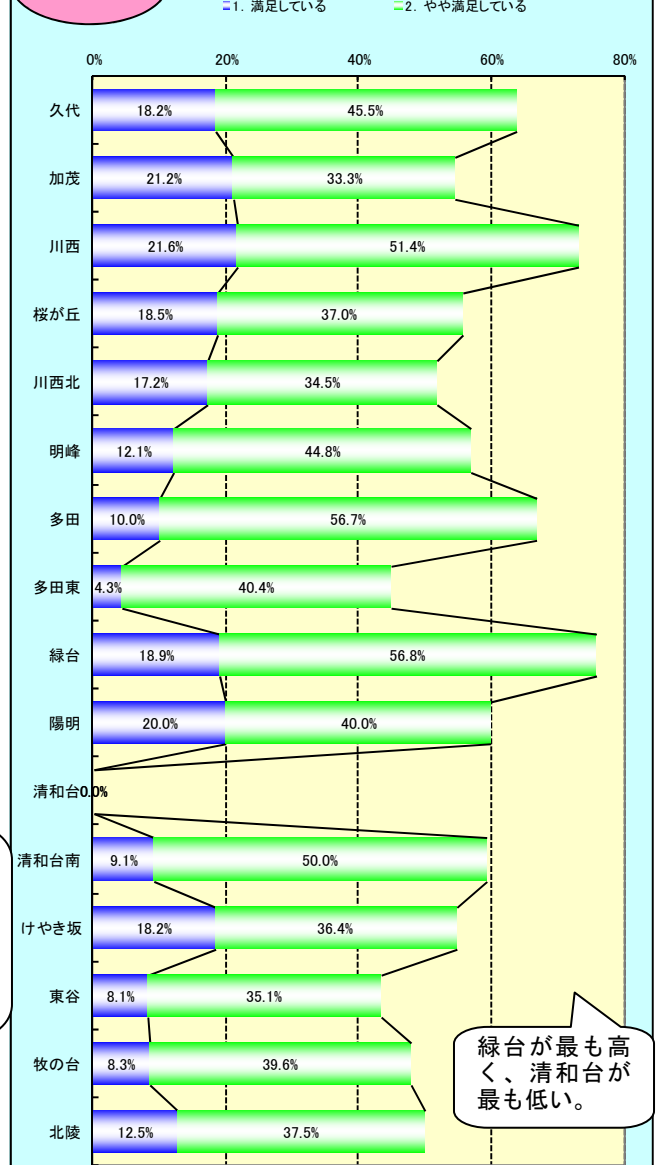
トレンド



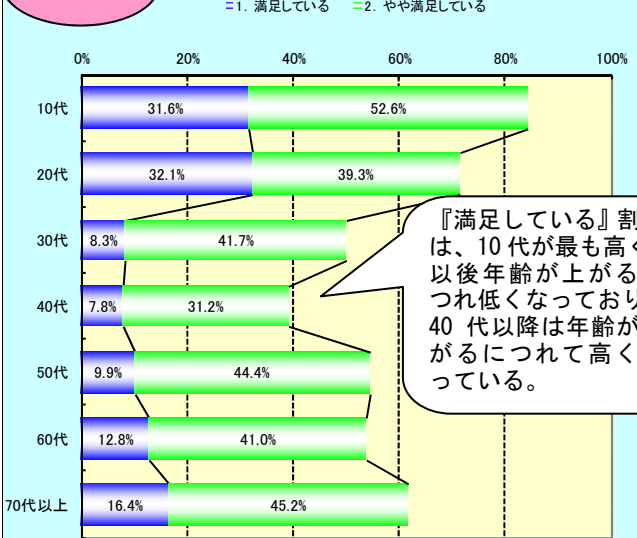
男女別



校区別

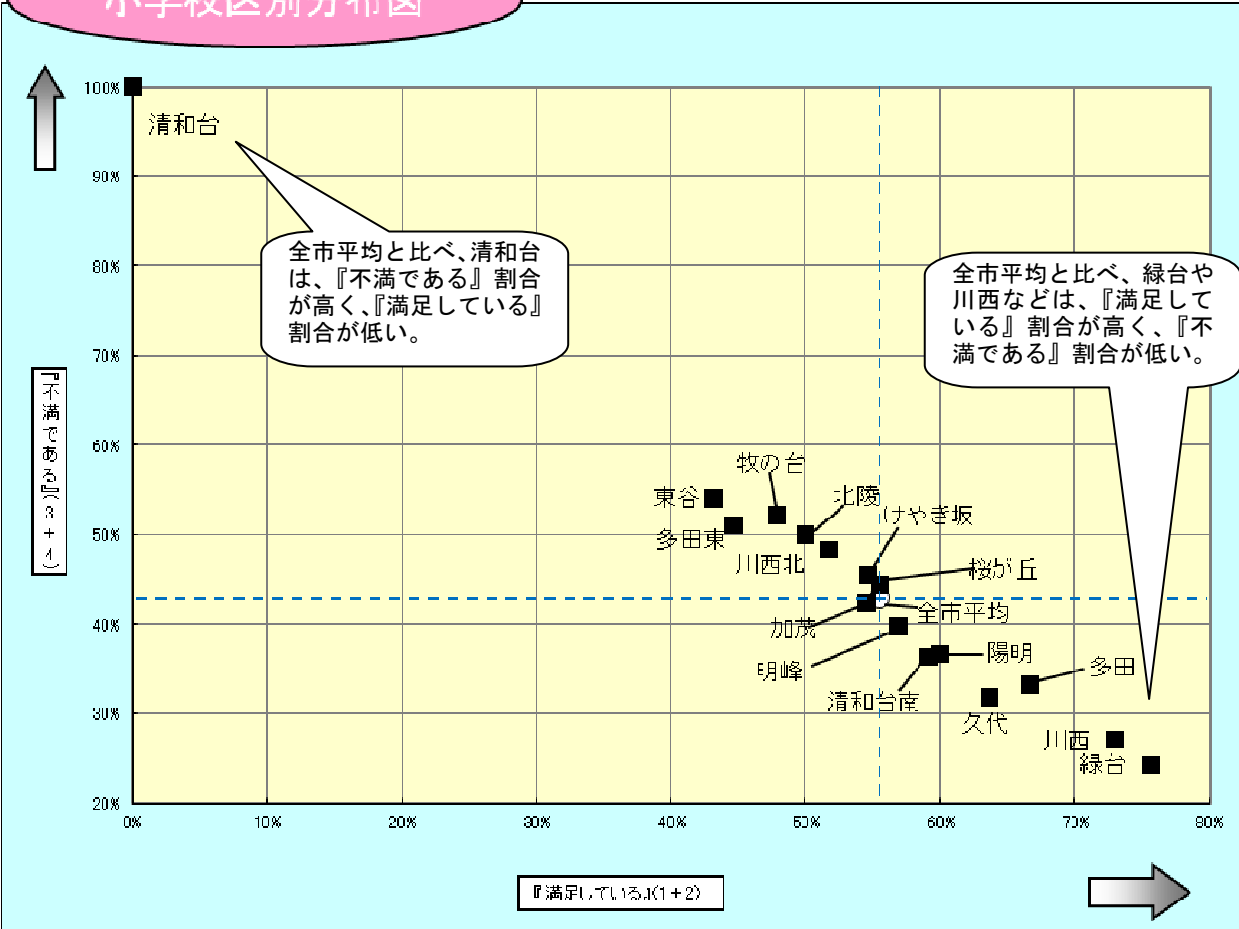


年代別



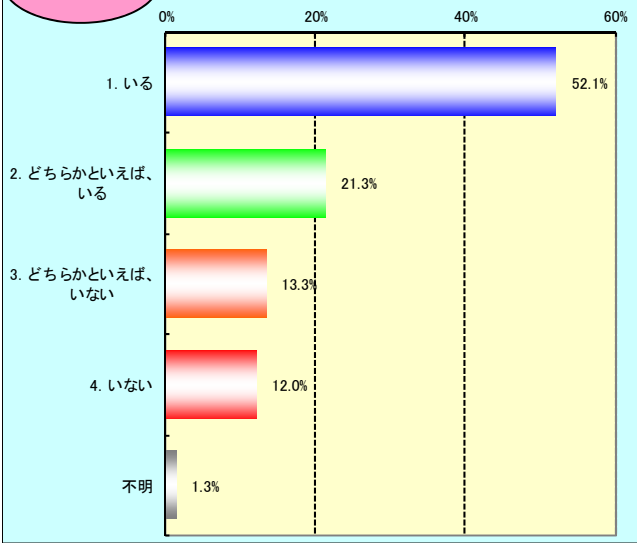
問3

小学校区別分布図

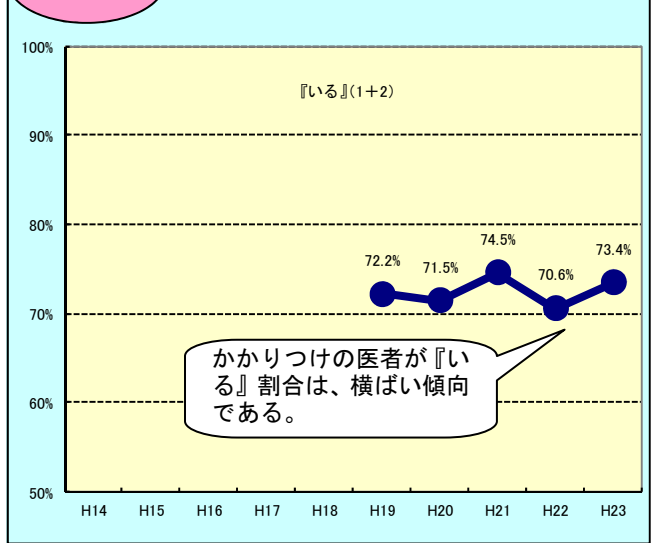


問 4 かかりつけの医者がありますか。

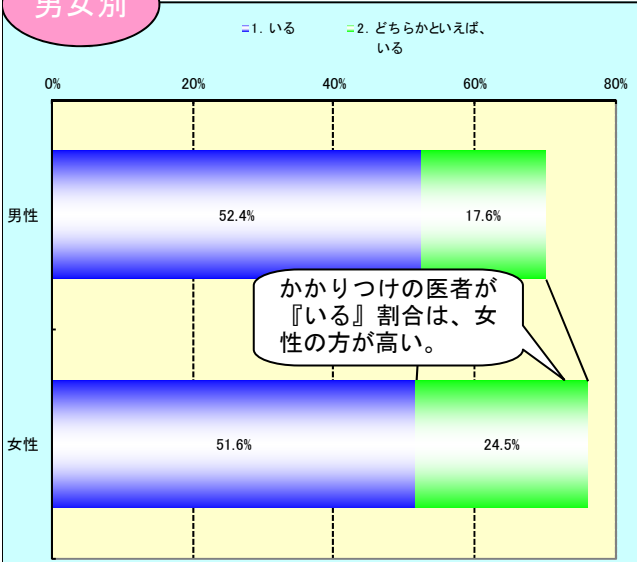
H23



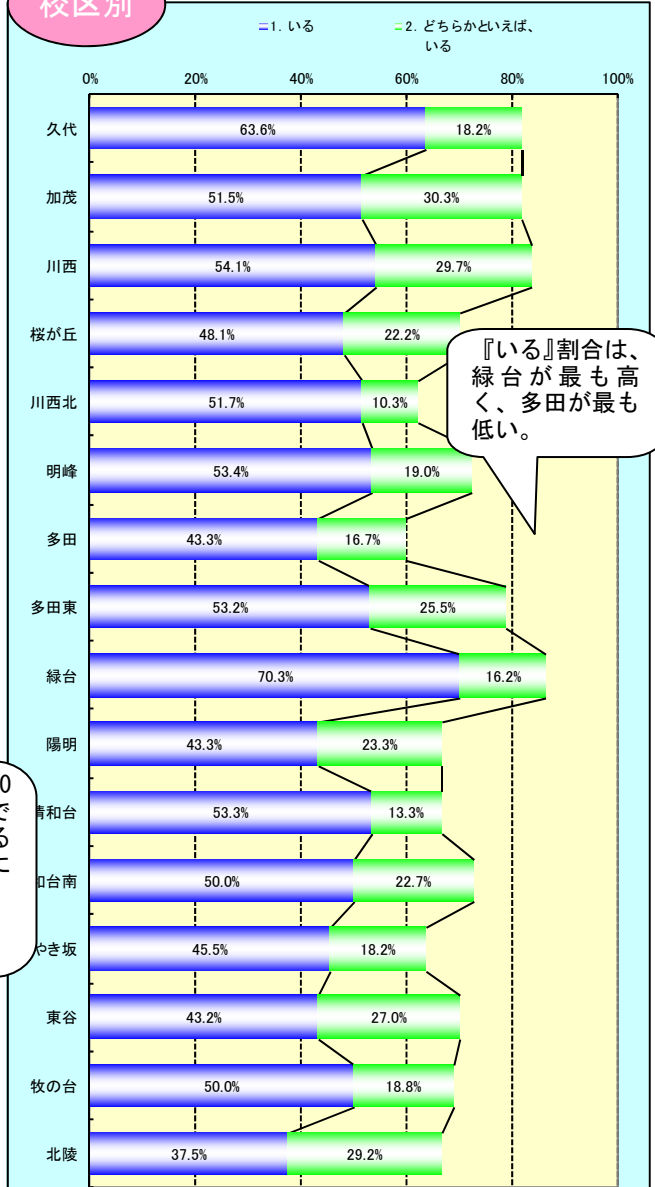
トレンド



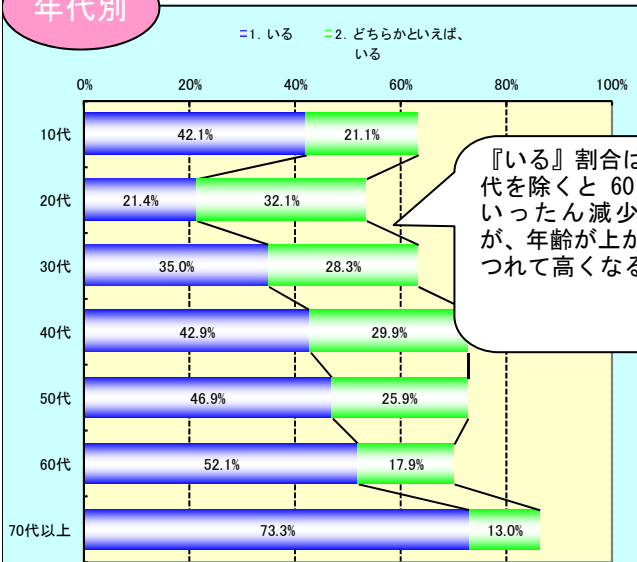
男女別



校区別

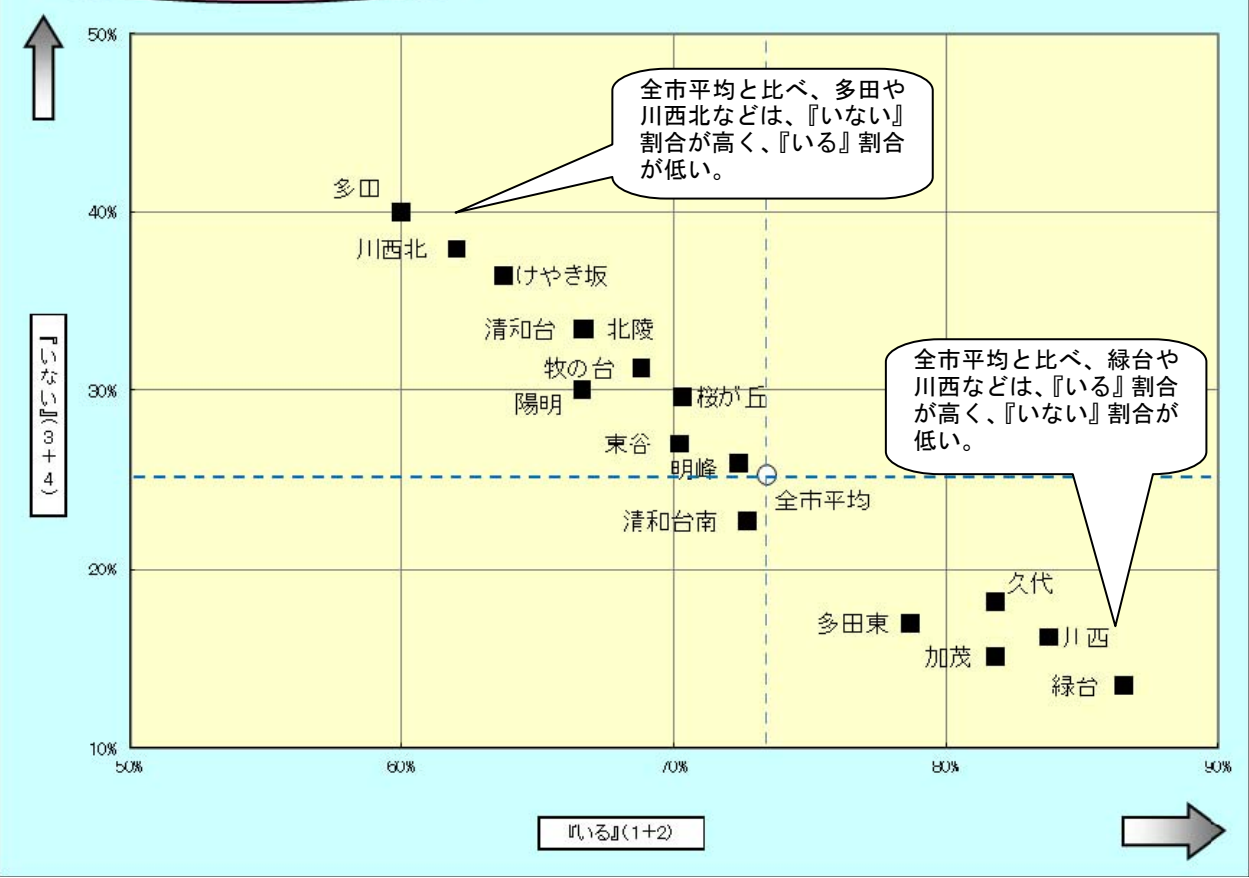


年代別



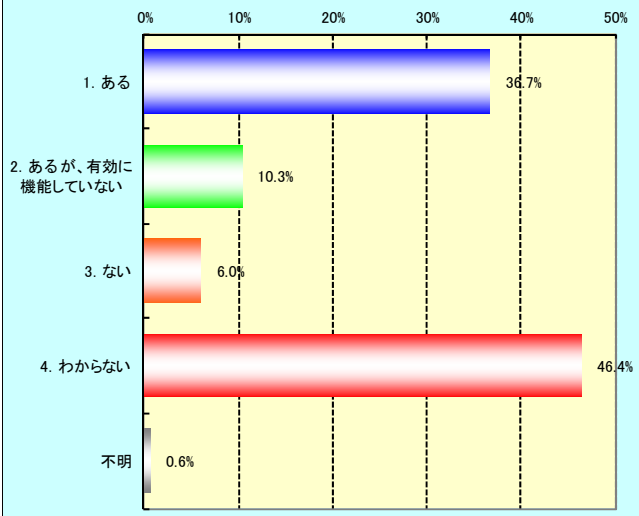
問 4

小学校区別分布図

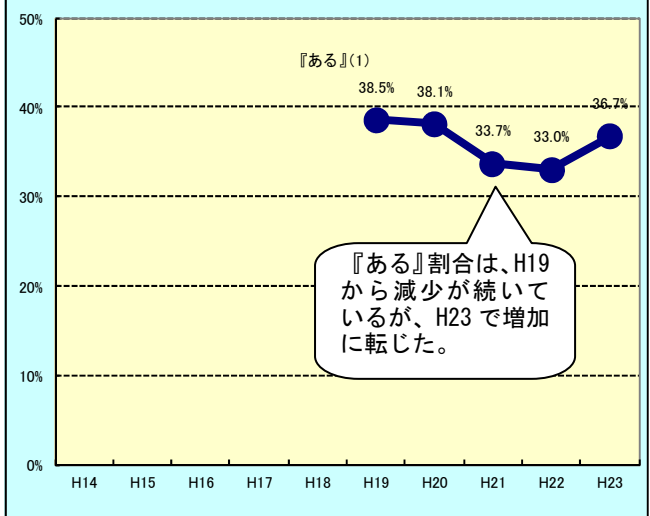


問 5 お住まいの地域では住民が高齢者や障がい者、子どもなどを見守る仕組みやネットワークがありますか。

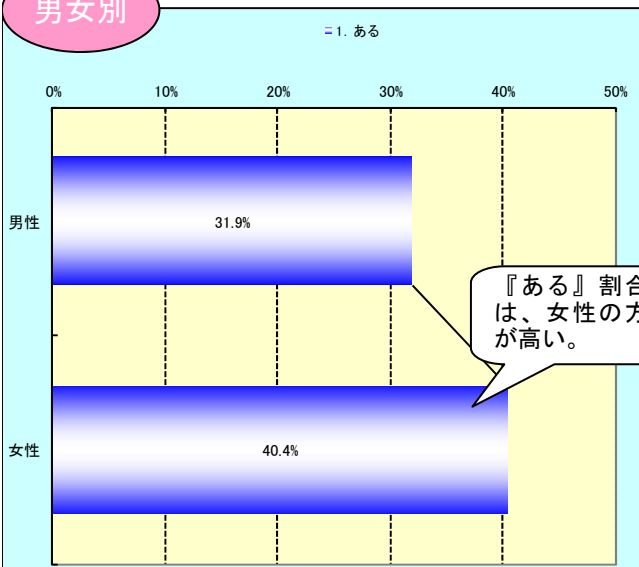
H23



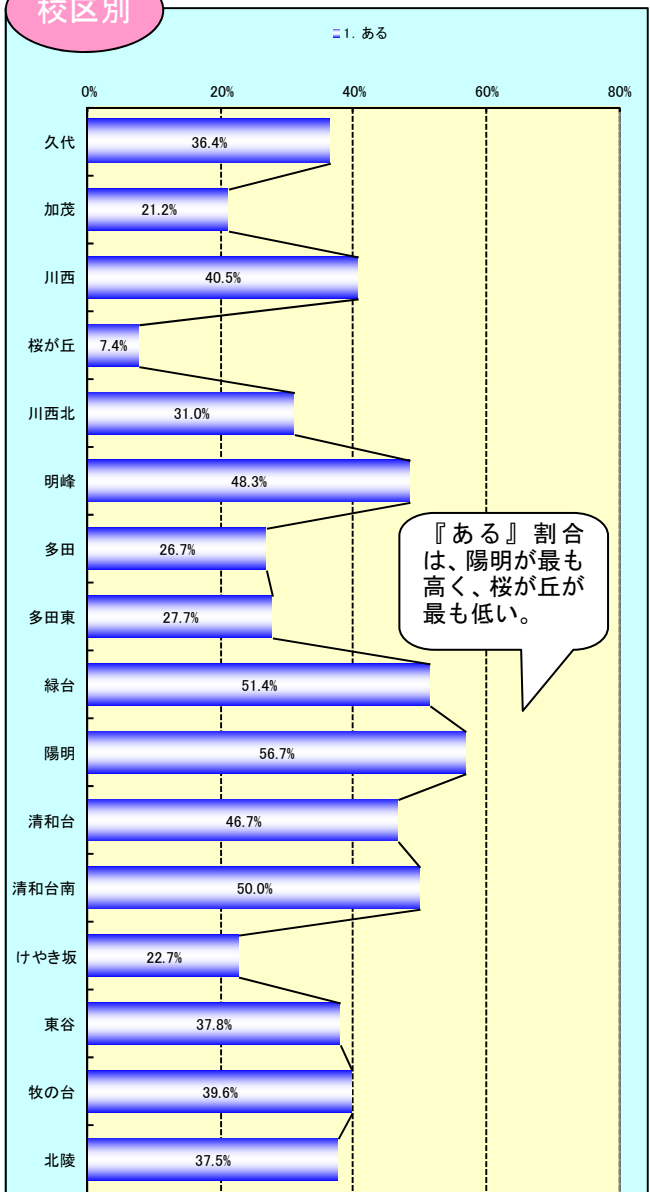
トレンド



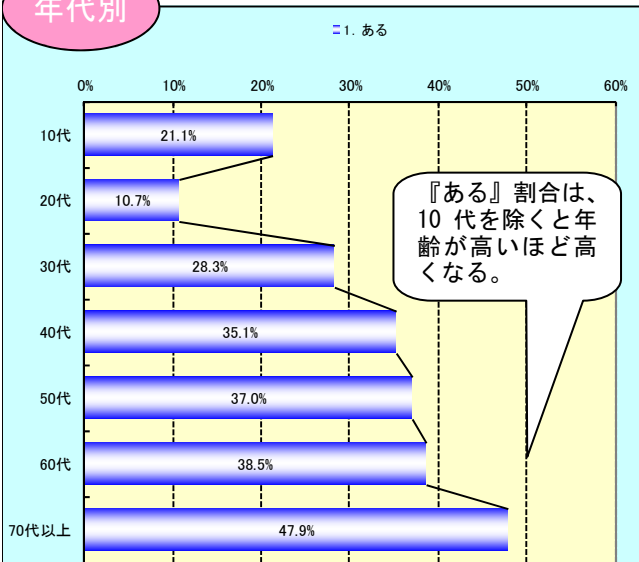
男女別



校区別

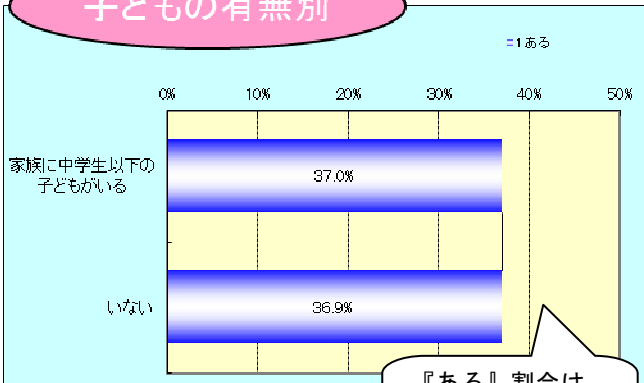


年代別



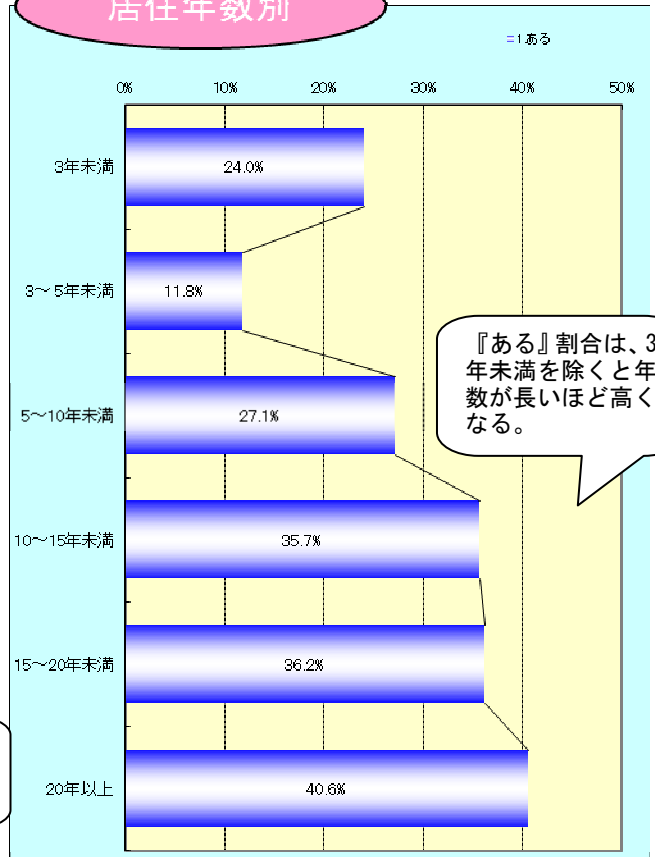
問 5

子どもの有無別



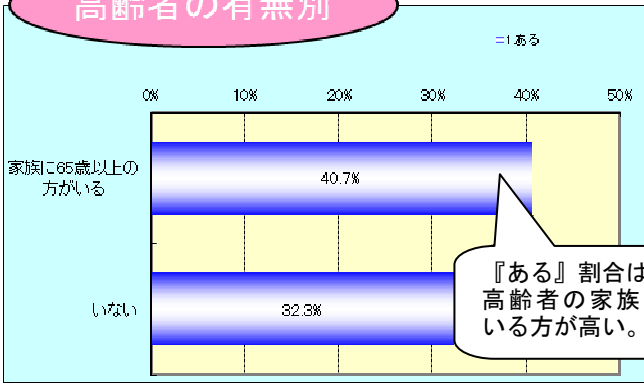
『ある』割合は、子どもの有無に関わらず差はない。

居住年数別



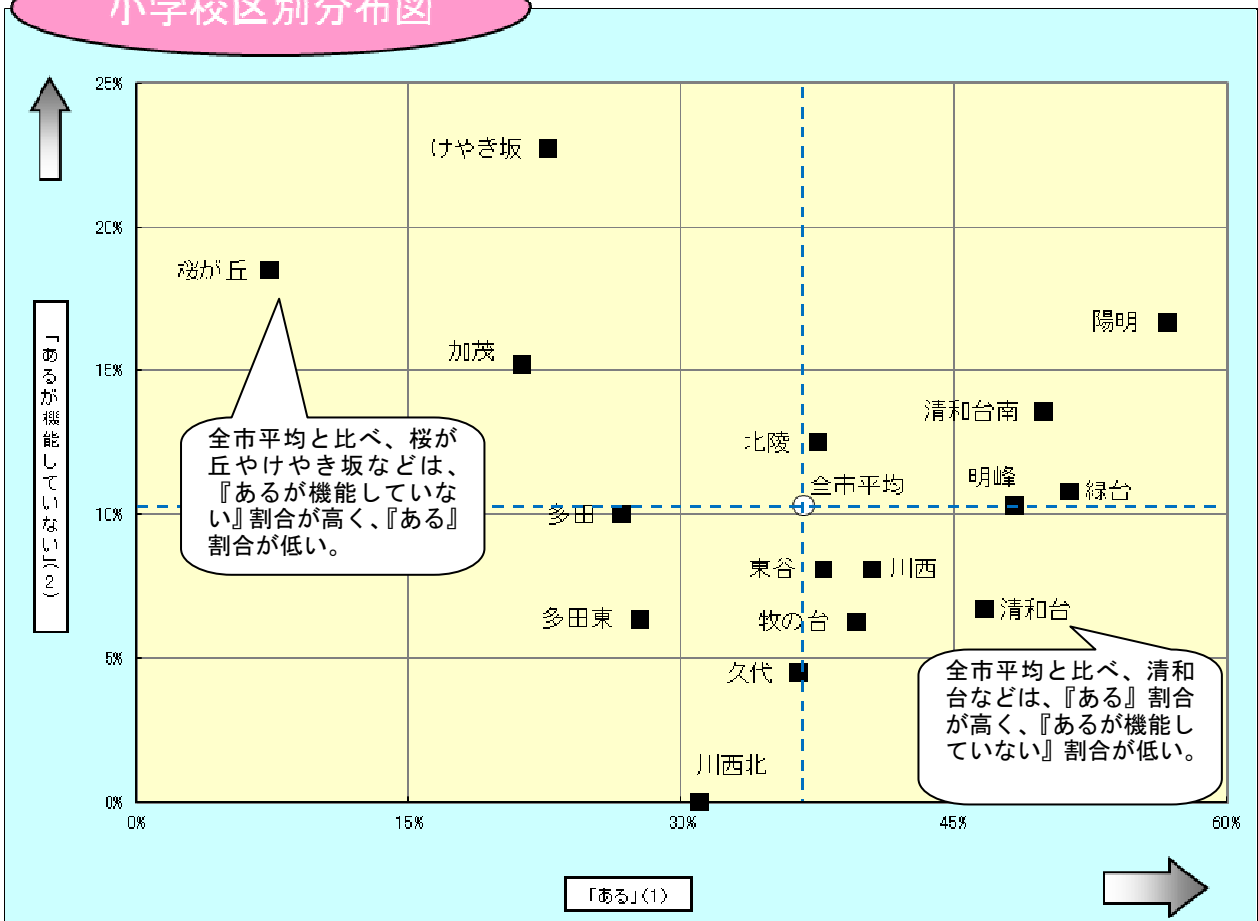
『ある』割合は、3年未満を除くと年数が長いほど高くなる。

高齢者の有無別



『ある』割合は、高齢者の家族がいる方が高い。

小学校区別分布図

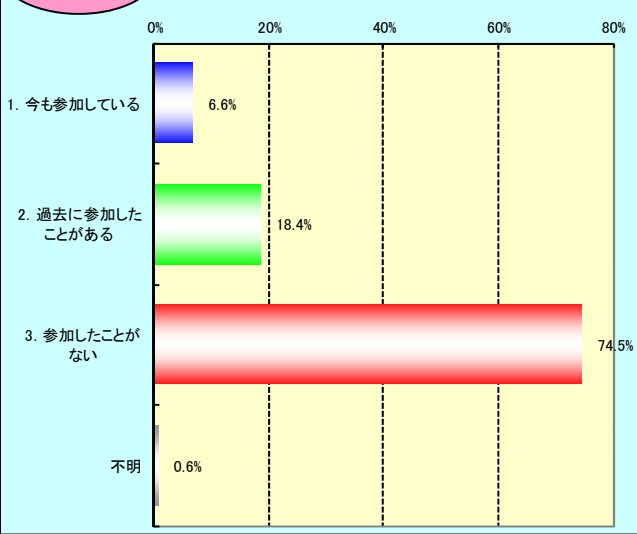


全市平均と比べ、桜が丘やけやき坂などは、『あるが機能していない』割合が高く、『ある』割合が低い。

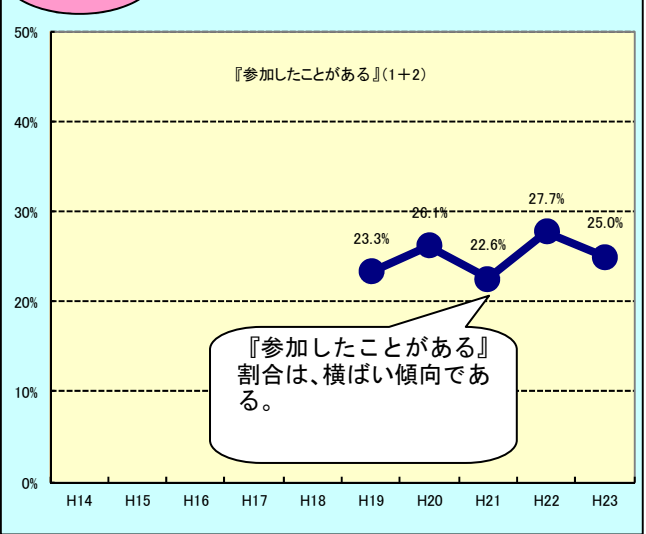
全市平均と比べ、清和台などは、『ある』割合が高く、『あるが機能していない』割合が低い。

問 6 福祉のボランティア活動に参加したことがありますか。

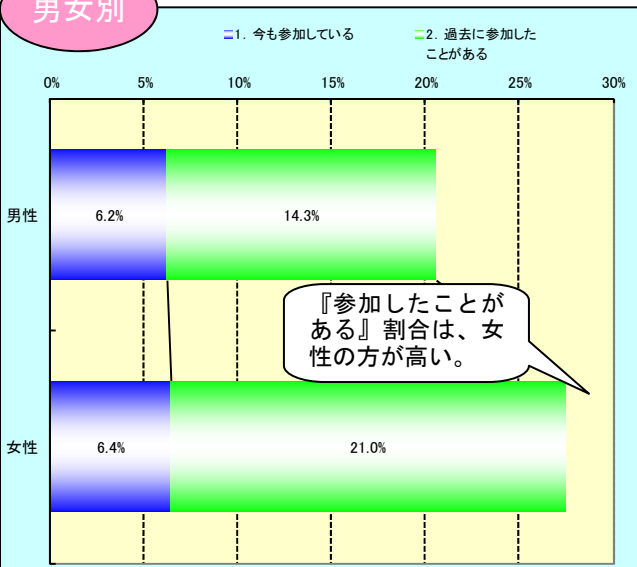
H23



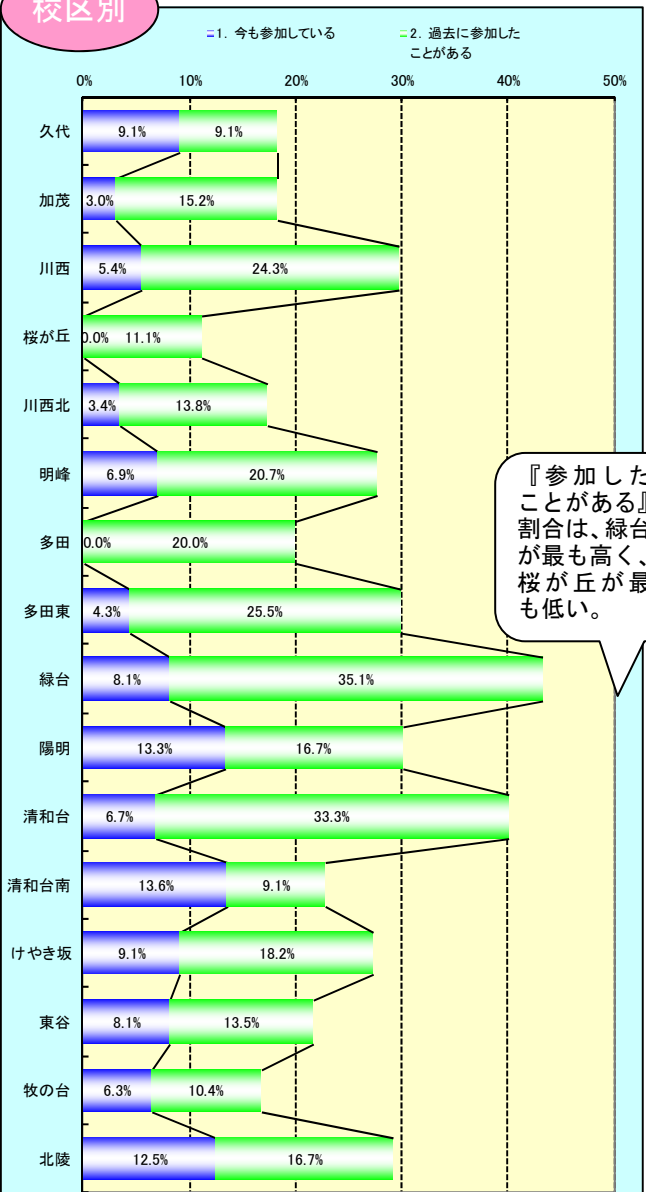
トレンド



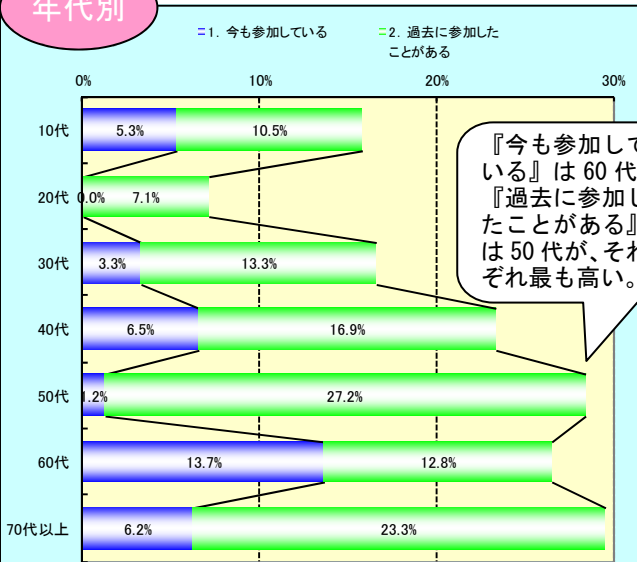
男女別



校区別

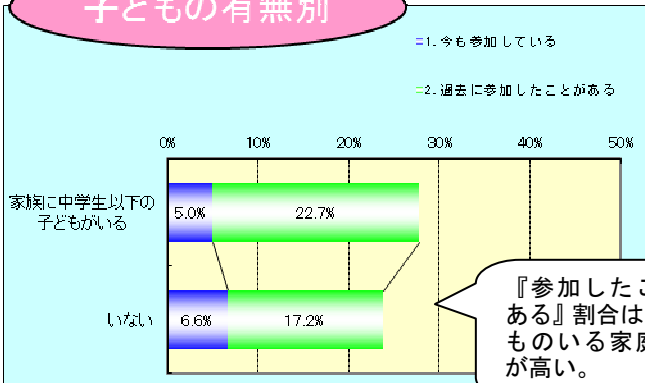


年代別



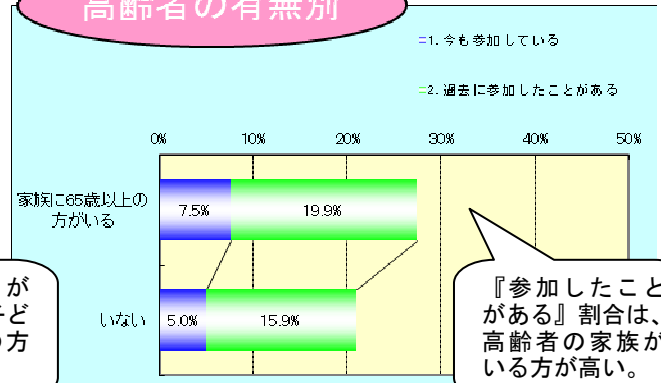
問 6

子どもの有無別



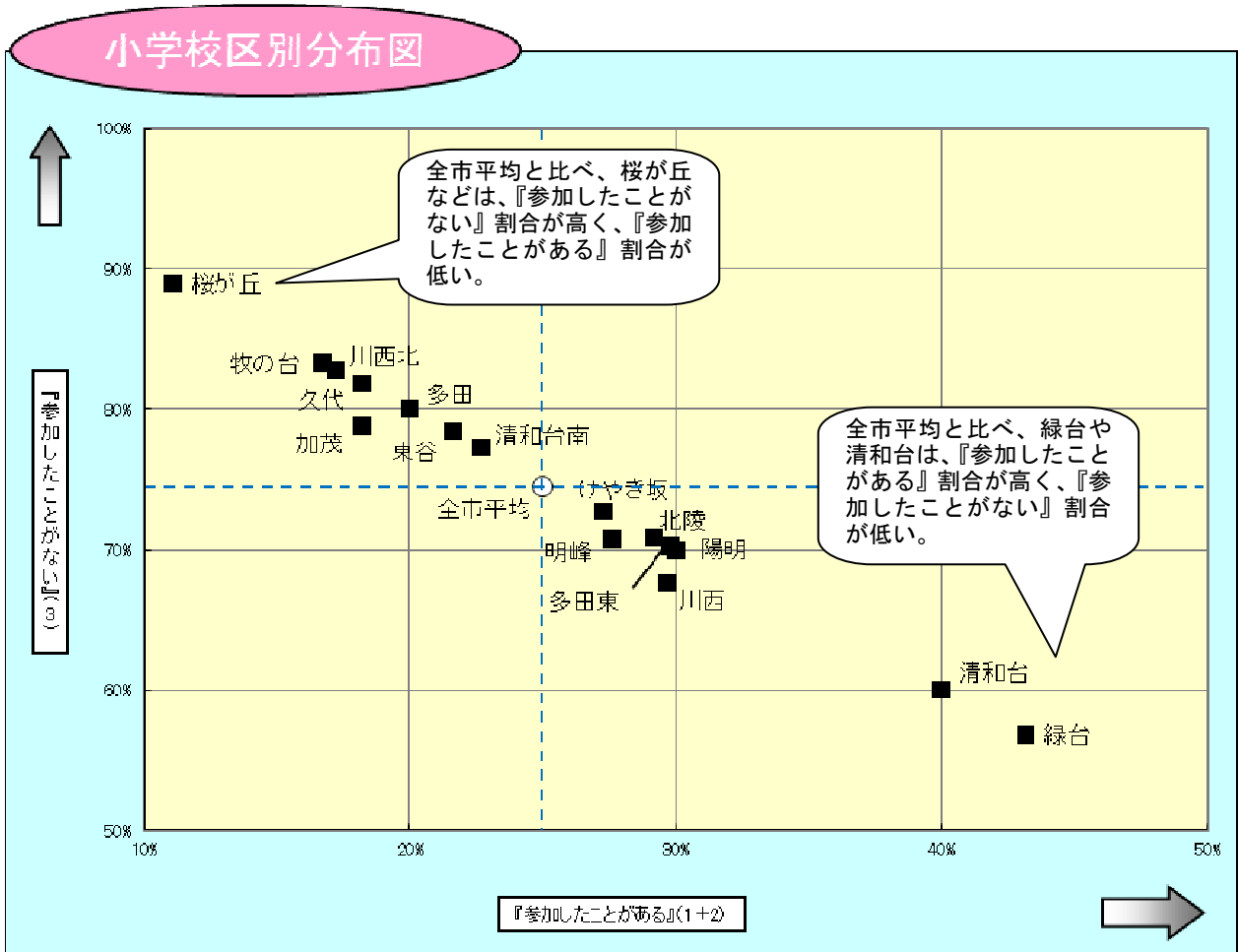
『参加したことがある』割合は、子どもがいる家庭の方が高い。

高齢者の有無別



『参加したことがある』割合は、高齢者の家族がいる方が高い。

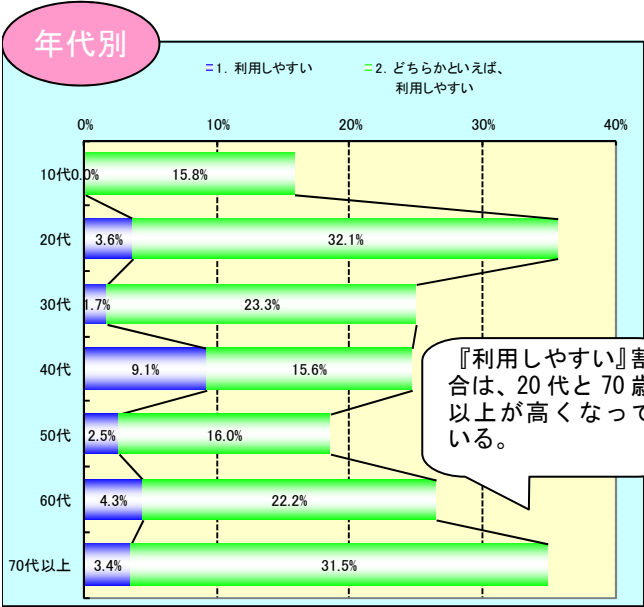
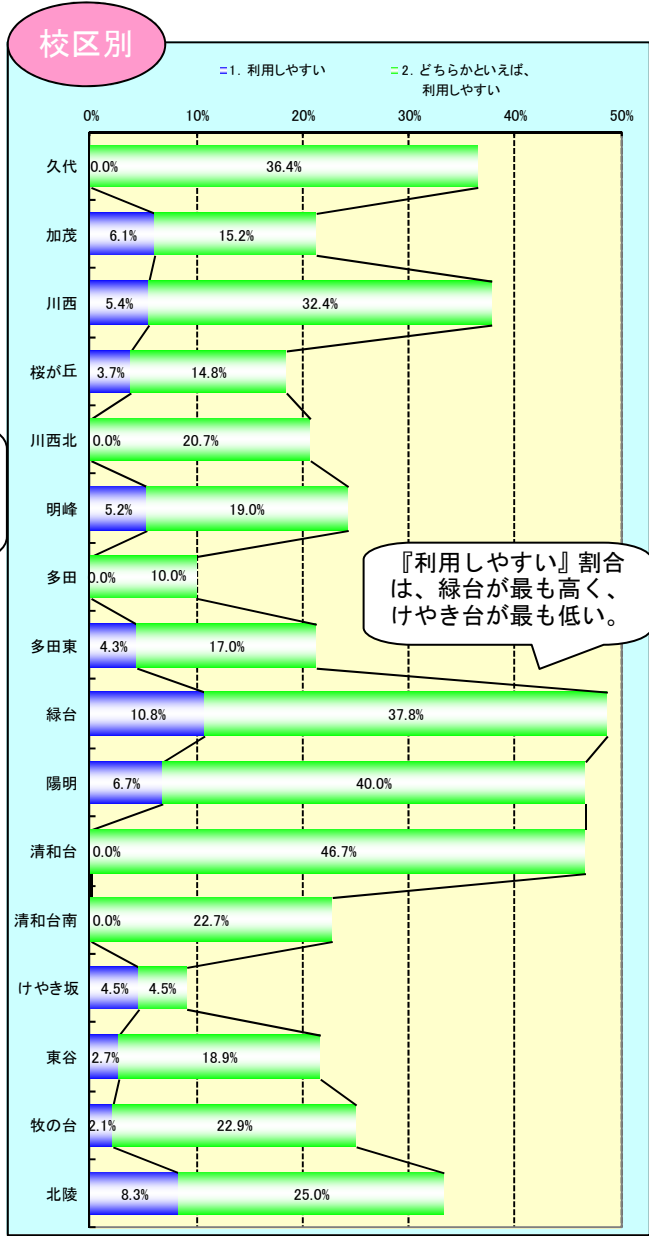
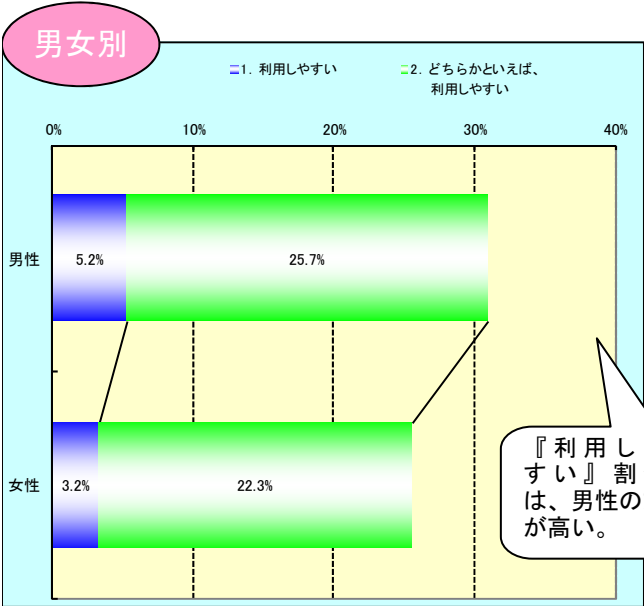
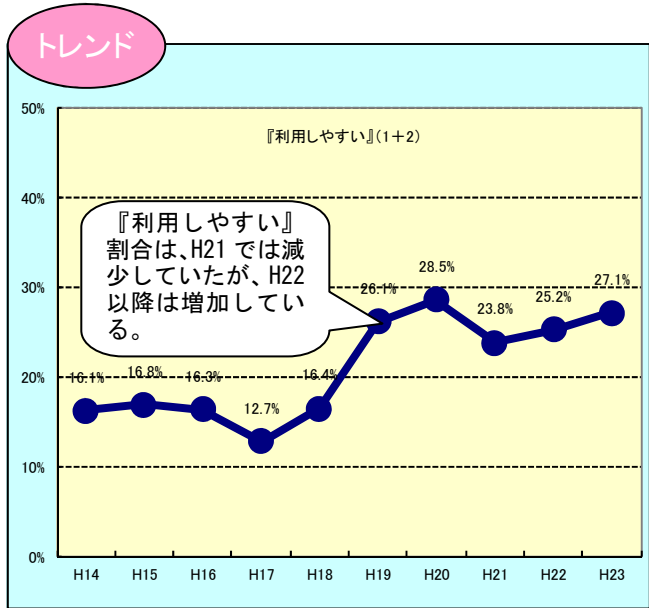
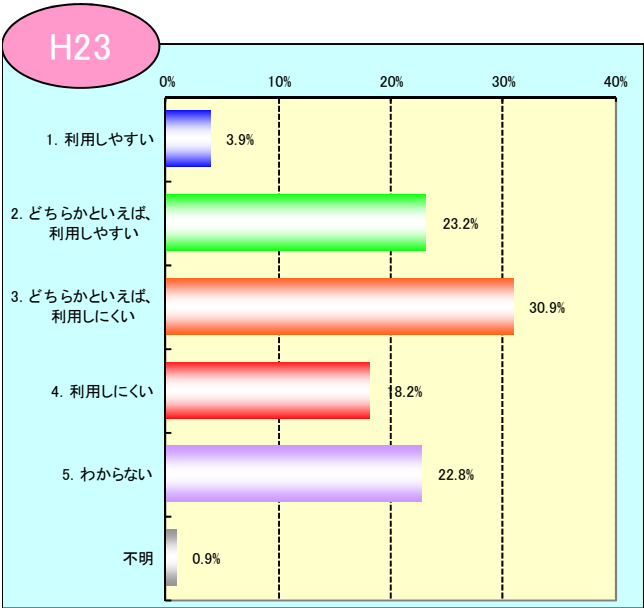
小学校区別分布図



全市平均と比べ、桜が丘などは、『参加したことがない』割合が高く、『参加したことがある』割合が低い。

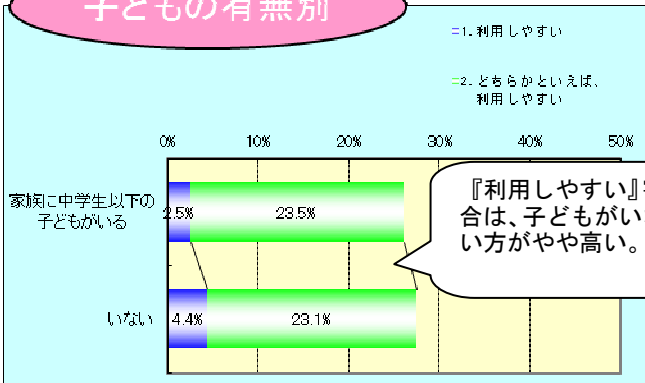
全市平均と比べ、緑台や清和台は、『参加したことがある』割合が高く、『参加したことがない』割合が低い。

問7 川西市内の施設や道路は、小さな子どもを連れた人や高齢者、障がいがある人たちにとって、安全に利用しやすいですか。

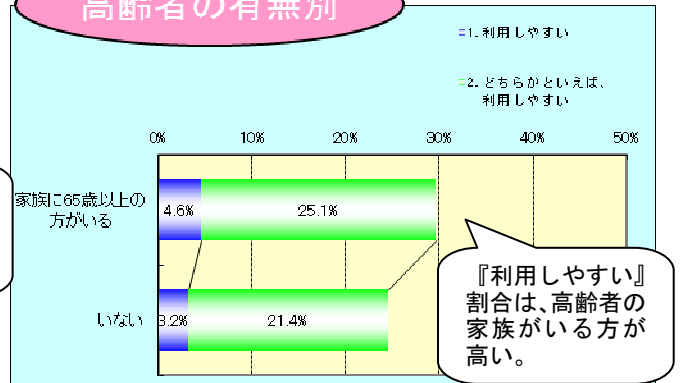


問7

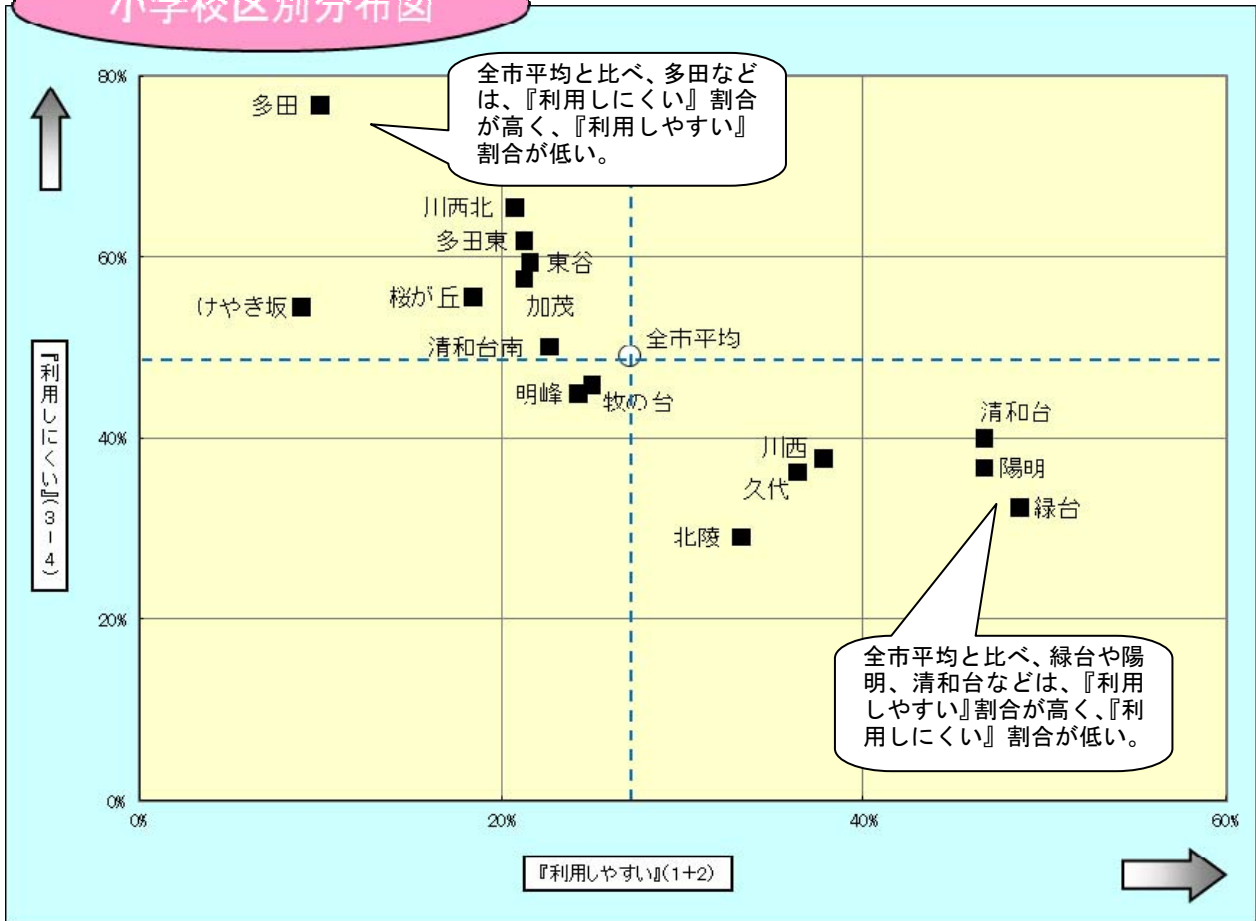
子どもの有無別



高齢者の有無別

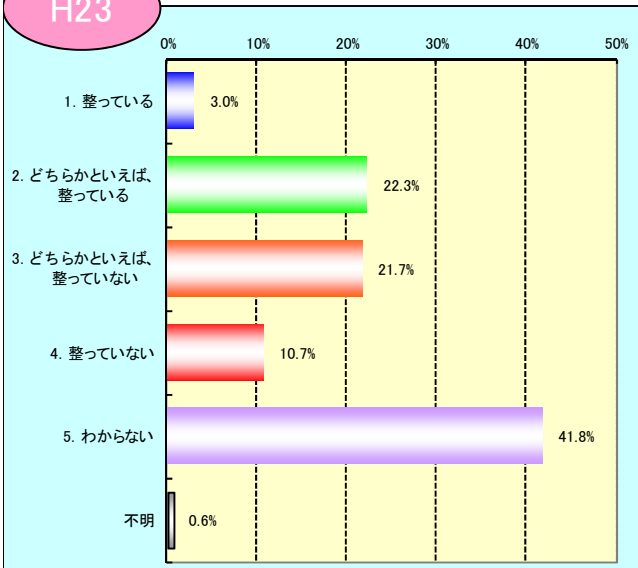


小学校区別分布図

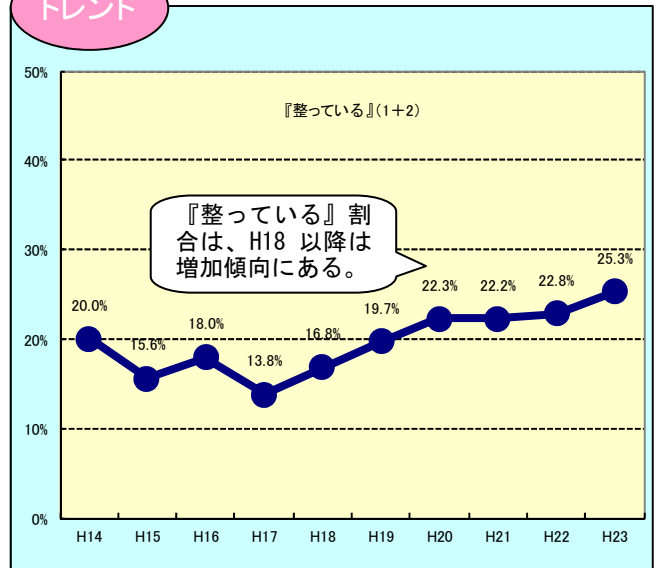


問 8 川西市は高齢者が生きがいを持って生活できるような環境が整っていますか。

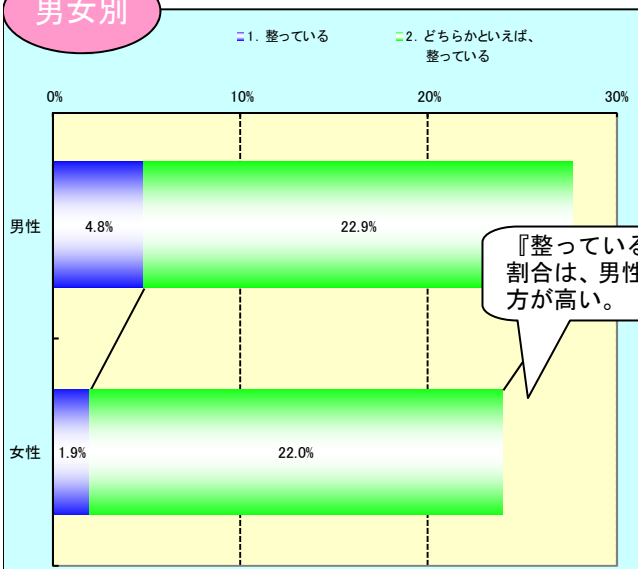
H23



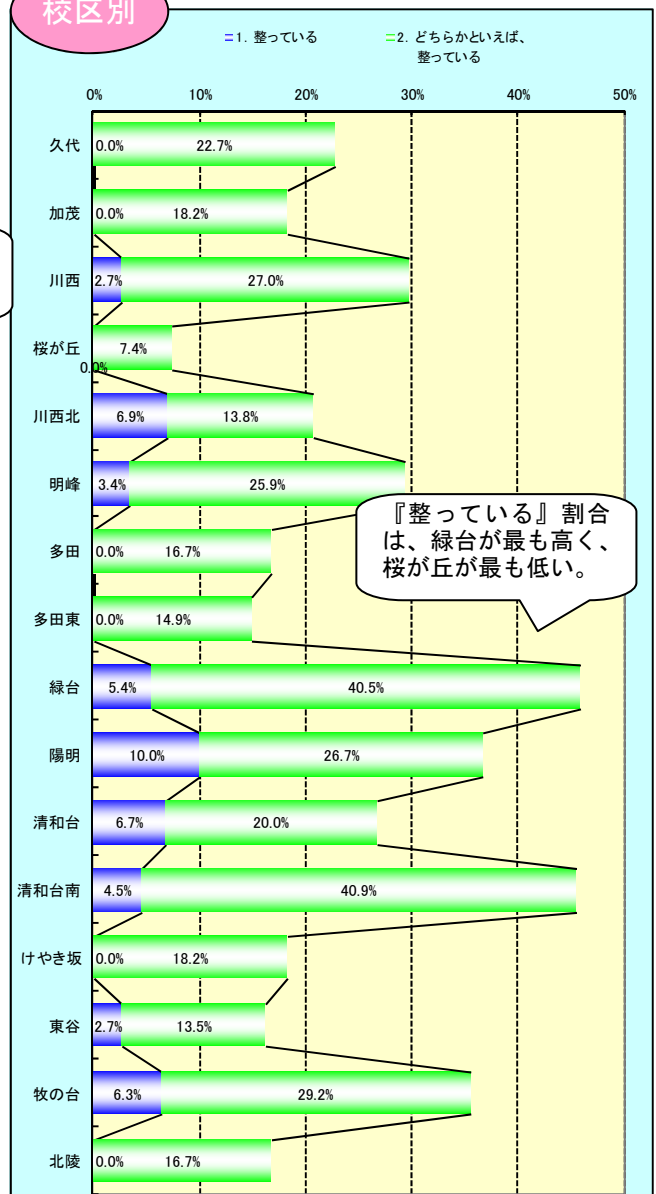
トレンド



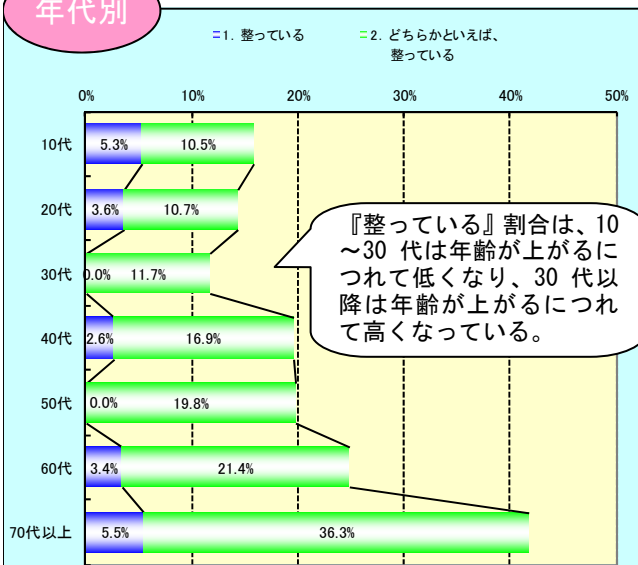
男女別



校区別

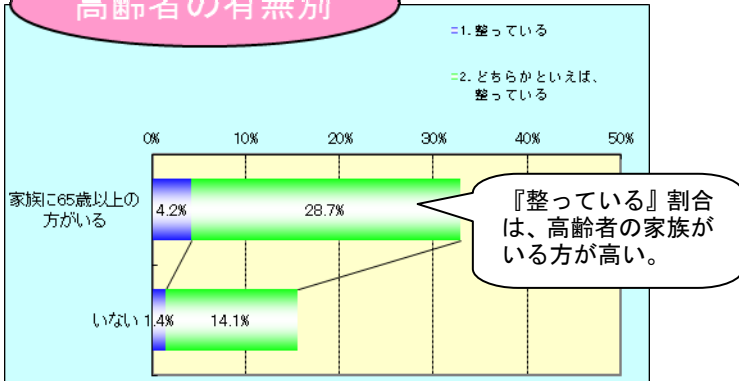


年代別

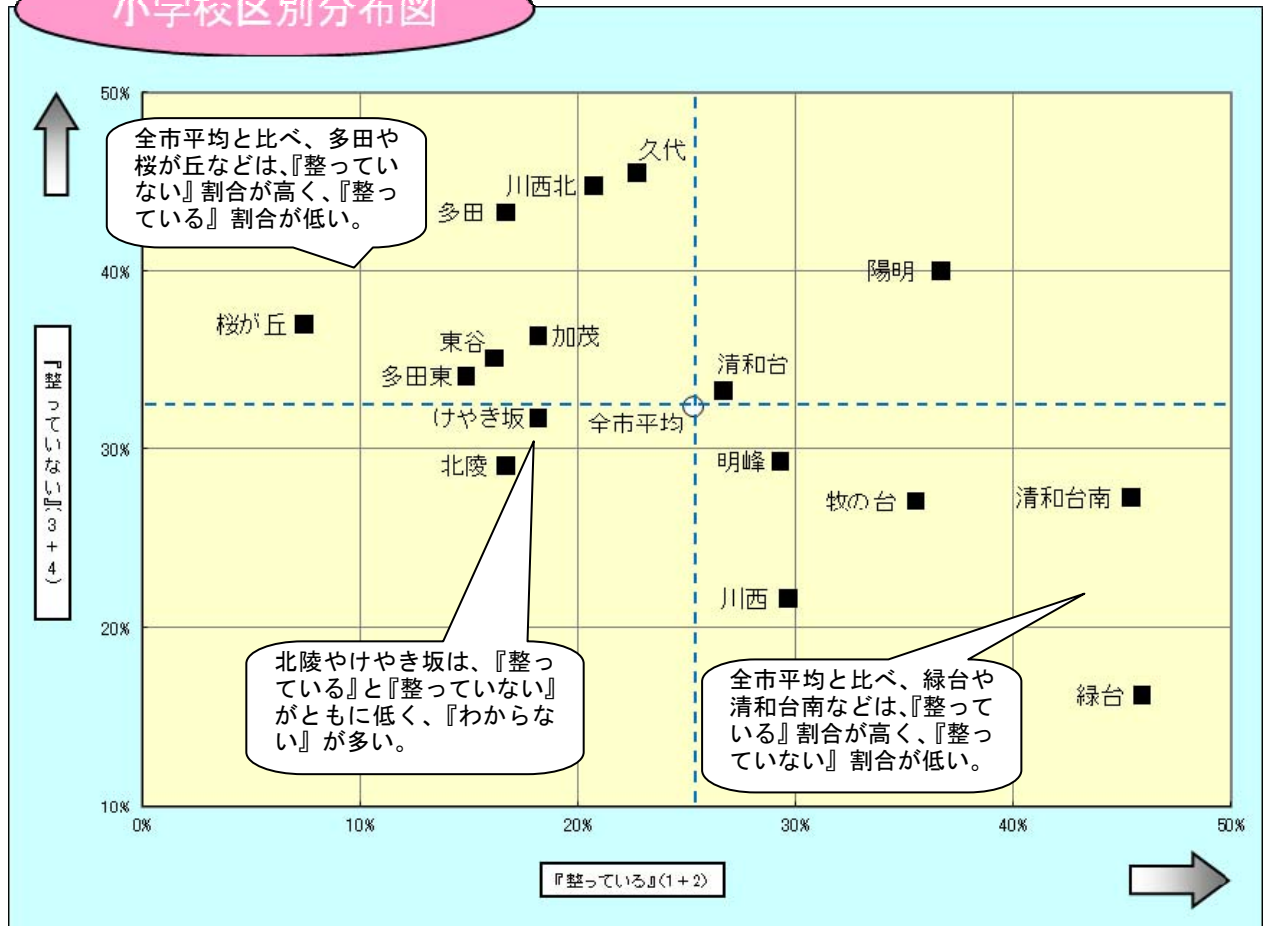


問 8

高齢者の有無別

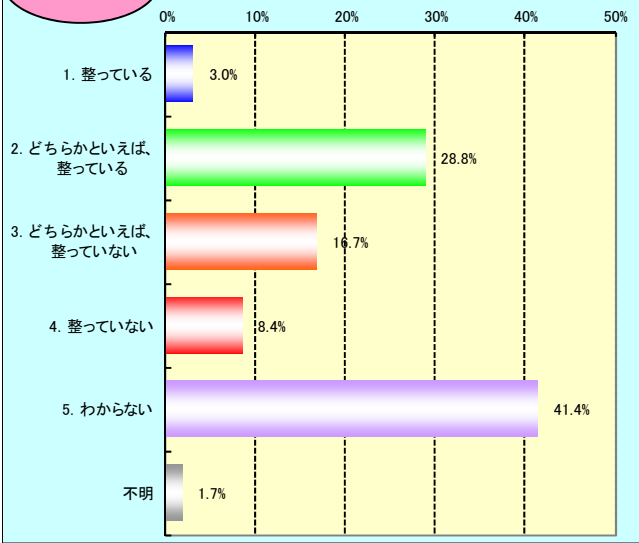


小学校区別分布図

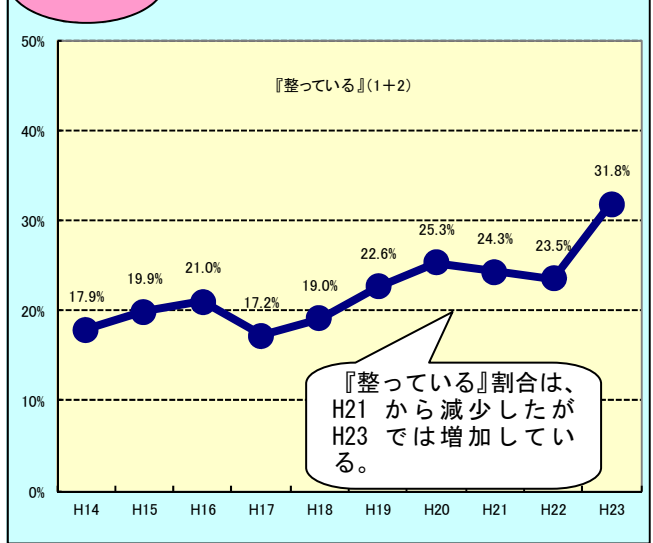


問 9 川西市は子育てをしやすい環境が整っていますか。

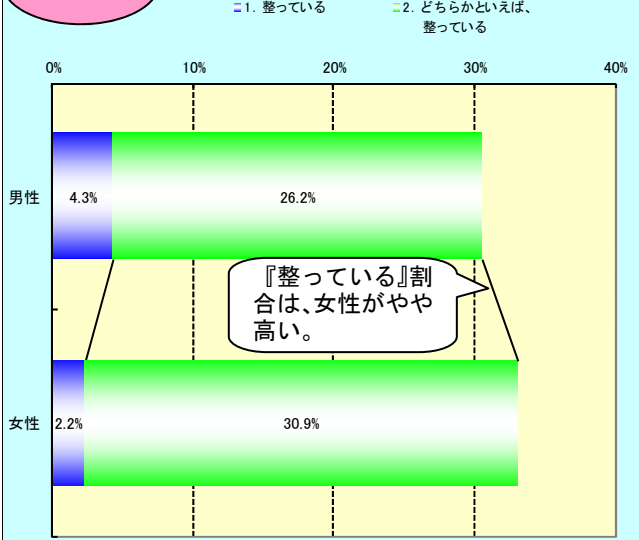
H23



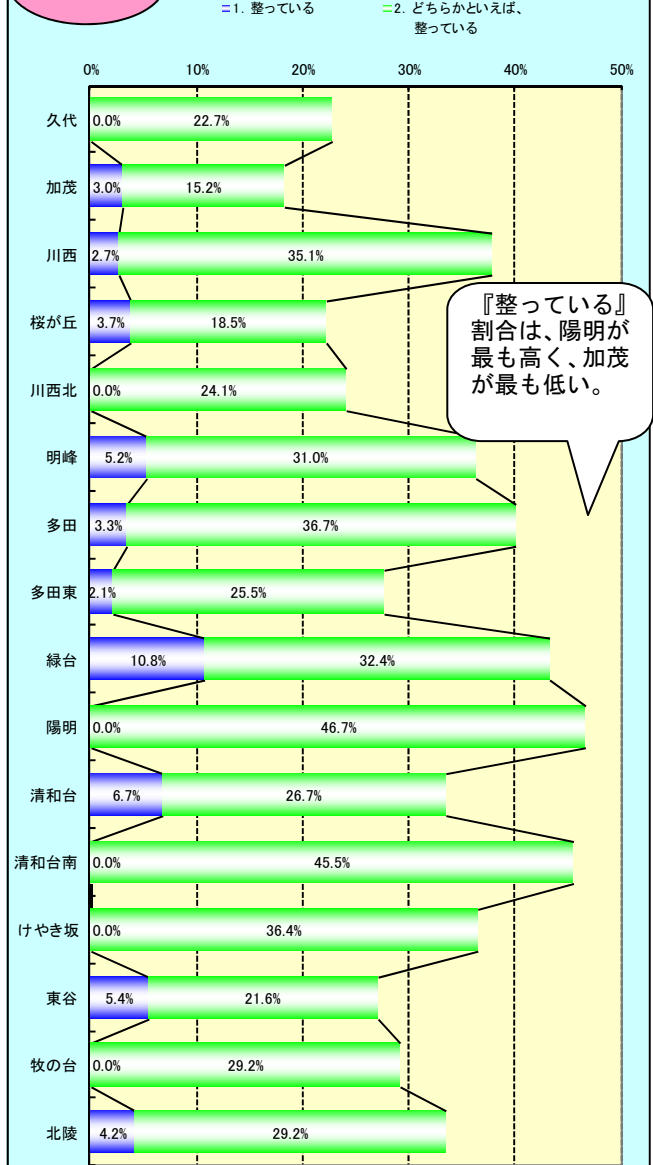
トレンド



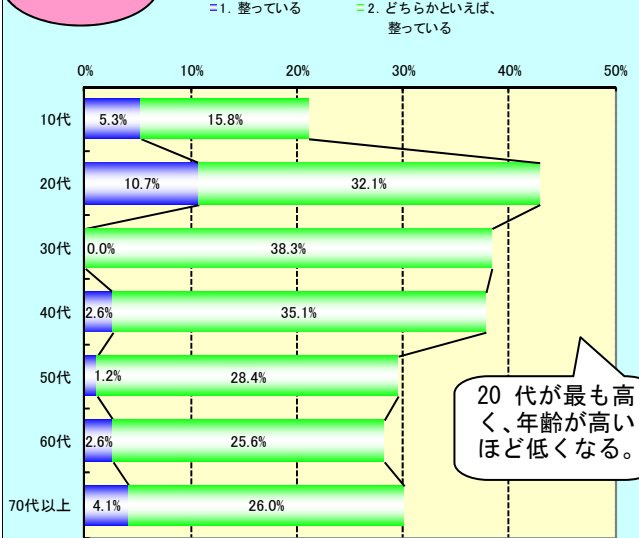
男女別



校区別

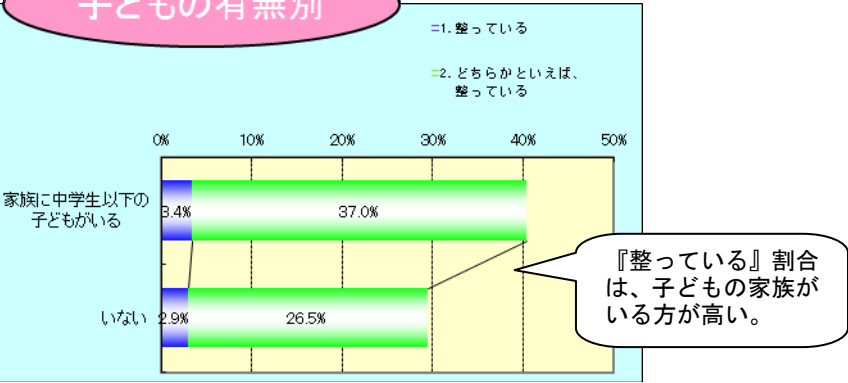


年代別

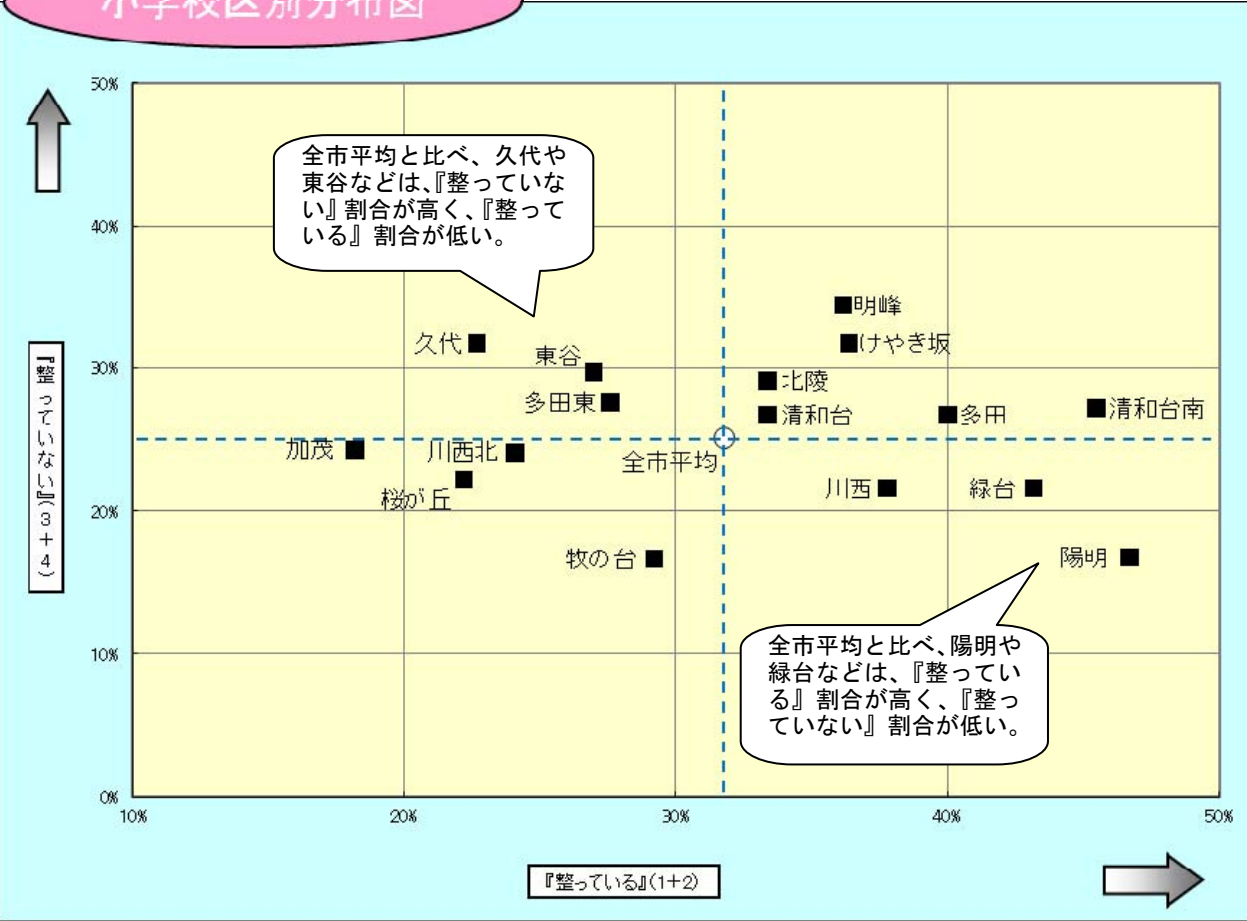


問9

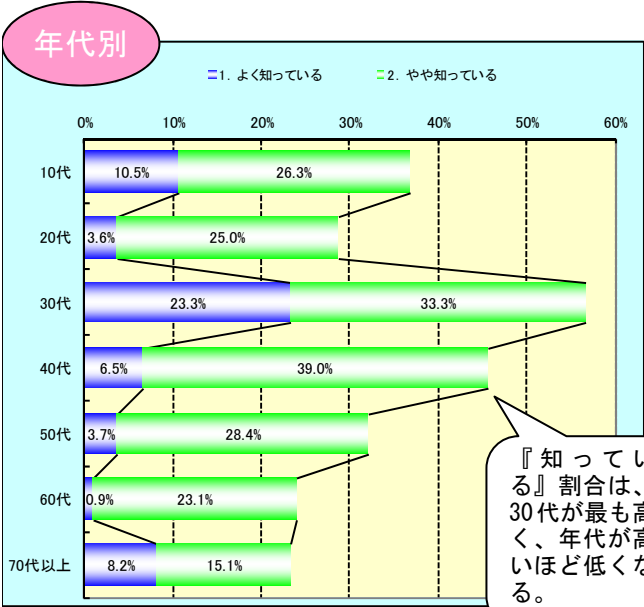
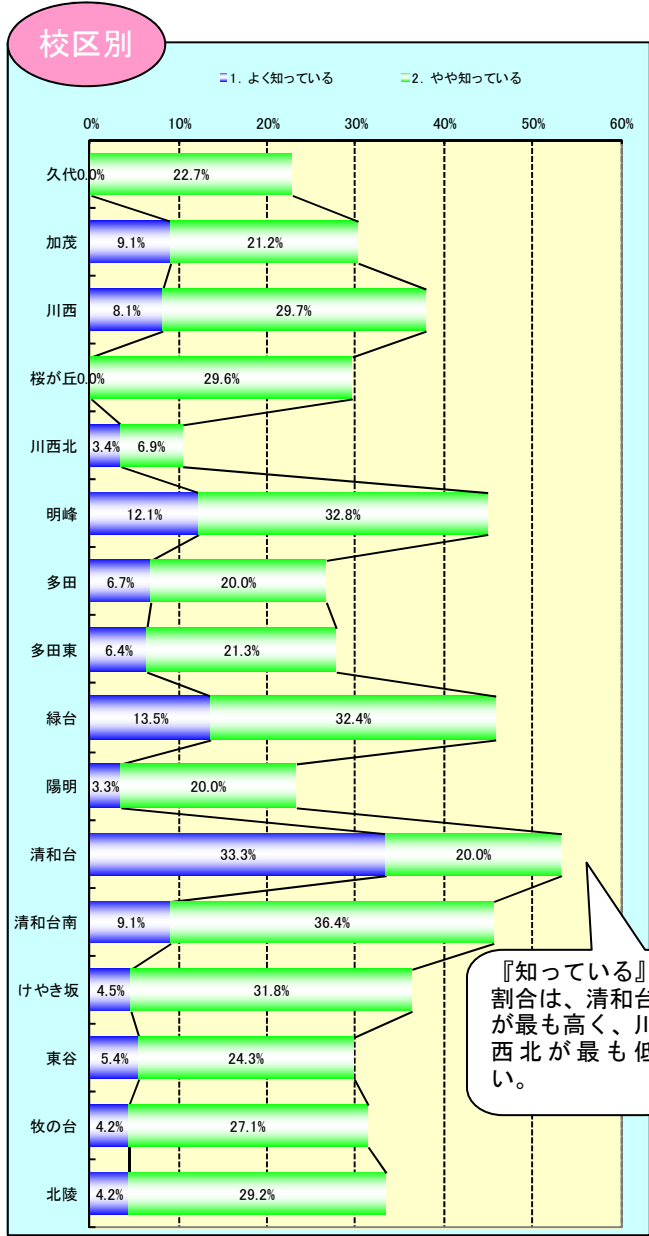
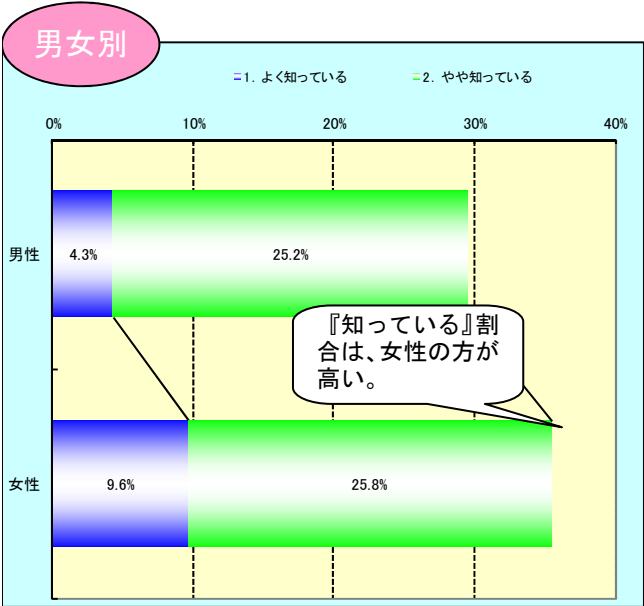
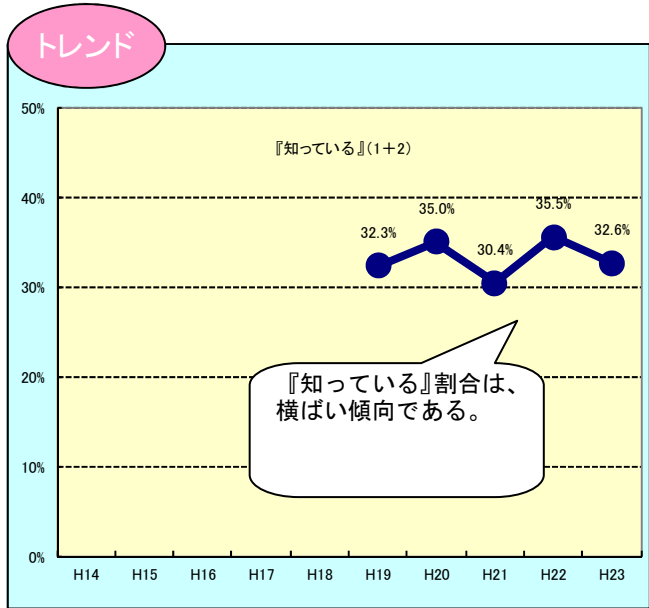
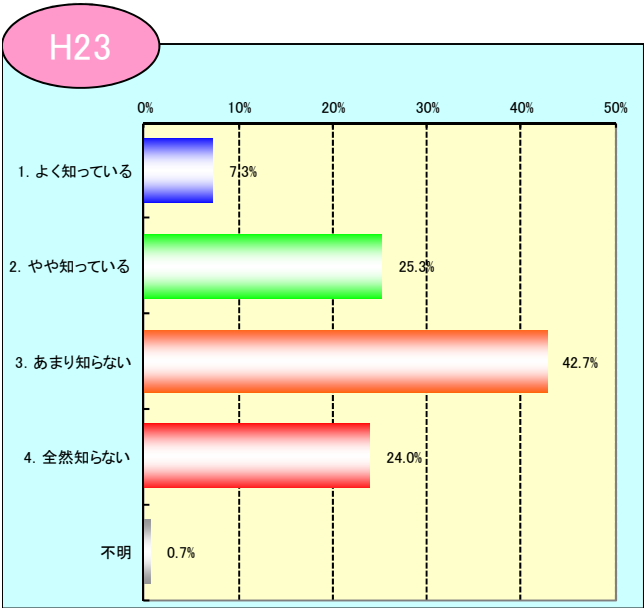
子どもの有無別



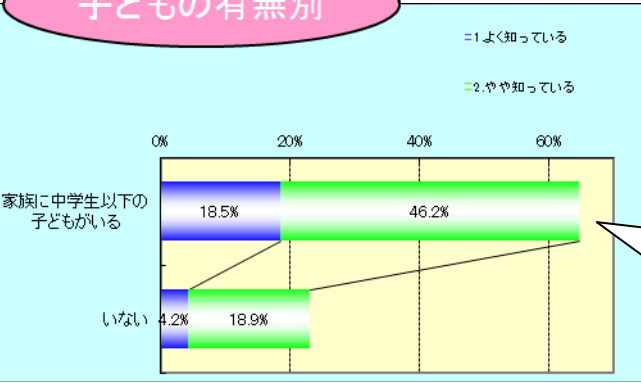
小学校区別分布図



問10 お住まいの地域の学校や幼稚園の教育や学校園活動などの様子をご存じですか。

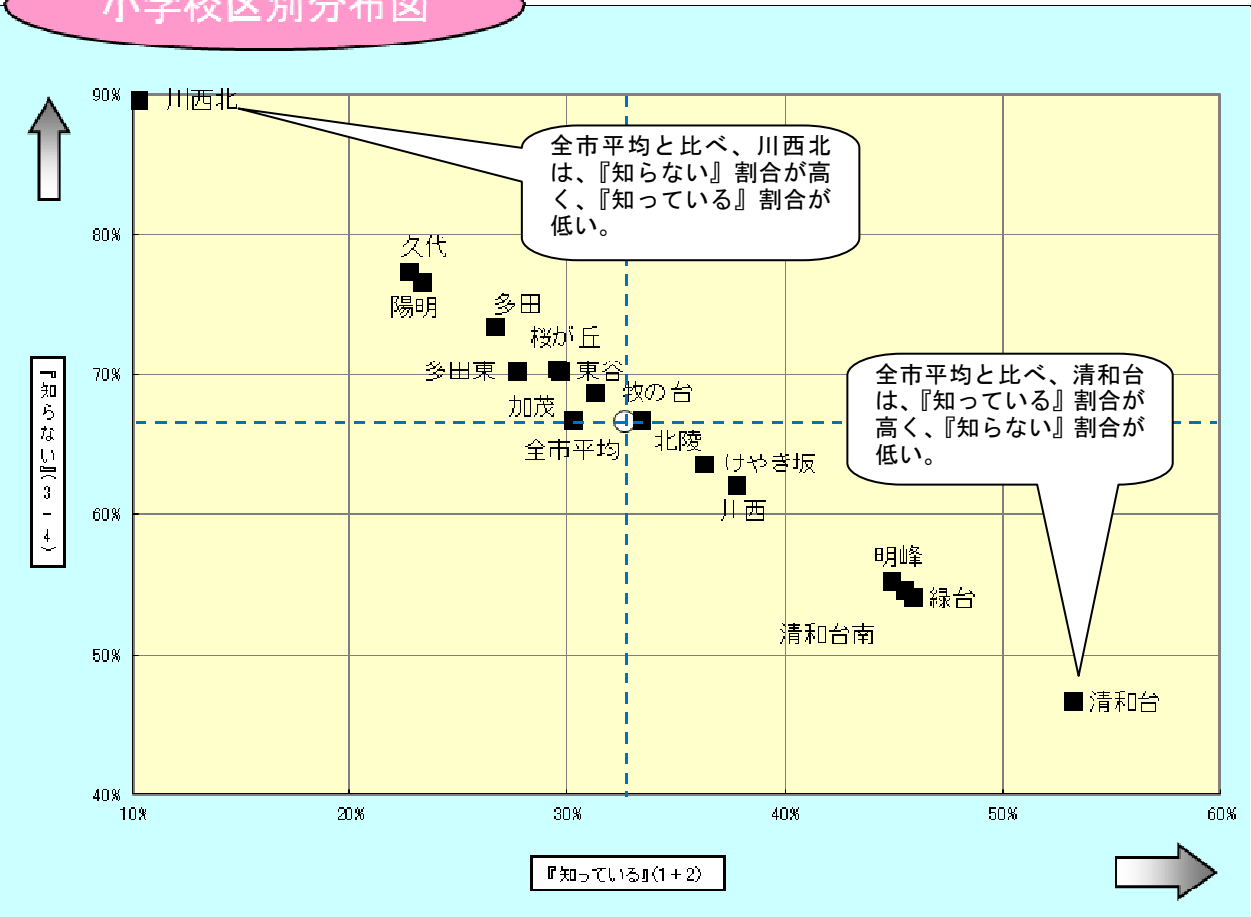


子どもの有無別



『知っている』割合は、子どもの家族がいる方が高く、子どもの家族がない方の倍以上となっている。

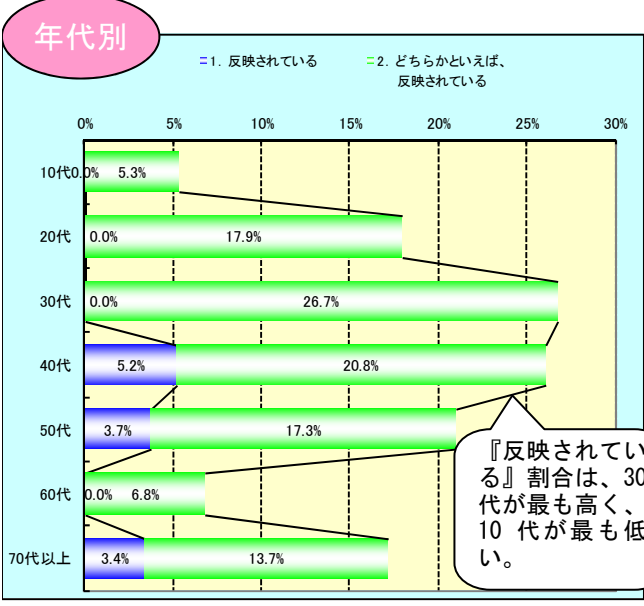
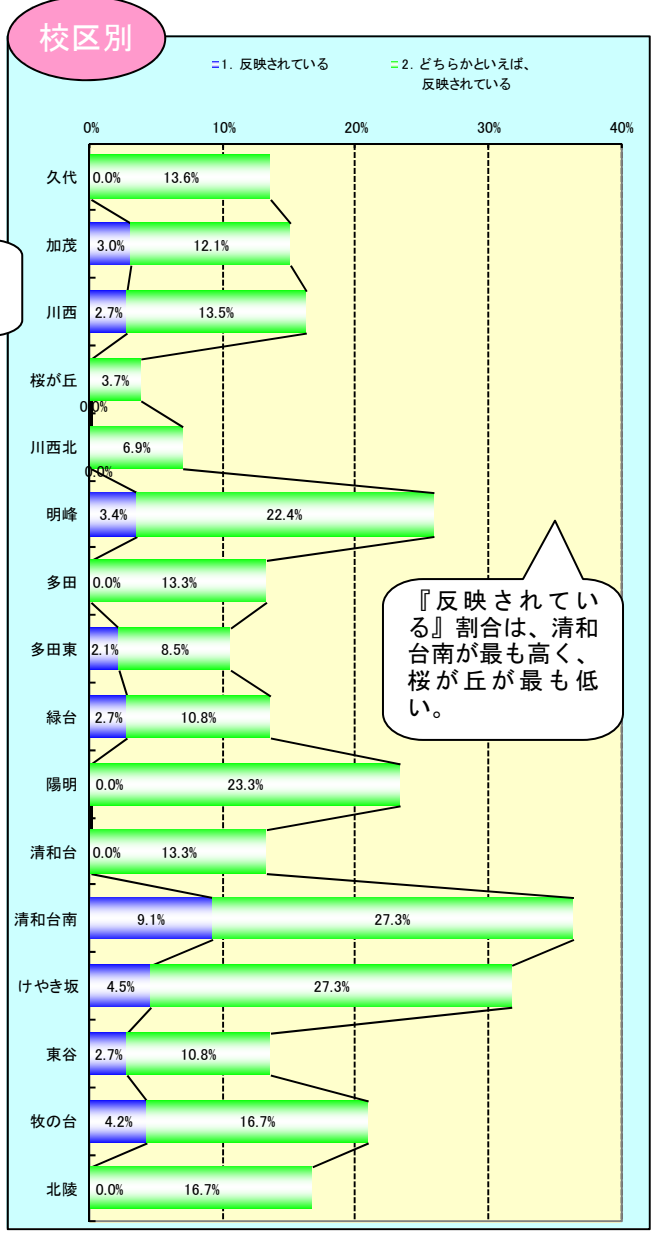
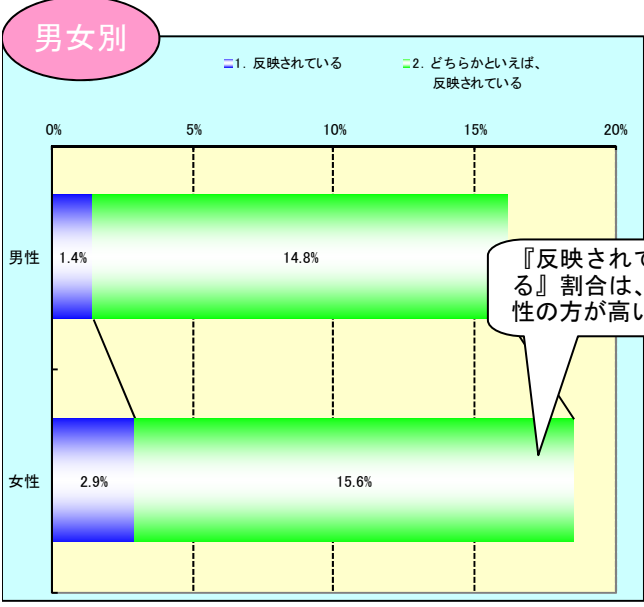
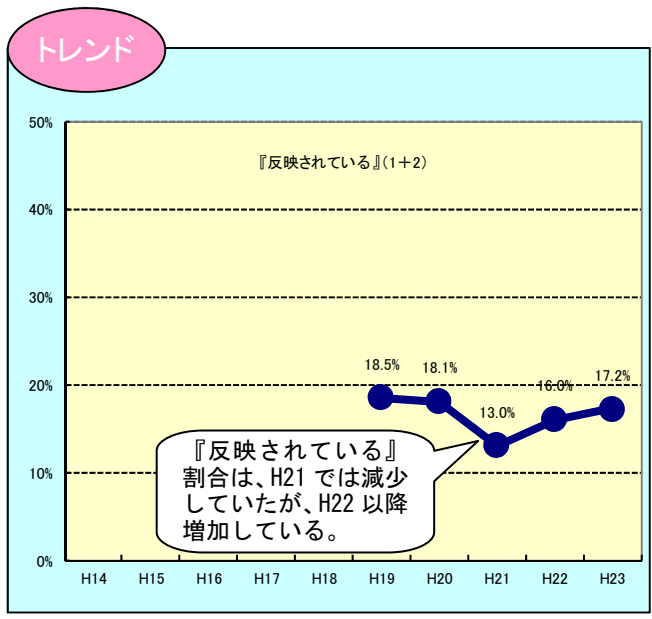
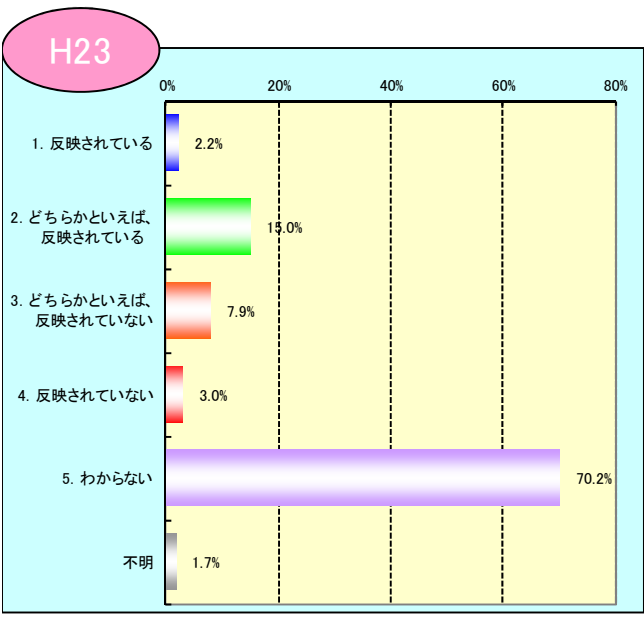
小学校区別分布図



全市平均と比べ、川西北は、『知らない』割合が高く、『知っている』割合が低い。

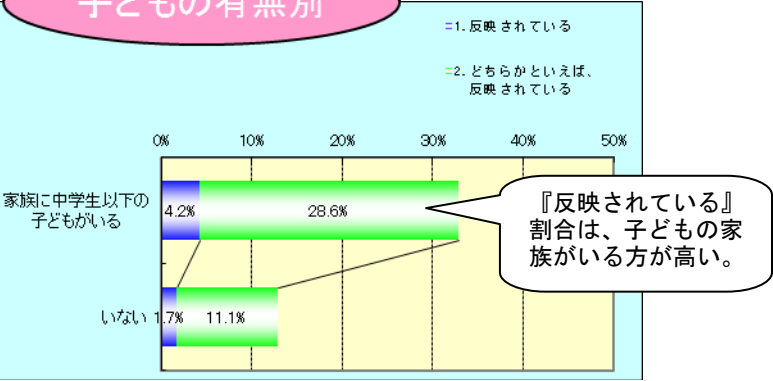
全市平均と比べ、清和台は、『知っている』割合が高く、『知らない』割合が低い。

問11 お住まいの地域の学校や幼稚園の教育や運営に、保護者や住民の声が反映されていますか。

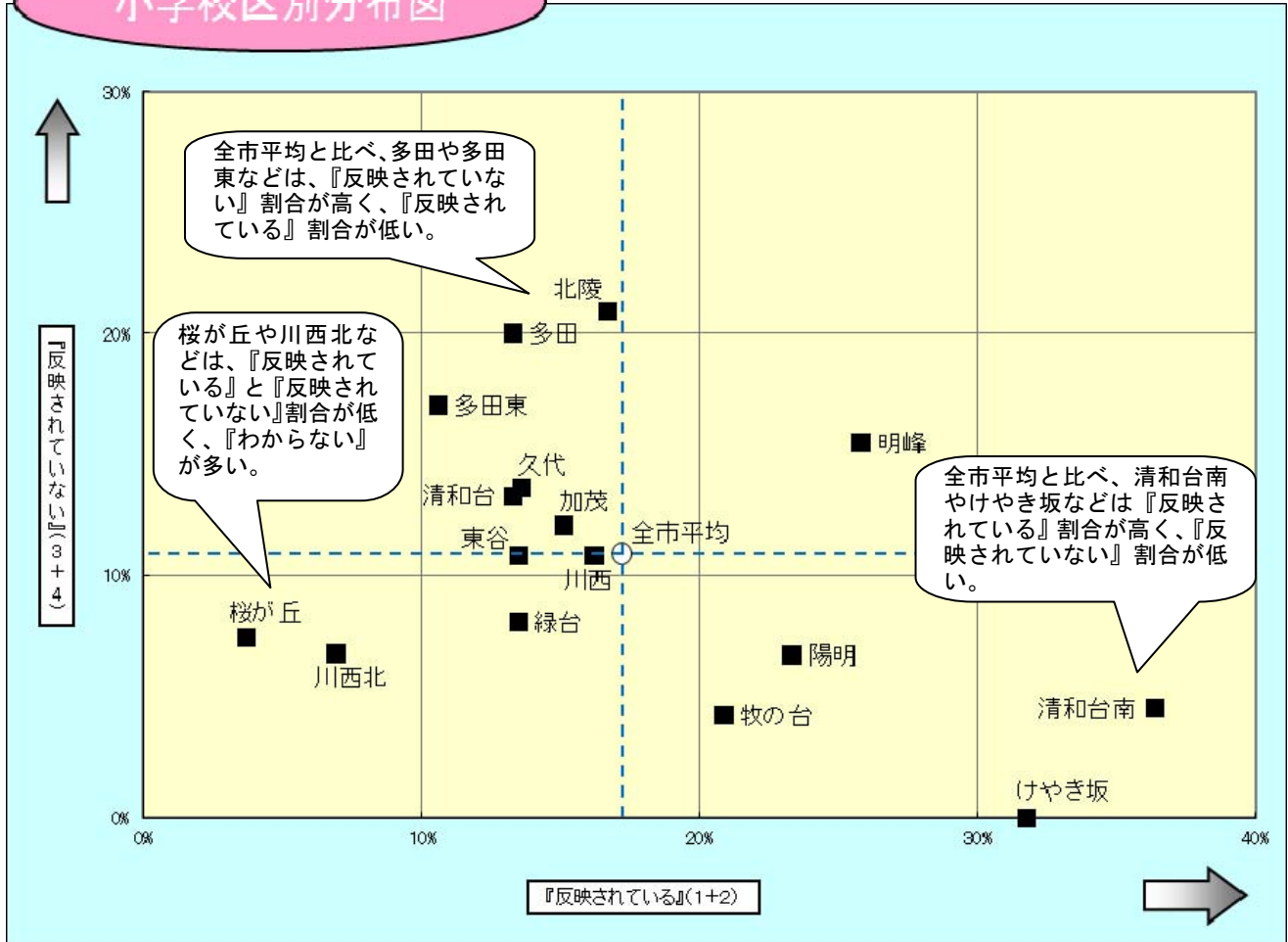


問11

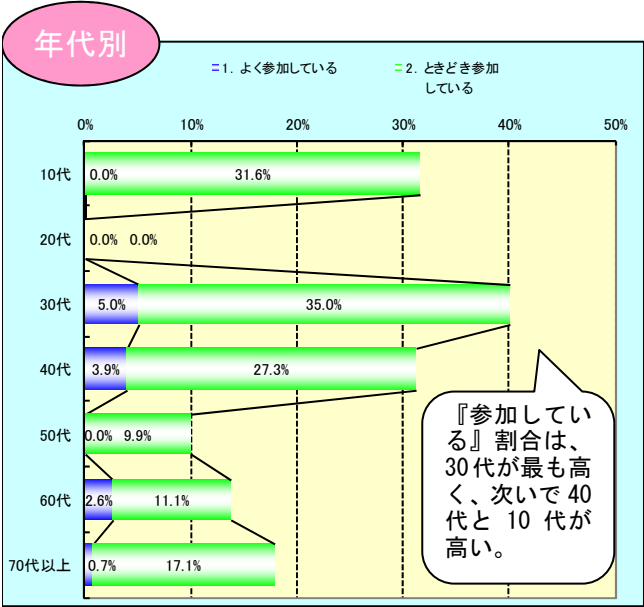
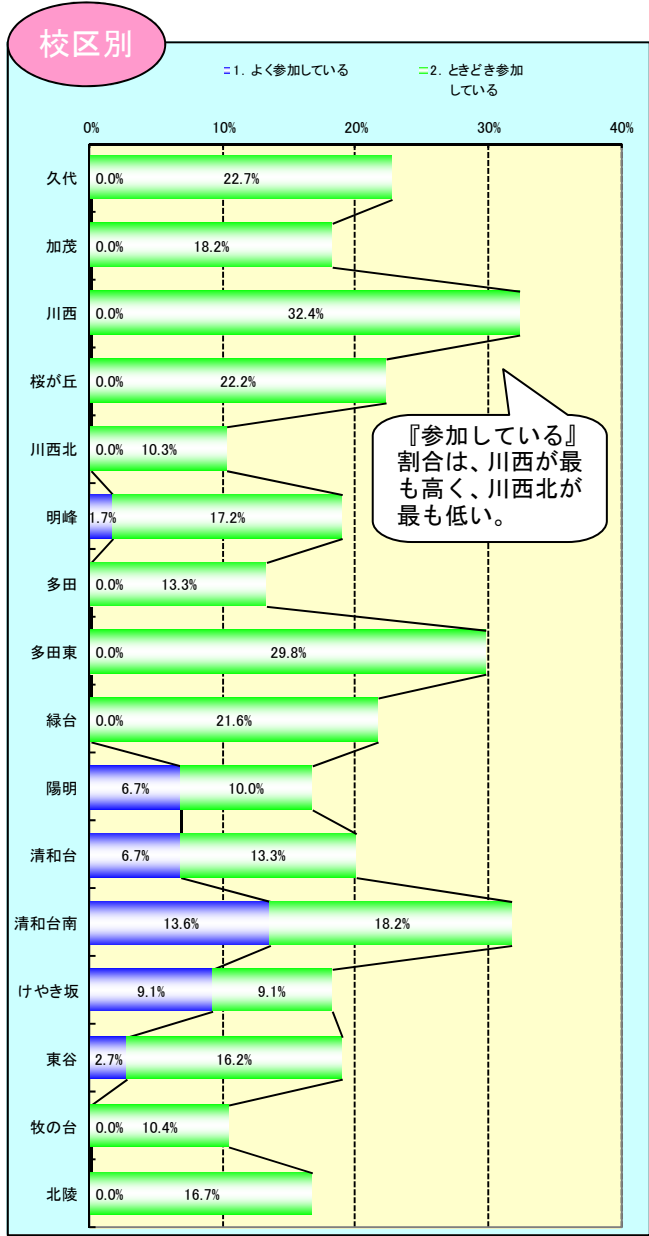
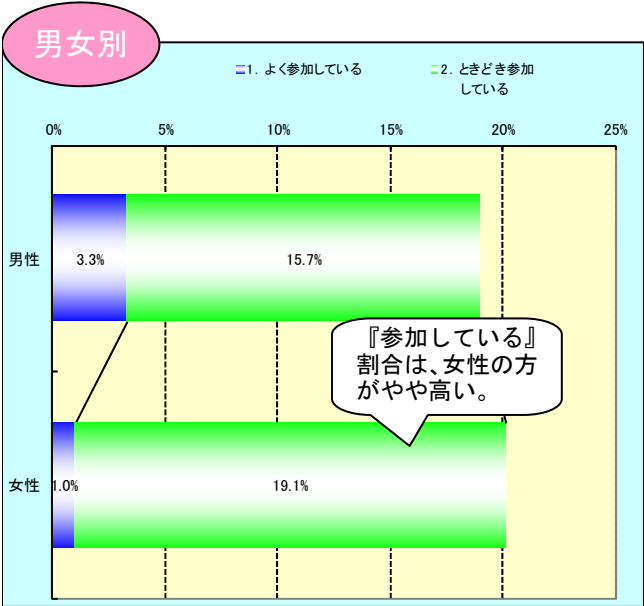
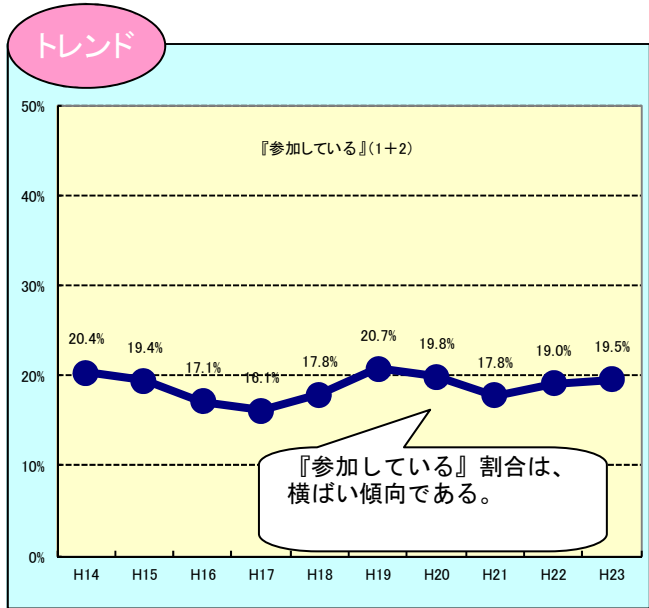
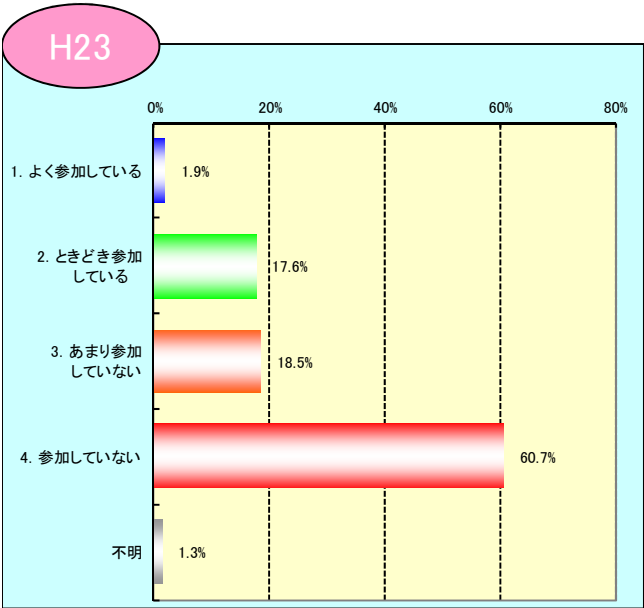
子どもの有無別



小学校区別分布図

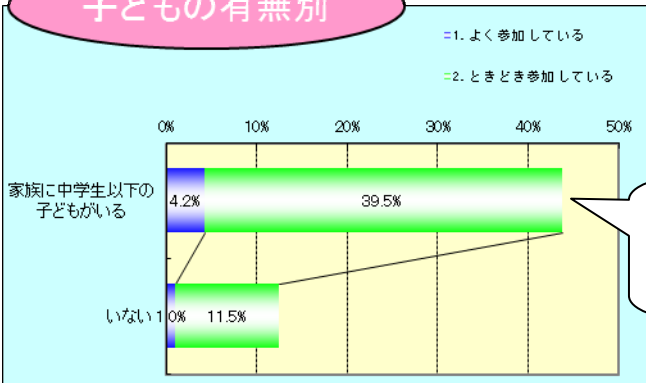


問12 小・中学校が主催する地域との交流行事に参加していますか。



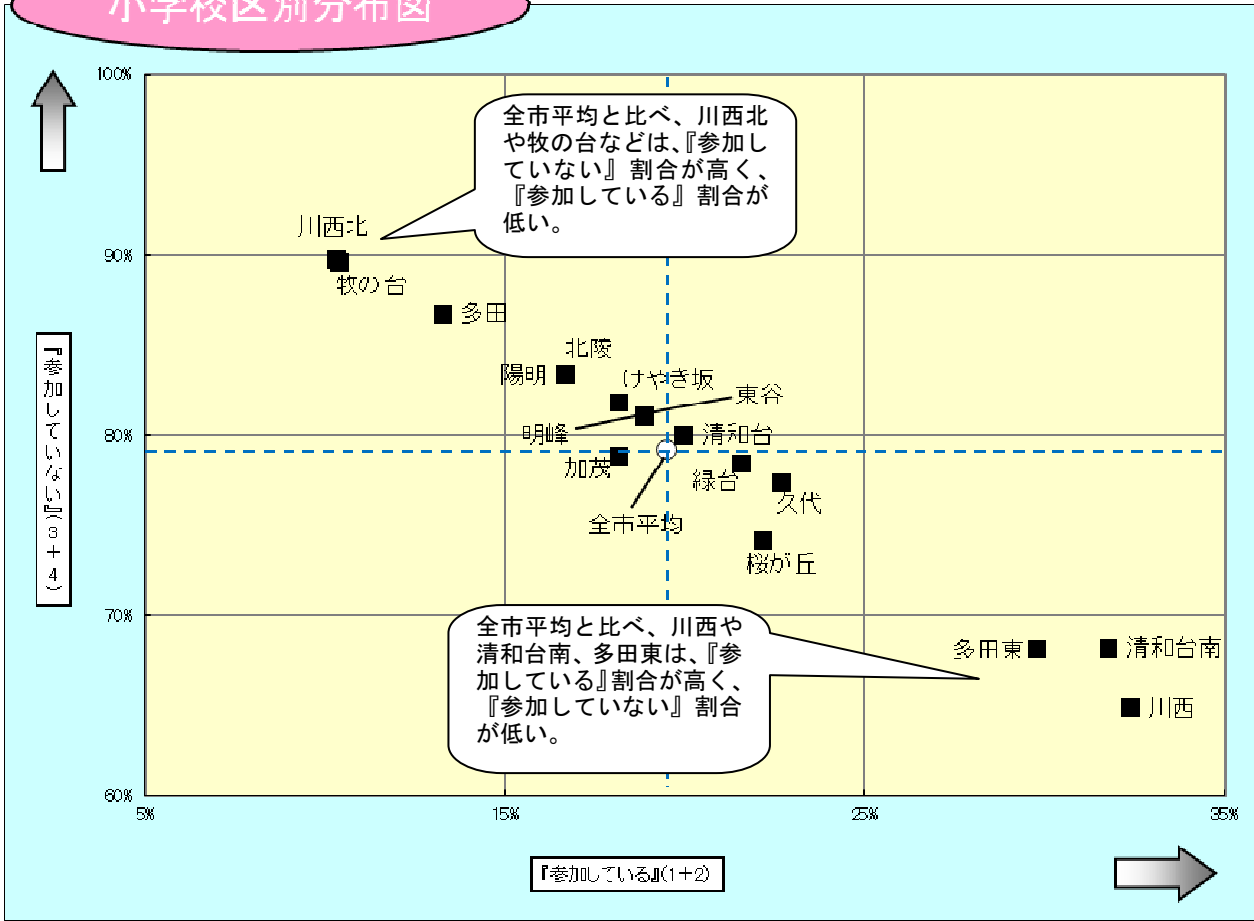
問12

子どもの有無別



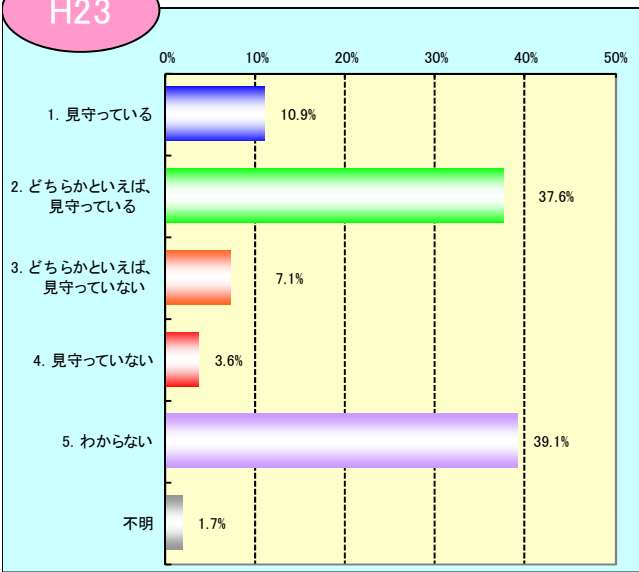
『参加している』割合は、子どもの家族がいる方が高く、子どもがいない家族の方の3倍以上となっている。

小学校区別分布図

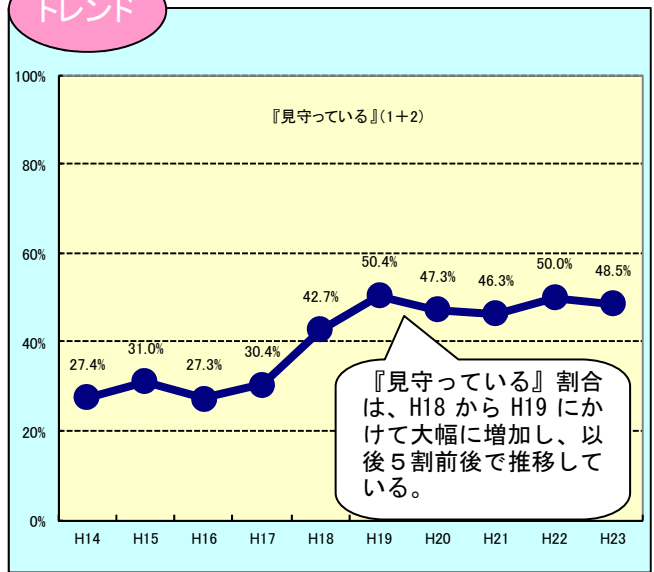


問13 家庭・地域・学校が連携して、子どもたちの成長を見守っていますか。

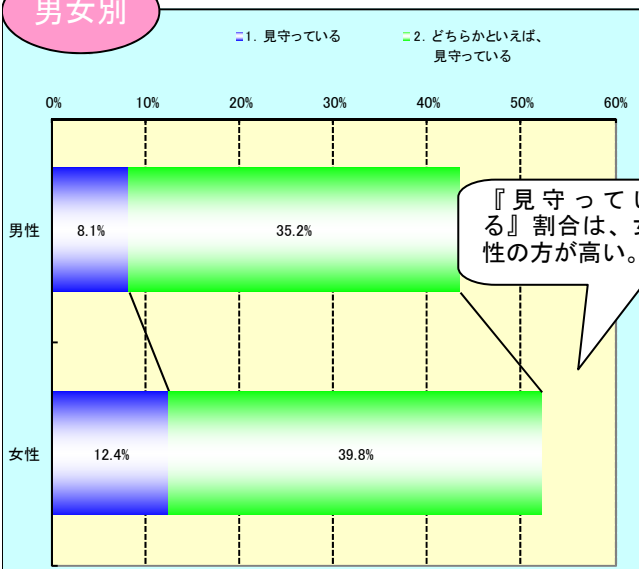
H23



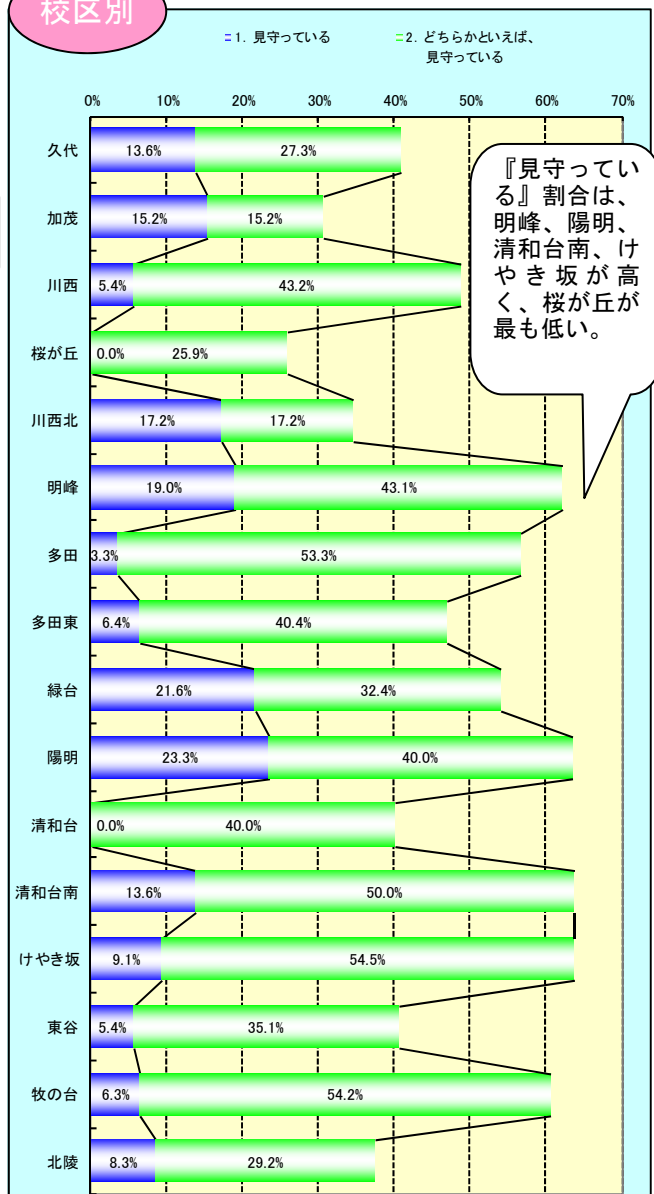
トレンド



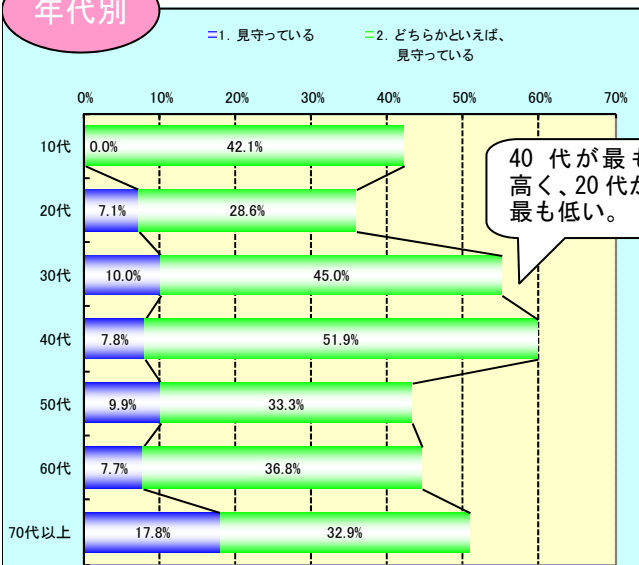
男女別



校区別

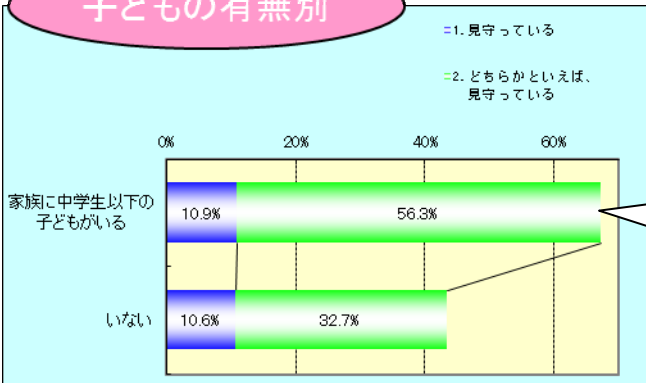


年代別



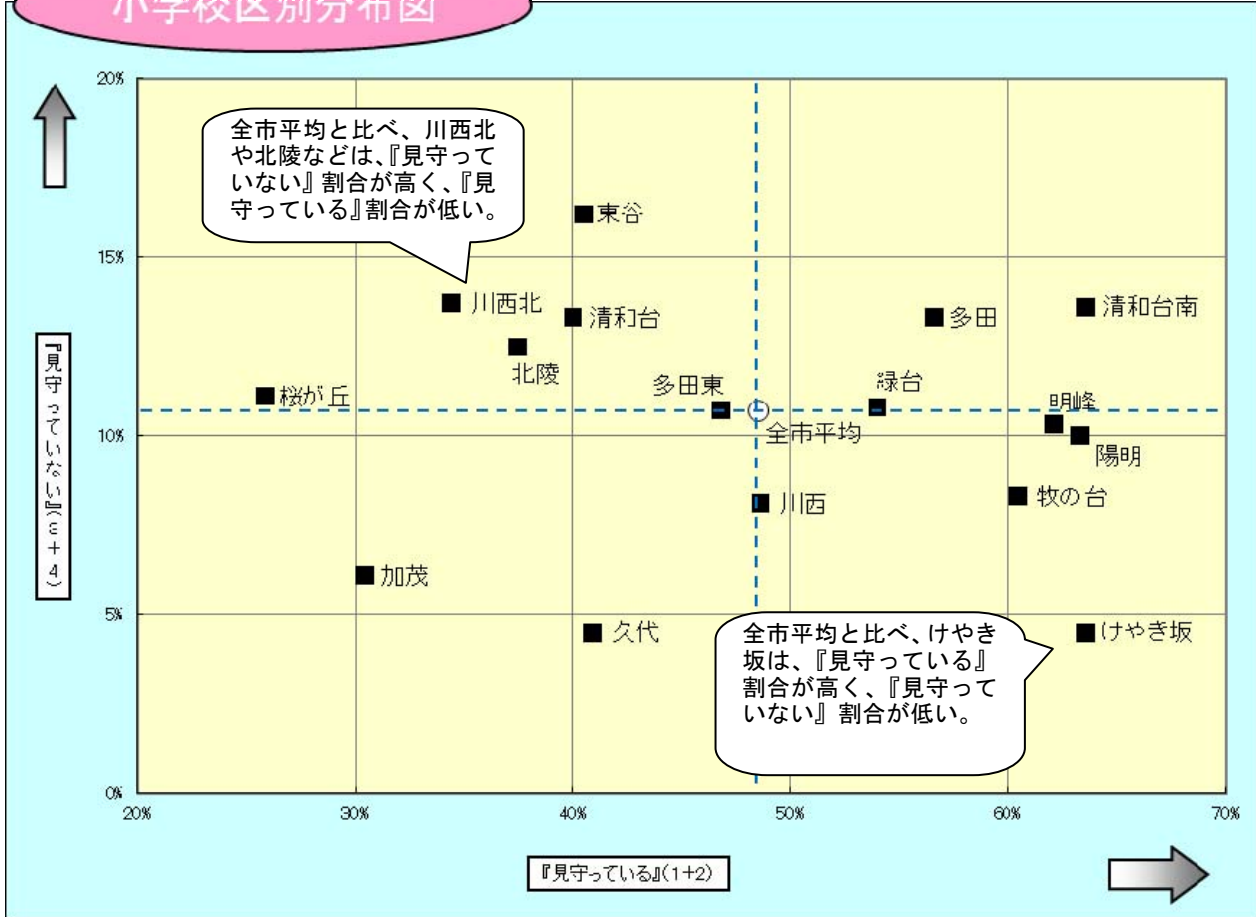
問13

子どもの有無別



『見守っている』割合は、子どもの家族がいる方が高い。

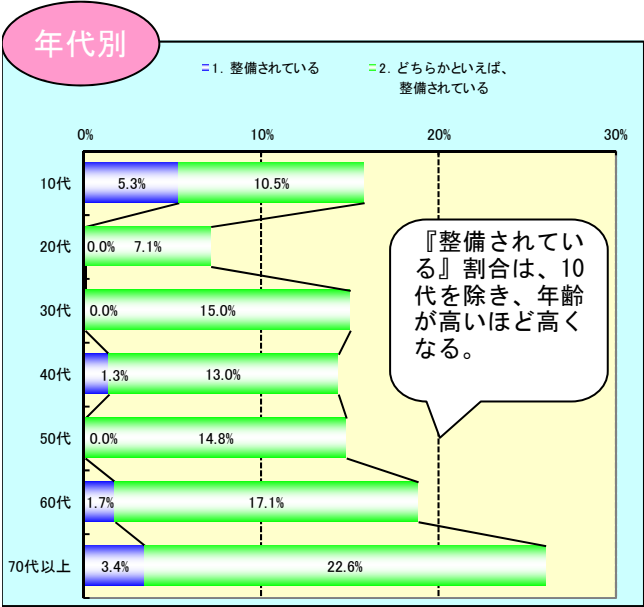
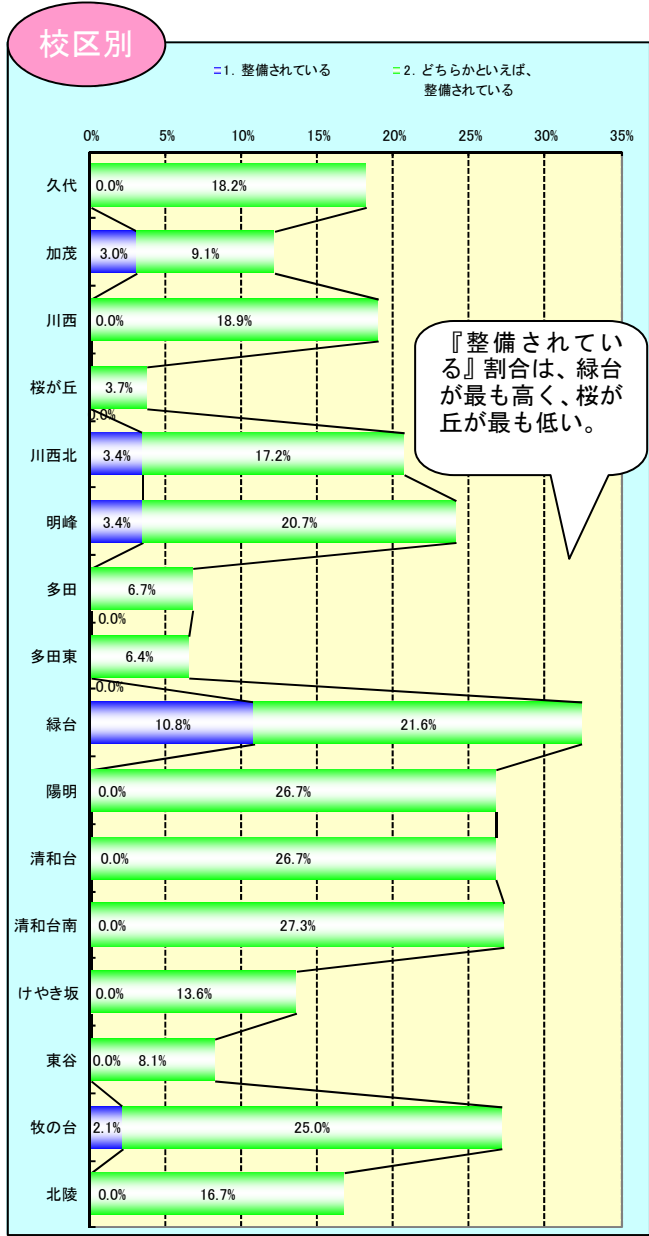
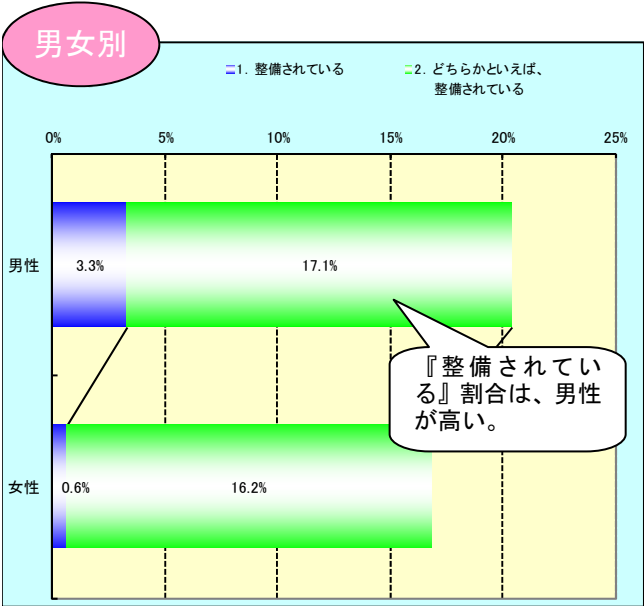
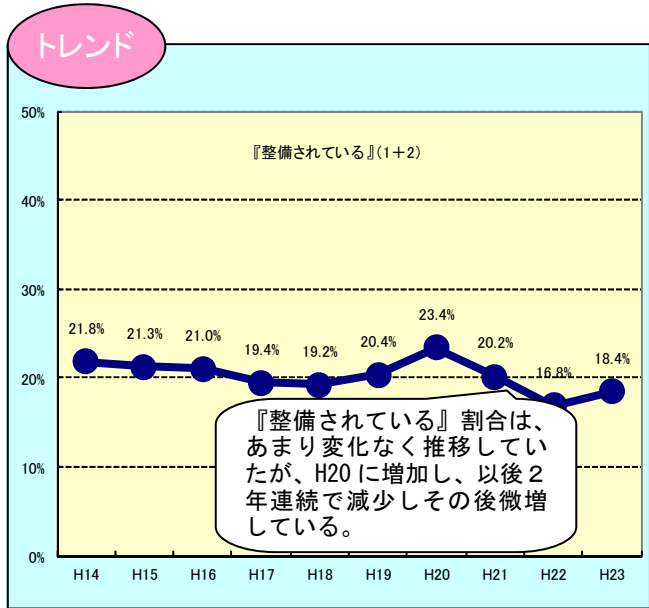
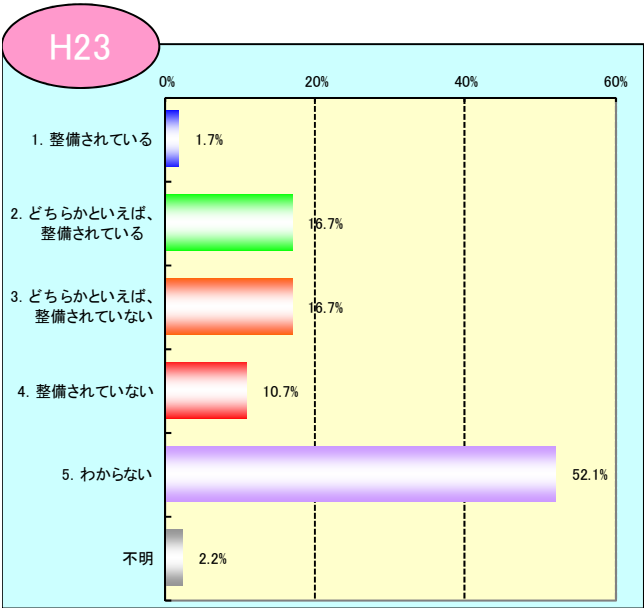
小学校区別分布図



全市平均と比べ、川西北や北陵などは、『見守っていない』割合が高く、『見守っている』割合が低い。

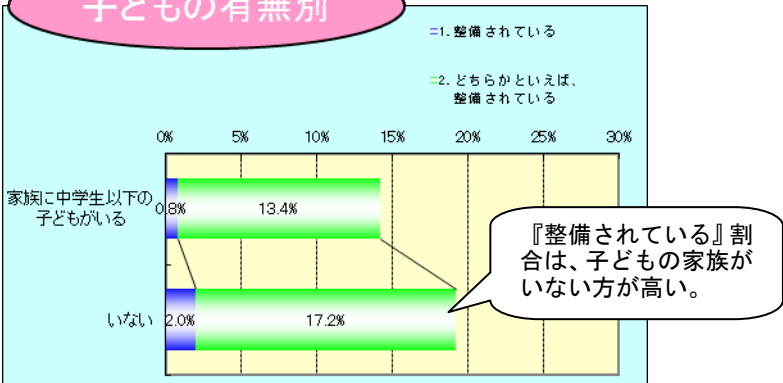
全市平均と比べ、けやき坂は、『見守っている』割合が高く、『見守っていない』割合が低い。

問14 ころの豊かさや生活の質の向上を図るため、学校教育以外の生涯を通じた学習(生涯学習)をしたいと思った時に、川西市にはそのための条件が整備されていますか。

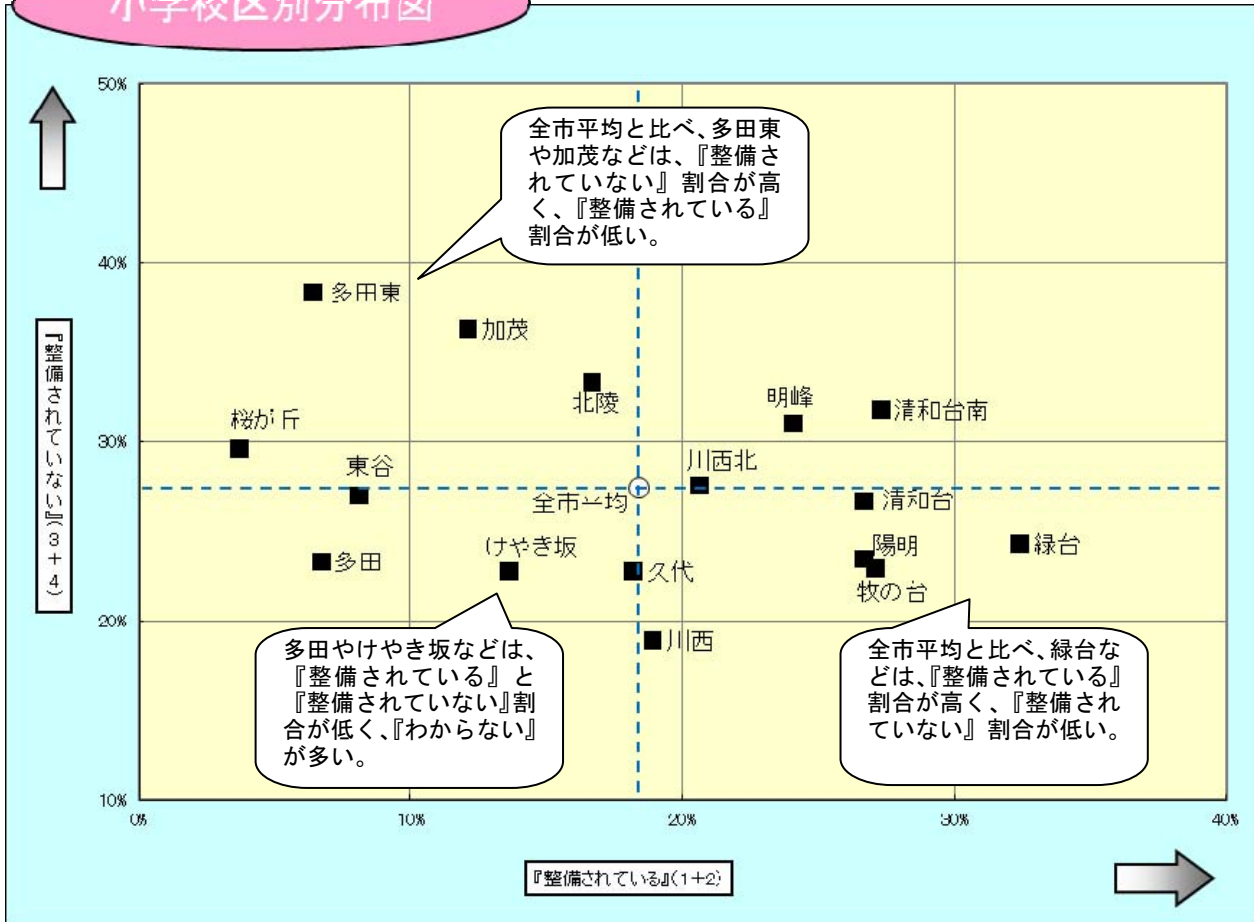


問14

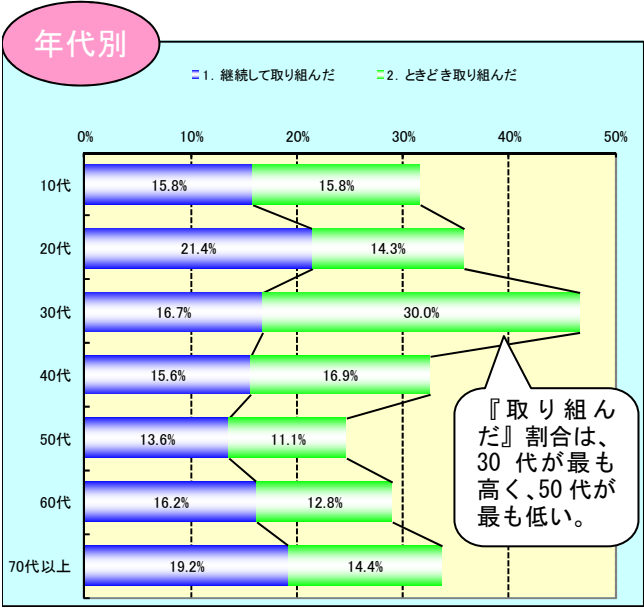
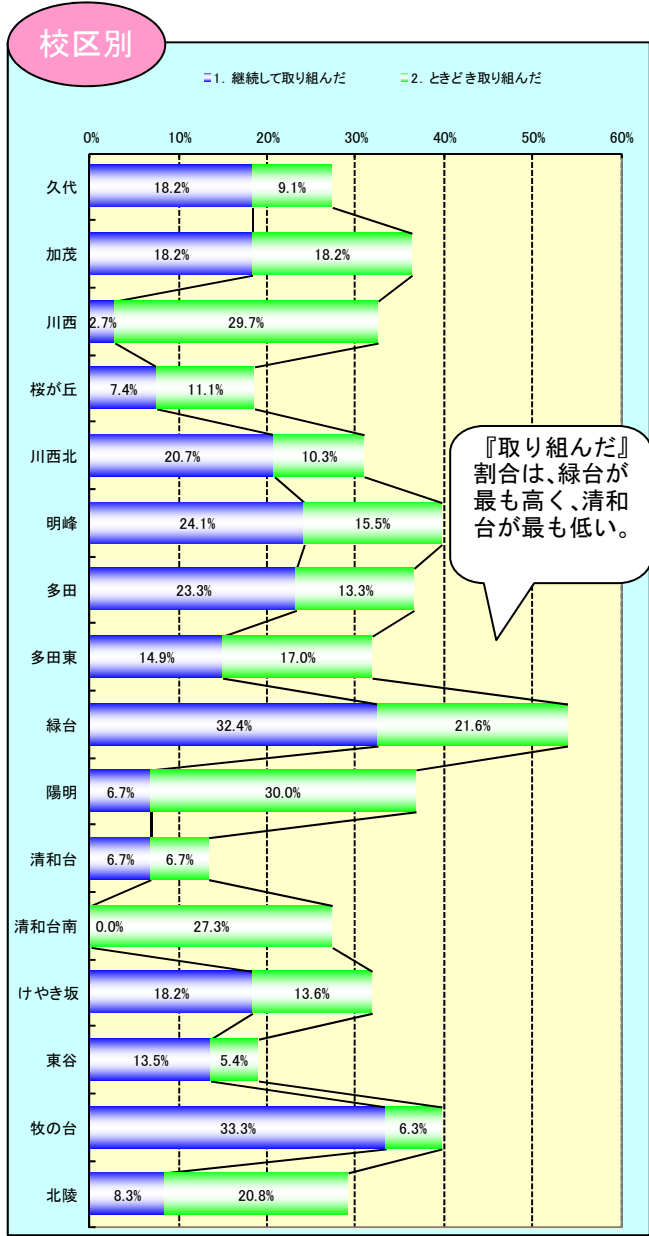
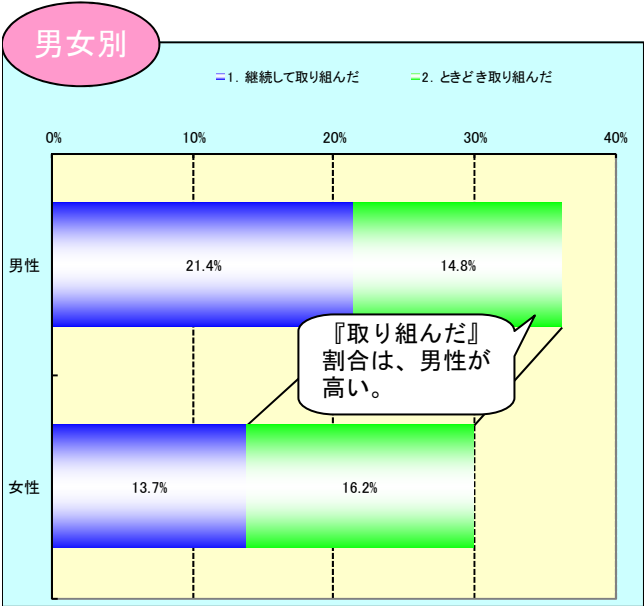
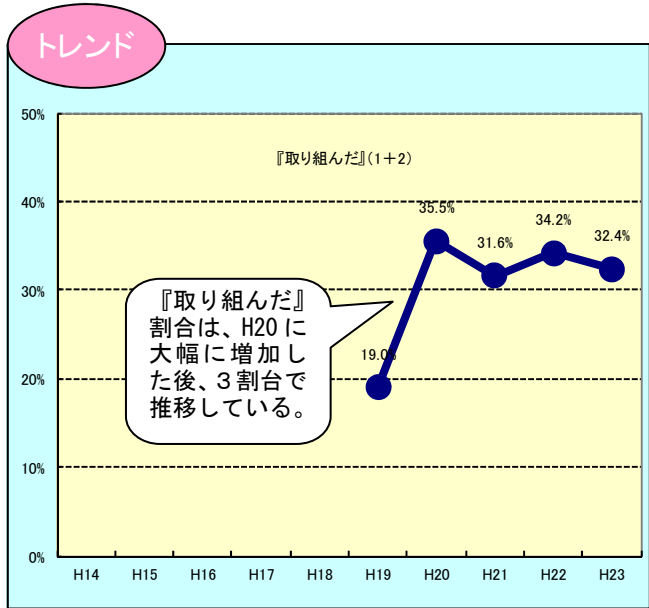
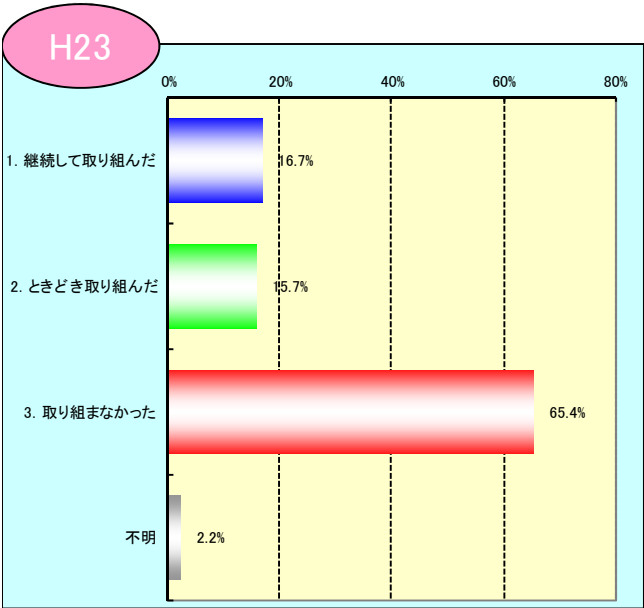
子どもの有無別



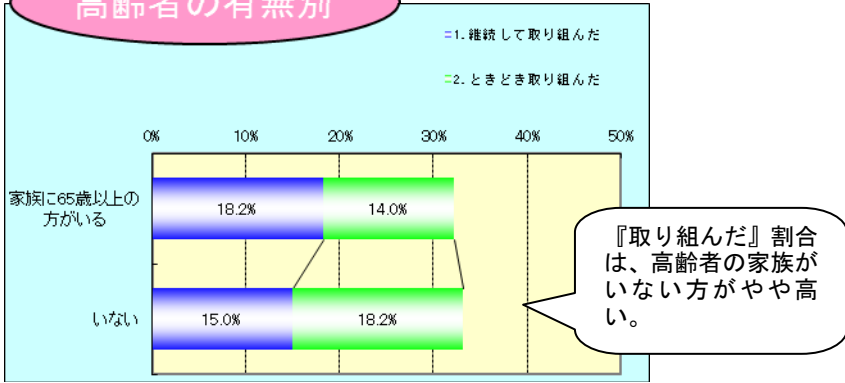
小学校区別分布図



問15 過去1年間に、生涯学習に取り組みましたか。



高齢者の有無別



小学校区別分布図

